ニ堪ヘサルカ或ハ取締役等ノ三分ノ二以上ノ協議ヲ以テ退任セシムルハ此例ニアラス

但副頭取ヲ選任スル時モ亦本條ニ準スヘシ尤モ此副頭取ハ頭取欠席スル時其事務ヲ代理スルマテニシテ平日ハ取締役ト同樣タルヘキ旨ヲ揭載スヘシ

第九條　頭取々締役等ハ銀行ノ事務ヲ取扱フヘキ支配人並ニ書記方出納方計算方簿記方等ノ諸役員ヲ選任シ又右ノ諸役員等ノ給料ヲ取定メ銀行ノ得失ヲ考ヘ同條ノ衆議ヲ經テ此役員等ヲ進退黜陟スルノ權アルヘシ

但頭取々締役等ハ又銀行ノ支配人以下諸役員等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引受人ヲ約シ過怠金ヲ豫定スルノ權アルヘシ

第十條　頭取々締役等ハ又向後ノ取締役選擧ノ法ヲ定メ此選擧ノ衆議ニ異論起ル時ハ之ヲ裁決スヘキ裁決役ヲ取定ムルノ權アルヘシ

第十一條　頭取々締役等ハ都テ銀行條例成規ノ旨趣ヲ遵奉シ適任ノ職務ヲ執行スルノ權アルヘシ尤モ條例成規ノ要旨ヲ遵奉シテ厚ク當銀行ノ便益ヲ謀リ萬般ノ事務ヲ注意處分スヘシ

但頭取々締役等ノ失職ハ國立銀行條例中ノ罰令ニ從テ各其責ニ任スヘシ

第十二條　頭取々締役等ハ當銀行ノ處務ニ緊要ナル申合セ規則ヲ議定スルノ權アルヘシ

總會ノ事

第十三條　第一次ノ總會ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ後何箇月以內ニ取締役取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第十四條　第二次以後ノ總會ハ毎年第一月何日ニ頭取々締役取極ムル所ノ場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

但取締役ノ選擧ハ毎年第一月ノ總會ニ於テ之ヲ決定施行スヘシ

第十五條　右總會ハ都テ定式總會ト稱シ其他ノ總會ハ都テ臨時總會ト稱スヘシ

第十六條　頭取々締役ハ何時ニテモ適當ナリト思考スルニ於テハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得ヘシ又人員十名ニ下ラス其所持ノ株數當銀行總株ノ五分一ニ下ラサル株主等ヨリ書面ヲ以テ臨時總會ノ請求アルニ於テハ何時ニテモ之ヲ招集セサルコトヲ得サルヘシ

但右請求書ニハ此總會ヲ要スル事件目的ヲ記載シ之ヲ本店ヘ差出スヘシ

第十七條　取締役ハ右請求書ヲ受取レハ直チニ此總會ノ招集ニ取掛ルヘシ

但取締役右請求書ヲ受取リシ日ヨリ七日以內ニ總會招集ノ手續ニ取掛ラサルトキハ其請求人等自身ニ是ヲ招集スルカ又ハ他ノ株主等ト相謀テ之ヲ招集スルコトヲ得ヘシ

第十八條　凡ソ總會ニ於テ其事務ヲ評議處分スルニ當テハ必ス株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之レニ出席スルニ非サレハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ著手スヘカラス

第十九條　若シ總會ノ刻限ヨリ一時間ヲ過キテ其定式ノ人員臨席セサリシトキハ之ヲ此會日ヨリ七日目ニ延會シ此會ト同一ナル場所刻限ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第二十條　定式臨時ノ別ナク總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ

第二十一條　若シ右ノ議長タルモノ總會ノ刻限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶臨席セサリシトキハ出席ノ株主中ヨリ一名ヲ選擧シテ之ヲ議長ト爲スヘシ

第二十二條　凡ソ總會ニ於テ事ヲ決スルニハ可否又ハ同意不同意ナル發言投票ノ數多キモノヲ以テスヘシ而シテ決議濟ミノ次第ヲ銀行ノ簿冊ニ登錄シ議長之ニ記名調印シ以テ後日ノ參觀證據ニ備ヘ置クヘシ

第二十三條　凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數相半スルトキハ議長ノ助說決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ

(此外總會ニ付キ緊要ナル箇條アラハ之ヲ揭載スヘシ)

株主發言投票ノ事

第二十四條　各株主ハ其所持ノ株數十箇迄ハ一株毎トニ一箇宛ノ發言投票ヲ爲スヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一箇宛ヲ增加スヘシ

第二十五條　發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癲其ノ他ノ事故アレハ)代人ニテモ苦シカラス尤モ代人ハ左ノ委任狀ヲ以テ其代人タラシムヘシ

(茲ニ委任狀ノ雛形ヲ揭ク)

第二十六條　當銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルコトヲ得ス又株式券狀ヲ當銀行ヘ借財ノ爲メ質入シタル株主ハ自身又ハ他人ノ代人ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

諸役員ノ事

第二十七條　當銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役　何人

內

頭取　一人

副頭取　何人若シ之アラハ)

支配人　何人

書記方　何人

出納方　何人

計算方　何人

簿記方　何人

(銀行ノ適宜ニヨリ此他役員ヲ設クルモノハ右ニ準シテ此ニ揭クヘシ)

但當銀行創立ノ際取締役ノ選任アル迄ハ發起人ヲ以テ取締役ト見做スヘシ

第二十八條　頭取々締役タル者ハ當銀行營業ノ全體ニ注意シ一切ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任スヘシ然レトモ新タニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス

第二十九條　支配人ハ頭取々締役ノ差圖ヲ受ケ各掛リノ事務ヲ引請ケ其擔當ノ制限ニ依リ頭取々締役ニ對シテ之ヲ調理スルノ責ニ任スヘシ

（右ノ外取締役ノ選任其他凡ソ銀行ニ於テ緊要ナリトスル事件ヲ茲ニ掲載スヘシ）

營業一般事務ノ事

第三十條　當銀行ノ營業取扱時間ハ本店及ヒ支店共定式（又ハ臨時休暇日ヲ除ク）ノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄タルヘシ

第三十一條　休業ハ例月何日及ヒ定式ノ祝日祭日ニ限ルヘシ

第三十二條　頭取々締役ノ衆議ヲ以テ決定シ當銀行ニ於テ用ユル所ノ本店（並ニ支店）ノ印章ハ即チ左ノ如シ

一寸八分四方

何々地名
何國立銀行印章

押切印

一寸

何國立銀行

何國立銀行械

（此外事務取扱ノ方法ニ關スル諸規則ヲ茲ニ掲載スヘシ）

利益金分配ノ事

（茲ニ銀行ノ利益金分配ノ方法其他ヲ掲載スヘシ）

諸計算ノ事

（茲ニ諸計算ニ於ケル諸簿冊並ニ檢閲其他ノ規則ヲ掲載スヘシ）

株主ヘ報告ノ事

（茲ニ銀行ヨリ株主等ヘ報告スルノ方法ヲ掲載スヘシ）

平穩鎖店ノ事

第三十三條　當銀行三分ノ二以上株主等ノ協議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ平穩ニ鎖店スルコトヲ得ヘシ尤モ其鎖店ノ手續ハ總テ國立銀行條例ヲ遵奉シテ之ヲ施行スヘシ

銀行定款更正ノ事

第三十四條　此定款ノ個條ハ當銀行株主等ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ何時ニテモ之ヲ更正加除スルヲ得ヘシ

右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候其證據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致候也

年號　年　月　日

各株主　連　名印

但此定款ハ株主等ノ協議ニヨリテ之ヲ草定シ追テ頭取支配人等定リシ上本紙正寫ノ

二通ヘ左ノ奥書ヲ加ヘ紙幣頭ヘ差出スヘシ

右何々國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通正寫一通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニテ慥カニ之ヲ銀行ニ藏置候依テ其證據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號 年 月 日

紙幣頭 何某殿

何々國立銀行支配人 姓 名 印
同 頭取 姓 名 印

銀行ヘ藏置クヘキ正寫ノ奥書ハ左ノ如シ

右ハ何々國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙並ニ正寫一通ツヽハ規則ノ通リ之ヲ紙幣寮ヘ差上候仍テ其證據トシテ私共自カラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號 年 月 日

何々國立銀行頭取 姓 名 印
同 支配人 姓 名 印

但創立證書ハ國立銀行ヲ創立スルニ於テ政府ト其銀行トノ約定書ニ比シキ緊要ノ書面ニシテ自ラ銀行定款ト異ナル者ナリ銀行定款ハ全ク銀行株主等ノ取定メタル社中ノ規則ニシテ政府ニ關係アルモノニ非ス故ニ銀行ノ役員ヨリ株主等ニ至ルマテ苟モ此別ヲ誤ルヘカラス

第七條 紙幣頭ハ右創立證書並ニ銀行定款ヲ相當ト思考スルニ於テハ其開業免狀ヲ其銀行ヘ下ケ渡スヘシ然ル後其銀行ハ始メテ名號ヲ公稱シ其業ヲ始ムルコトヲ得ヘシ

但紙幣頭ヨリ開業免狀ヲ下ケ渡サヽル內ハ創立ニ付テ差起ル事故及ヒ開業前緊要ナル件件ノ外決シテ銀行營業ノ事務ヲ取扱フヘカラス

第八條 右開業免狀ノ雛形ハ左ノ如シ

紙幣寮印刻

右ハ何々國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ當寮ニ受取リ其事ヲ承認シタル證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行ヘ下付スルモノ也

年號 年 月 日

紙幣寮之印

紙幣頭 姓 名 印

第何番

開業免狀

何々縣府管下第何大區何小區何町村ニ於テ創立スル何々國立銀行ヨリ差出タル創立證書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換ユル儀ニ付明治何年何月何日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ノ手續ヲ履行シタルコト分明ナルニ付今此開業免狀ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ國立銀行ノ業ヲ營ムコトヲ許可スルモノ也

右ノ證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ玆ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也

紙幣寮割印

年號 年 月 日

紙幣寮之印

紙幣頭 姓 名印

但右開業免狀ヲ得タル上ハ直チニ其事業ヲ經營スルヲ得ヘキニ付火盜ノ難ヲ防カンカ爲メ堅固ナル金庫ヲ建築スヘシ

株金募集ノ事

第九條 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ卽チ何府縣管下第何大區何小區何町村何番地ニ於テ何々ノ方法ヲ以テ國立銀行ヲ創立スルニ付其組合ニ加入セント欲スル人々ハ何月何日ニ何街何屋ニ來ルヘシ

第十條 當日ニ至ツテ右何街何屋ニ於テ發起人等簿冊ヲ開キ其銀行ノ組合ニ加入セント申込タル人々ノ姓名並ニ入金スヘキ金額ヲ其簿冊ニ書込ミ何月何日迄ニ入金スヘキ旨ヲ取定ムヘシ

第十一條 入金ノ當日ニ至テ入金者ハ各其簿冊ニ書込ミタル金額ヲ其發起人方ヘ持參スヘシ而シテ其發起人等ハ其金子引換ニ左ニ揭載セル入金受取證書ヲ其入金者ニ渡スヘシ但此書込ニテ集金ノ員額發起人等ノ見込員額ヨリ多トキハ割引ヲ以テ入金者ノ出金員額ヲ減少スルカ又ハ銀行ノ資本金額ヲ最初ノ見込ヨリ增加スルトモ其發起人等ノ存意ニ任スヘシ

半高入金受取證書

一 金何圓也

右ハ今般創立ノ何々國立銀行株式ノ內何株ノ半高一株ニ付何圓ノ割合ヲ以テ最初ノ入金トシテ書面ノ通正ニ落手致候右株式券狀ハ追テ總月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ爲後證如件

割印

年號 年 月 日

何某殿

何々國立銀行發起人

連 名印

資本金月賦入金ノ事

第十二條　國立銀行ノ資本金ハ開業前必ス其半高ヲ株主等ヨリ銀行ヘ入金シ殘リ半高ハ五ケ月ニ割合ヒ之ヲ入金スヘシ

例ヘハ資本金拾萬圓ノ銀行ナレハ

一月十五日開業迄ニ入金高　五萬圓
二月十五日迄ニ入金高　壹萬圓
三月十五日迄ニ入金高　壹萬圓
四月十五日迄ニ入金高　壹萬圓
五月十五日迄ニ入金高　壹萬圓
六月十五日迄ニ入金高　壹萬圓
合計拾萬圓

右ノ如ク開業ノ日ヨリ算シテ毎月入金スヘシ尤モ六ケ月前ニ悉ク入金シ又ハ開業前ニ資本金總額ヲ入金スルハ其銀行ノ適宜タルヘシ

但銀行ニ於テ右月賦入金ヲ請取ルトキハ左ノ請取證書ヲ株主ヘ渡スヘシ

第何回月賦入金請取證書

一　金何圓也

右ハ當何々國立銀行株式ノ内何番ヨリ何番マテ何株ノ第何回月賦入金壹株ニ付何

割印

圓ノ割合ヲ以テ書面ノ通正ニ落手致候右株式券狀ハ追テ總月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ爲後證如件

年號　年　月　日

何々國立銀行支配人
姓　名印
同　頭　取
姓　名印

銀行之印

何　某　殿

資本金集合高申牒ノ事

第十三條株主等ヨリ月賦金ヲ其割合ニ從ヒ入金スルトキハ其月賦總入金濟マテハ毎月其ノ銀行ヨリ資本金集合高屆書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金集合高屆書

何府縣管下第何大區何小區何町村ニ創立シタル何々國立銀行ノ資本金トシテ何萬何千圓ノ第何回月賦ヲ株主等ヨリ入金イタシ是迄ノ入金ニ加算シ總高何萬何千圓ト相成候也

年號　年　月　日

銀行之印

紙幣頭何某殿

資本金增減ノ事

第十四條　國立銀行ハ條例第四十條ニ準據シ其資本金額ヲ增加スルトキハ速ニ資本金增加證書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金增加證書

何府縣管下第何大區何小區何町村何々國立銀行

元株數並金額	增株數並金額	合計	住所	姓名
何株 何圓	何株 何圓	何株 何圓	何府縣管下第何大區何小區何町村何番地	何府縣華士族平民 何某
合何株 何圓	合何株 何圓	總計何株 何圓		

何々國立銀行支配人
姓名印
同頭取
姓名印

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金增加仕候現額書面ノ通相違無之候也

年號 年 月 日

銀行之印

紙幣頭何某殿

右ノ通相違無之候也

地方官廳之印

何々國立銀行支配人
姓名印
何頭取
姓名印

紙幣寮割印

右何々國立銀行資本金增加證書ヲ差出スニ付年號何年何月何日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル證據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號 年 月 日

紙幣寮之印

地方長官姓名印

紙幣頭姓名印

但右ノ書面ヲ差出サハ紙幣頭ハ奥書並ニ鈐印シテ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ銀行ハ此奥書ヲ得タル上ニテ公債證書ヲ預ケ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ニ取掛ルヘシ

第十五條　國立銀行ハ條例第四十二條ニ準據シ其資本金ヲ減少スルトキハ諸般ノ手續ヲ經テ後チ紙幣頭ヘ其資本金減少證書ヲ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但減少ノ手續ハ其銀行紙幣ヲ紙幣寮ニ返上シテ燒捨ノ手續ヲナシ其同額ノ公債證書ヲ紙幣頭ノ手ヲ經テ出納頭ヨリ取戻スヘシ而シテ其準備金モ亦之ニ準シテ減少スヘシ

資本金減少證書

何府縣管下第何大區何小區何町村何々國立銀行

減少株數並金額	殘株數並金額	住所	姓名
何株	何株	何府縣管下第何大區何小區	何府華士族平民
何圓	何圓	何町村何番地	何某
合何株	合何株		
何圓	何圓		

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金減少仕候高並ニ殘現額共書面ノ通相違無之候也

年號　年　月　日

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地方官廳之印　銀行之印

右何々國立銀行資本金減少證書差出スニ付年號何年何月何日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル證據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也

紙幣寮印割印

年號　年　月　日

紙幣寮之印

右增減證書ハ各二通宛ヲ紙幣寮ニ出シ其一通ヘハ前ノ文例ノ如ク紙幣頭奥書鈐印シテ其

何々國立銀行支配人

姓名印

同頭取

姓名印

地方長官姓名印

紙幣頭姓名印

銀行ヘ下付スヘシ

公債證書預方ノ事

第十六條　國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四朱以上利付ノ公債證書ヲ買入レ之ヲ出納頭ニ預クヘシ右ハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ノ抵當ナレハ其銀行ノ資本金額十分八ノ割合ニシテ卽チ銀行ニ受取ルヘキ銀行紙幣ト同額タルヘシ（條例第十八條二十二條ヲ參考スヘシ）

第十七條　出納頭ハ右公債證書ヲ領受シ直チニ假請取書ヲ其銀行ヘ下付シ追テ紙幣頭連名ノ本請取證書ヲ製シ其假請取書ト引換フヘシ

銀行紙幣注文ノ事

第十八條　國立銀行ハ右公債證書ノ請取書ヲ領受セハ其銀行ヨリ發行スヘキ銀行紙幣ノ請取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭ヘ申立ツヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ條例第四十六條ニ準據シテ此注文書ヲ差出スヘシ

銀行紙幣注文

何府縣管下第何大區何小區何町村ニ創立シタル何々國立銀行ニ於テ國立銀行條例ニ從ヒ何萬何千圓ノ銀行紙幣ヲ發行致シ度ニ付左ニ掲載スル種類員額ノ紙幣製造ノ上御渡被下度候也

銀行紙幣種類	枚數	金額
何圓	何枚	何圓

何圓	何枚	何圓
何圓	何枚	何圓
合	何枚	合 何圓

右銀行紙幣ノ抵當トシテ出納頭ニ預ケタル公債證書ノ現額ハ左ノ如シ

公債證書ノ種類金額枚數	利息	實價割合	金額
公債證書 何圓 何枚	何朱	百圓ニ付何圓	何圓
何圓 何枚	何朱	百圓ニ付何圓	何圓
		合計	何圓

右ノ趣謹テ奉願候也

年號　年　月　日

銀行之印

紙幣頭 何某殿

何々國立銀行支配人

姓　名印

同　頭取

姓　名印

第十九條　右銀行紙幣ノ注文書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ條例第四十七條ニ準據シ銀行紙幣ヲ製造シテ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ而シテ其銀行ハ之ヲ受取リテ後チ受取證書ヲ差出スヘシ

其文例ハ左ノ如シ

銀行紙幣請取證書

銀行紙幣種類	枚數	金額
何圓	何枚	何圓
何圓	何枚	何圓
合計	何枚	合計何圓

右ハ當何々國立銀行發行紙幣トシテ正ニ請取候也

年號　年　月　日

何々國立銀行支配人
姓　名　印
同　頭　取
姓　名　印

銀行之印

紙幣頭何某殿

銀行紙幣發行ノ事

第二十條　國立銀行ニテ右銀行紙幣ヲ領受スルニ於テハ頭取支配人ノ兩人一々其紙幣ノ表面ニ其役名及ヒ姓名ヲ記入シ其役印ヲ押捺シテ後チ之ヲ世上ニ發行スヘシ若シ其記入押捺ノ際損傷等ノモノアルニ於テハ更ニ其趣ヲ紙幣頭ニ申立テ其損傷紙幣ヲ納メテ引換ヲ乞フヘシ
但頭取支配人ハ其印影ヲ紙幣頭ヘ差出シ其紙幣押印ノ用肉ヲ紙幣寮ヨリ受取ルヘシ

損壞銀行紙幣引換方ノ事

第二十一條　國立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルトキハ條例第五十一條ニ準據シ頭取支配人ヨリ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣頭ニ差出シテ其引換ヲ請フヘシ
其文例ハ左ノ如シ
但記名押印ノ際損傷シタル銀行紙幣ノ引換モ亦此例ヲ以テ申立ツヘシ

記

銀行紙幣種類	枚數	金額
何圓	何枚	何圓
何圓	何枚	何圓

右ハ當銀行發行紙幣ノ內敗裂或ハ汚染ニテ通用難相成分書面ノ通差上候處相違無之候

右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ハ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ燒捨ノ立合可仕尤モ燒捨濟ノ上右同種同額ノ新銀行紙幣ヲ御渡シ可被下候此段奉願候也

年號　年　月　日

何々國立銀行支配人

姓　名印

同　頭　取

姓　名印

合計	何	枚	合計	何	圓

銀行之印

紙幣頭何某殿

紙幣頭ハ右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ請取ラハ其代リ新銀行紙幣ヲ以テ其銀行ニ下付スヘシ

第二十二條　紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ノ節ハ其趣ヲ銀行ヘ通達アルヘキニ付銀行ハ立會人ヲ紙幣寮ニ差出シ燒捨證書ニ記名調印スヘシ尤モ此燒捨證書ハ二通ニ認メ一通ハ紙幣寮ニ藏メ一通ハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ右ノ立會ニハ大藏省ニ關係ナキ人ヲ選ンテ銀行ヨリ差出スヘシ

但遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於テ豫テ燒捨ノ立會人ヲ賴置キ其姓名住所ハ之ヲ紙幣寮ニ屆置クヘシ

第二十三條　國立銀行ヨリ引換ノ爲メニ紙幣寮ニ差出スヘキ敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ハ五百圓以上ノ高タルヘシ其銀行紙幣ハ消印ヲ押シ種類ヲ分チ其封套ニ其金額ヲ記載シ第二十一條ニ揭クル所ノ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣寮ヘ差出スヘシ尤モ此紙幣引換ニ付往復運送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ

但數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ役員之ヲ連接シテ差出スヘシ

第二十四條　敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ引換ヲ請フ者アラハ銀行ノ役員ハ其金額ノ數位ニ注目檢查シテ之ヲ引換フヘシ尤モ敗裂シテ其紙片ノ全備セサルモノト雖モ大藏卿ノ印章アルニ於テハ之ヲ引換フヘシ

株式ノ事

第二十五條　國立銀行ノ株主タルモノハ其所持スル所ノ株金總入金濟トナリタル時ハ社印ヲ鈐シタル株式券狀ヲ一株ニ付一通宛領受スルノ權利アルヘシ其株式券狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第何々番

表面

大日本何地名何々國立銀行株式券狀

何府縣管下第何大區何小區何町村何番地何某殿儀大日本帝國政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シ且ツ當銀行ノ定款ヲ確守シ年號何年何月何日ヨリ我何々國立銀行株式ノ内何（百二十五）（十五）圓即チ壹株ノ持主タルコト相違無キ證據トシテ此株式券狀ニ當銀行ノ印章ヲ押捺シ之ヲ附與スルモノナリ

此株式券狀ヲ賣却讓與セント欲セハ當銀行ヘ持參スヘシ銀行ニ於テ至當ノ檢査ヲ遂ケ此券狀裏面ノ枠内ヘ頭取支配人ノ記名調印ノ上之ヲ差戻スヘシ

年號　年　月　日

何々國立銀行頭取
姓　名　印
同　支配人
姓　名　印

銀行之印（割印）

裏面

年號月日	賣讓渡人記名調印	買讓受人記名調印	頭取記名調印	支配人記名調印

第二十六條　若シ右株式券狀磨滅敗裂等ノコトアルトキハ其趣ヲ書面ニ認メ之カ書換ヲ乞フヘシ若シ又燒亡紛失スルコトアレハ其事實ヲ明瞭ニ認メ二人以上ノ證人ヲ立テ各之ニ記名調印シ更ニ新株式券狀ノ受取方ヲ乞フヘシ

但株式券狀ヲ書換フル等ノ時ハ銀行ヨリ差圖スル所ノ手數料ヲ拂フヘシ

株式券狀ノ事

第二十七條　株式ヲ賣買スルニハ之カ證書ヲ製シ賣渡人買受人ノ雙方相當ナル證人ノ眼前ニ於テ之ニ連印シ株式券狀ト共ニ之ヲ銀行ニ差出スヘシ而シテ頭取支配人ハ兼テ備置キタル株式賣買ノ簿冊ヘ其顚末ヲ登記シ其株式券狀ノ裏面ヘ記名調印シ併セテ右證書株式券狀ノ間ニ割印ヲ押捺シ再ヒ其株式券狀ヲ其人ヘ渡スヘシ但右ノ手數相濟ム迄ハ賣渡人ヲ以テ右株式ノ持主ト定ムヘシ

第二十八條　右株式賣買證書ノ文例ハ左ノ如シ

株式賣買證書

何々國立銀行株式ノ内第何番ヨリ何番迄（何株ノ株式何某茲ニ賣渡人ノ姓名ヲ掲ク）所持ノ分代金何々圓ニテ今般何某（茲ニ買受人ノ姓名ヲ掲ク）ヘ賣渡シ書面ノ金額受取渡相濟候處實正也然ル上ハ向後買受人ハ勿論其相續人後見人ニ於テモ之ヲ所持シ何某（賣渡人ノ姓名）所持中ト同樣ノ規約ヲ遵守スヘシ仍テ證書如件

年號　年　月　日

何府縣管下第何大區何小區何町村何番地
賣渡人 姓 名 印
何府縣管下第何大區何小區何町村何番地
買受人 姓 名 印
何府縣管下第何大區何小區何町村何番地
證 人 姓 名 印

何々國立銀行
御中

第二十九條　右株式賣買ノ簿冊ハ毎半季定式總會以前日數十五日ノ間ハ之ヲ閉鎖シ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告シテ一切其事ノ取扱ニ從事セサルコトヲ得ヘシ

株式讓與ノ事

第三十條　銀行株主ノ內死去スルモノアリテ其相續人若シクハ後見人ノ右株式ヲ讓受クヘキモノハ銀行ノ要求セル然ルヘキ證據ヲ差出シタル上ニテ共銀行ノ株主トシテ株主簿ノ記載ニ入ルコトヲ得ヘシ

株式沒入ノ事

第三十一條　銀行ノ株主等若シ株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ハ條例第三十二條第三十三條ニ準據シテ之カ處分ヲ爲スヘシ

總會ノ事

第三十二條　第一次ノ總會ハ銀行其開業免狀ヲ受ケシヨリ以後三ケ月以內ニ於テ其頭取取締役ノ取極メタル時日場所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第三十三條　第二次以後ノ總會ハ毎年第一月第七月(何レモ然ルヘキ日ニ於テ頭取取締役ノ取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第三十四條　凡ソ總會ヲ定式臨時ノ二樣ニ分チ前條ニ揭載シタル總會ヲ定式總會ト稱シ此總會ニ於テハ總勘定ニ於ケル正算指示ノ事並ニ利益金分配ノ事及ヒ頭取支配人ヨリ差出ス所ノ平常處務ノ顚末ヲ記載シタル書類ヲ稽查審案スル等ノ事ヲ施行スヘシ

其他ノ總會ヲ臨時總會ト稱シ臨時ニ起ル所ノ事件ヲ評議處分スヘシ

第三十五條　凡ソ總會ヲ執行ハントスルニ當ツテハ其取極メタル時日場所ヲ報告書ニ記載シ(若シ格段決議ニ付スヘキ事件アレハ其大旨ヲモ加載シ)少ナクトモ日數七日以前ニ於テ之ヲ總株主ヘ通知スヘシ而シテ右ノ如ク手數ヲ爲セシ上ハ假令ヒ株主ノ內右報告書ヲ受承セサル者アルトモ此總會ノ手順ニ於テハ旣ニ盡セシモノト爲スヘシ

但銀行ヨリ株主ヘ報告スルノ書類ハ之ヲ直達スルカ又ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスルトモ都テ銀行ノ便宜ニ任スヘシ

第三十六條　銀行ノ頭取取締役ニ於テ適當ナリト思考スルカ又ハ株主ノ人員十名ニ下ラスシテ其所持ノ株數總株ノ五分ノ一以上ニ及フモノヨリ之ヲ請求スルカニ於テハ何時ニテモ臨時總會ヲ執行フコトヲ得ヘシ

第三十七條　右株主等ノ請求ハ之ヲ書面ニ認メ此總會ヲ請求スル所以ノ目的事件ヲ詳載シ郵

便其他ノ手續ヲ以テ之ヲ頭取取締役ヘ送達スヘシ

第三十八條　頭取取締役ハ右請求書ヲ領受セハ直チニ其總會招集ノ事ニ取掛ルヘシ若シ取締役右請求ヲ承知セシ日ヨリ日數七日ノ內ニ招集ノ手續ヲナサヽルトキハ右請求人等自身ニ之ヲ招集スルカ又ハ他ノ株主等ト相謀テ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第三十九條　凡ソ總會ニ於テ事務ヲ評議處分スルニ當ツテハ必ス株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之ニ出席スルニ非サレハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ評議處分スヘカラス

第四十條　凡ソ總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取之ニ任スヘシ

第四十一條　右議長若シ會集スヘキ刻限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶ホ臨席セサリシトキハ出席株主等ノ內ヨリ一人ヲ公選シ以テ議長ト爲スコトヲ得ヘシ

第四十二條　凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニハ(可否又ハ同意不同意ノ發言若シクハ投票ニテモ其說ノ多數ニ因リ以テ之ヲ決定シ其次第ヲ簿冊ニ登錄シ併セテ其決議濟ノ旨ヲ加載シ其節ノ議長之ニ檢印シ以テ後日ノ參觀證據ニ備ヘ置クヘシ

第四十三條　凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニ若シ發言投票ノ數相半ハスルトキハ議長ノ助說若シクハ決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ

株主發言投票ノ事

第四十四條　銀行ノ株主等ハ各其所持セル株數十個迄ハ一株毎ニ一個宛ノ發言投票ヲナスヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎ニ一個宛ヲ增加シ百一株以上ハ十株毎ニ一個宛ヲ增加スル

コトヽ定ムヘシ

第四十五條　凡ソ銀行ノ役員タルモノハ他人ノ代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スル事ヲ得ス又株式券狀ヲ借財ノ爲メ其銀行ヘ質入シタルモノハ總會ニ於テ自身又ハ他人ノ名代ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

第四十六條　發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癲其他ノ事故アルニ於テハ代人何レモ勝手タルヘシ尤モ代人ハ其銀行ノ株主中ノ者ニ限リ之ニ委任狀ヲ與ヘ以テ之ヲ差出スヘシ若シ其代人ヲ差出サスシテ決議ノ後如何ナル異議アルトモ一切之ヲ申出ツルコトヲ得サルヘシ

第四十七條　右代人委任狀ノ雛形ハ左ノ如シ

委任狀ノ事

年號何年何月何日何々國立銀行ノ定式又ハ臨時)總會及ヒ其延會ニ於テ何某ヲ拙者代人トシテ發言投票爲致候仍テ委任狀如件

年號　年　月　日

何々國立銀行

御中

何々國立銀行株主

姓　　名　印

諸役員ノ事

第四十八條　國立銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役　何人

內

頭　取　一人

副頭取　何人(若シ之アラハ)

支配人　何人

書記方　何人

出納方　何人

計算方　何人

簿記方　何人

但右ノ如ク制定スト雖モ銀行ノ便宜ニ依リ之ヲ廢置兼攝シ若シクハ其他ノ役員ヲ設置スルヲ得ヘシ尤モ取締役ノ人員ハ(頭取副頭取ヲ加ヘ)都合五名ヨリ減少スヘカラス故ニ若シ右ノ定員ヨリ缺クルトキハ株主一同ノ協議ヲ以テ速カニ其缺ヲ補フヘシ

第四十九條　國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ其銀行營業ノ全體ニ注意シ實際ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任スヘシ然レトモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ之ヲ施行スルヲ得ス

第五十條　取締役ハ同僚中ヨリ(入札公選ヲ以テ)其人ヲ選擧シテ頭取(又ハ副頭取)ト爲スヘシ此頭取ハ銀行ノ事務ヲ總判シ及ヒ會議ノ席ニ於テ議長ノ職ニ任スヘシ

但副頭取ハ頭取缺席スルトキ其事務ヲ代理スル迄ニシテ平日ハ取締役ト同樣ノ職任タルヘシ

第五十一條　左ニ揭ケシ人々ハ取締役タルヲ得ヘカラス

第一　銀行ニ於テ參拾株又ハ六拾株以上ヲ所持セサル株主

但資本金拾萬圓以上ニシテ一株百圓ノ銀行ナレハ三拾株一株五拾圓ノ銀行ナレハ六拾株一株貳拾五圓ノ銀行ナレハ參拾株一株五拾圓未滿五萬圓以上ニシテ一株五拾圓ノ銀行ナレハ六拾株ノ割合タルヘシ

第二　一旦破產ニ遇ヒシ株主

第五十二條　取締役ノ人員三分ノ二ハ本店設立ノ地方ニ於テ少ナクトモ一箇年間住居セシモノタルヘシ

第五十三條　各取締役ハ其所持ノ株式券狀參拾個又ハ六拾個前第五十一條中第一項ニ揭クル所ノ割合ヲ其銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ證書ヲ請取リ置キ右取締役ノ奉職中ハ決シテ之ヲ引出ズコトヲ得サルヘシ

第五十四條　頭取取締役タリトモ株主一同ノ協議ニテ取極メタル給料旅費及ヒ賞與金手當竝ニ株主ノ場ニテ受取ルヘキ分配利益金ノ外自餘ノ所得ヲ受クルコトヲ得サルヘシ

第五十五條　取締役ノ選擧ハ定式總會ニ於テ株主一同ノ投票ヲ以テ之ヲ選擧スヘシ尤モ不時ニ缺員アルトキハ臨時總會ニ於テ之ヲ選擧スヘシ

第五十六條　右ノ總會ニ於テ選擧セラルヽ所ノ取締役ハ直チニ誓詞二通ヲ認メ其地方長官ノ

面前ニ於テ調印シ本紙ハ紙幣頭ニ差出シ寫一通ハ其銀行ニ藏メ置クヘシ其文例ハ左ノ如シ

頭取 取締役ノ誓詞

何府縣管下第何大區何小區何町村ニ於テ創立シタル何々國立銀行ノ取締役何某謹テ左ノ條々ヲ誓フ

私儀ハ何府縣何華士族平民ニシテ何府縣管下第何大區何小區何町村ニ居住イタスニ相違無之事

當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私關係ノ職掌ハ忠實ニ取扱フヘキ事

私在職中國立銀行條例成規ノ旨趣ハ一個條タリトモ決シテ犯ス間敷又他人ヲシテ犯サセ間敷事

國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ私儀當銀行資本金中ノ三十六十株ハ自力ヲ以テ所持スルニ相違無之事

右ノ株式券狀ハ國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ當銀行ヘ預ケ置キ在職中ハ決シテ引出ス間敷候事

何府縣管下第何大區何小區何町村何々國立銀行頭取 取締役

姓 名 印

年號何年何月何日書面ノ者余カ面前ニ於テ調印シ誓約致シ候事相違無之候也

但此誓詞ハ取締役等各通タルヘシ

第五十七條 銀行ノ頭取支配人ノ選擧サレタル時ハ新任ノ印影ヲ添ヘ上任ノ報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但最初選擧ノ時差出ス所ノ上任報告ニハ文例中元役ヲ除クハ勿論タルヘシ

地方官廳之印

地方長官 姓 名 印

上任報告

當何月何日何某儀ハ當國立銀行ノ頭取ニ選ハレ何某儀ハ支配人ニ命セラレ其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

年號 年 月 日

銀行之印

紙幣頭何某殿

何々國立銀行

元支配人 姓 名 印

元頭取 姓 名 印

新支配人 姓 名 印

新頭取 姓 名 印

用紙美濃竪七寸幅二寸

年號　年　月　日何某代リ
何役選擧

銀行之印　印鑑　小印

何府縣華士族平民
姓　名

何年何月

宿所

第五十八條　頭取取締役カ其職務ヲ擧ル爲メ少クトモ毎月三度以上同僚中ノ集會ヲ爲シ以テ其事務ヲ評議處分スルコトヲ得ヘシ而シテ此集會ノ體裁方法ハ總會ノ手續ニ準據シ銀行ニ於テ然ルヘキ規程ヲ立テ以テ之ニ從事スヘシ

第五十九條　頭取取締役在職ノ年限ハ一期必ス滿一ケ年タルヘシ而シテ退役放免等ノ外ハ奉職ノ年限中必ス勤仕スルモノト爲スヘシ

但頭取取締役ノ在職年限ハ本條揭クル所ノ如シト雖モ其滿期ニ至リ更ニ入札公選ヲ以テ重年上任スルヲ得ヘシ尤モ重年上任シタルトキハ第五十六條第五十七條ニ準據シ更ニ誓詞並ニ上任報告ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第六十條　支配人以下ノ選擧並ニ給料等ハ頭取取締役ノ意見ニ依リ之ヲ取極ムヘシ尤モ支配人ハ銀行ノ事業ヲ處分スル重任ナレハ株主ニ非サル者ニテモ須ラク熟練ノ人ヲ選フヘシ且ツ其他ノ役員モ亦他人ヲ雇入ルヽハ其銀行ノ便宜ニ任スヘシ

社中申合規則ノ事

第六十一條　頭取取締役ハ其同僚ノ衆議ヲ盡シ利益金分配ノ手續諸役員ノ權限分課給料旅費ノ定則及ヒ其褒貶進退其他一切緊要ナル事件ヲ適宜揭載シタル社中申合規則ヲ議定スヘシ尤モ右申合規則ハ條例成規ノ旨趣ニ背戻セサルハ勿論タリト雖モ其社中ノ申合ニ止マルヲ以テ更ニ紙幣頭ヘ差出スニ及ハサルヘシ

利益金分配ノ事

第六十二條　頭取取締役ハ(株主ノ總會ヲ經テ)銀行ノ利益金ヲ株主銘々所持ノ株高ニ應シテ割渡スヘキ旨ヲ總株主ヘ報知スヘシ

諸計算ノ事

第六十三條　銀行ノ出納其他一切ノ計算ニ關スル諸簿冊ハ紙幣頭差圖スル所ノ書式ニ從ヒ明細嚴肅ニ記入スヘシ

第六十四條　頭取取締役ハ每半季考課狀及ヒ出納ノ明細書ヲ製シ總會ニ於テ之ヲ株主一同ヘ明示スヘシ

諸願伺届等差出方ノ事

第六十五條　銀行ノ諸願伺届報告其他凡ソ諸官廳ヘ差出スヘキ一切ノ文書ハ必ス本紙一通正寫一通都合二通宛タルヘシ

國立銀行報告ノ事

第六十六條　國立銀行ハ銀行條例第七十七條ニ準據シ紙幣頭差圖スル所ノ書式ニ從ヒ半季及

ヒ毎月其銀行營業ノ實際報告ヲ製シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ其報告ノ種類ハ左ノ如シ

但右報告用紙ハ相當ノ代價ヲ以テ紙幣寮ヨリ拂下クヘシ

第一　銀行半季考課狀

第二　銀行半季實際報告

第三　銀行半季利益金割合報告

第四　銀行半季平均高報告

第五　銀行年中平均高報告

第六　株主姓名表

右六種ノ報告ハ第一月十日第七月十日マテニ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤モ遠隔ノ地方ニ本店又ハ支店ヲ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ

第七　銀行本店毎月實際報告

第八　銀行支店毎月實際報告

右二種ノ報告ハ毎月五日マテニ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤モ遠隔ノ地方ニ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ但支店毎月報告ハ其本店ヲ經ルニ及ハス其支店ヨリ直テニ紙幣頭ヘ差出スヘシ右ノ外紙幣頭ノ考案ニヨリ臨時實際ノ報告ヲ差出サシムルコトアルヘシ尤モ右臨時報告ノ差出方ハ其時々紙幣頭ヨリ命スヘシ

右之通相定候事

明治九年八月一日

太政官

今試ニ新舊條例ヲ對照シテ以テ其ノ最モ異ナル條項ヲ左ニ揭ケン

明治六年舊條例

第五條第一節

百圓ヲ以テ一株トナス

第六條第一節

人口拾萬人以上ノ地ニ於テハ五拾萬圓以下ノ資本ヲ以テ創立スルヲ許サス拾萬人未滿壹萬人以上ノ地ナレハ貳拾萬圓ニテモ許スヘシ壹萬人未滿參千人以上ノ地ナレハ五萬圓ニテモ許スコトアリ

第六條第三節

紙幣抵當公債證書ハ元金高十分ノ六ヲ納メシム

同第十六節

紙幣引當トシテ納ムヘキ公債證書ハ金札引換公債證書ニ限ルヘシ

明治九年新條例

第三章第二十八條

百圓又ハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株トナス但資本拾萬圓以上ハ百圓又ハ五拾圓拾萬圓未滿ハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ一株トス

第二章第十七條

資本拾萬圓ヲ下ル可ラス尤モ拾萬人以上ノ地ナレハ貳拾萬圓未滿ニテハ許サス但時宜ニヨリ五萬圓以上拾萬圓未滿ニテモ許スコトアリ

第二章第十八條

資本十分ノ八ヲ公債證書ニテ實價ヲ以テ之ヲ納メシム尤モ公債證書ハ四朱以上利付ノ者ニ限ルヘシ

第六條第五節

銀行元金高ノ十分ノ四ハ正金ヲ以テ紙幣引換準備ニ充ツヘシ

同第十五節

紙幣發行ノ際ニ於テハ常ニ其三分ノ二ノ割合ヲ以テ準備正金ヲ現在スルヲ定度トス

第八條第二節

紙幣製造ノ入費ハ紙幣寮ノ費用タルヘシ

第十一條第七節

銀行ハ貸付金利息及ヒ爲替手形約束手形荷爲替兩換等ノ打歩ハ可成丈之ヲ廉價ニスヘシ

以テ二者其甚タシキ差異アルヲ知ルニ足ルヘク而シテ改正條例ノ眼目ハ第二章第十八條及ヒ第二章第二十條ニアリト云フテ可ナリ卽チ此改正ニ依リテ國立銀行ハ四朱利付以上ノ公債證書ナルトキハ其種類ノ何タルヲ問ハス實價資本金ノ十分ノ八ニ當ルモノヲ大藏省ニ預ケ入レ之ヲ抵當トシテ同額ノ紙幣ヲ發行スルコトヲ得ヘク而シテ其ノ引換準備ハ通貨(卽チ不換紙幣ヲ以テ發行紙幣ノ四分ノ一ヲ備ヘ置クノ制トナレリ故ニ從來ノ正貨兌換ノ制度ハ玆ニ全ク廢棄ニ歸シ實

第二章第二十條

資本金額十分ノ二ヲ通貨ヲ以テ積置キ紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ故ニ紙幣發行ノ際ニ於テハ常ニ其流通高ノ四分ノ一ノ割合ヲ以テ準備金ヲ現存スルヲ定度トス

第四章第四十五條

紙幣製造ノ入費ハ其現費ヲ以テ其銀行ヨリ納ムヘシ

第五章第五十七條

貸付金ノ利息ハ年一割(元金十分ノ一)ヨリ超過スヘカラス

際不換銀行紙幣ノ制ヲ立テタルモノトス然レトモ改正條例ハ舊條例ニ比シテ國立銀行ノ創立ニ非常ノ便利ヲ與ヘタリ今其主ナルモノヲ擧ケン

(第一) 舊條例ニ從フ時ハ例ヘハ百萬圓ノ株金ヲ以テ銀行事業ヲ營ムニ於テ先ツ六拾萬圓ヲ政府ニ上納シテ同額ノ六分利付金札引換公債證書ヲ下付セラレ然ル後之ヲ抵當トシテ同額ノ銀行紙幣ヲ發行スルモノトス故ニ銀行紙幣發行ノ利益ハ右六拾萬圓ノ公債證書ニ對スル六分利子ト六拾萬圓ノ紙幣運轉ヨリ生スル利子トヲ合シタルモノニ過キサルナリ然ルニ改正條例ニ從フトキハ百萬圓ノ株金中八拾萬圓ヲ以テ先ツ四朱以上ノ公債證書ヲ可成的廉價ニ買ヒ集メ之ヲ紙幣頭ノ指定シタル相場ヲ以テ之ヲ抵當トシテ政府ニ上納シ八拾萬圓ノ紙幣ヲ發行スヘシ故ニ銀行紙幣發行ノ利益ハ假ニ年八朱利付秩祿公債證書ノ相場額面百圓ニ付八拾八圓略當時ノ時價トシ八拾萬圓ヲ以テ買入ルヘキ額九拾萬九千九百壹圓ニ上リ此額面ニ對スル年八朱ノ利子ト銀行紙幣八拾萬圓ノ運轉ヨリ生スル利子トヲ合シタルモノトナルヘシ

(第二) 改正條例ニ從ヒ紙幣ヲ發行スルトキハ金貨ノ騰貴何程大ナルモ爲ニ銀行紙幣ノ流通ヲ杜塞スルノ憂アルナク政府發行ノ紙幣ト同一ノ信用ヲ以テ世上ニ流通シ銀行ハ少シモ交換ニ苦シムナク安全ニ其紙幣ヲ發行シテ非常ノ利益ヲ收ムルヲ得可キナリ

第二項　明治十年以後國立銀行條例中改正

明治十年十一月十七日銀行課長岩崎小二郎ハ國立銀行ハ紙幣發行ノ特權ヲ有スルモノニシテ濫リニ之カ開業ヲ許可スヘカラサルヲ以テ速ニ通常銀行條例成規ヲ編成シ銀行創立出願中國立銀

行ノ特典ヲ附與スヘカラサル者ハ通常銀行條例ニ從ヒ開業セシメ以テ多少政府ノ監護ヲ加ヘ其信用ヲ鞏固ナラシメン事ヲ大藏卿ニ建議シ此建議ハ速ニ採用セラレタリト雖モ後終ニ通常銀行條例ノ發布ヲ見スシテ止ミタリ次テ同年十一月二十九日大藏卿ハ最モ要用ナル追加ヲ改正條例ニ爲サンコトヲ太政官ニ稟議シタリ蓋シ合式ノ出願ニ對シ自由ニ之カ取捨ヲナストキハ往々人民ノ疑惑ヲ生スヘキヲ以テ全國ノ國立銀行ヨリ發行セシムヘキ紙幣ノ總額ヲ參千四百四拾貳萬圓餘ト豫定シ之ヲ各地方ノ商況ニ由リテ分割シ置キ國立銀行ノ創立ヲ出願スル者アレハ大藏卿ニ於テ其資本金額ヲ適宜ニ節減セシメ或ハ發行紙幣ノ額ヲ十分ノ八ヨリ減少シ或ハ全ク創立ヲ許可セサル旨ヲ明示スルニアリ其稟議左ノ如シ

昨九年國立銀行條例御改正以來銀行創立願出候者陸續有之卽チ今旣ニ許可セシ者三十四ニシテ未タ許可セサル者三十三通計六十有餘ニ至レリ加フルニ目下各地方ニ於テ尙創立ヲ希望シ協議イタシ居候哉ノモノ許多ニシテ其數殆ント豫定スヘカラサルノ形勢ニ有之然ルニ國立銀行ノ儀ハ各自紙幣ヲ發行セシメ候モノニ付能ク其流融ノ度ヲ量リ豫シメ其發行額ヲ制限セサルトキハ遂ニ如何ナル弊害ヲ釀成スルモ難測就テハ差向資本金四千萬圓ヲ標準トシ之ヲ全國（琉球藩ヲ除クノ外）人口稅額ニ控除シ大凡別紙ノ通相定メ置申度然ル處銀行條例中ニ右紙幣ノ額ヲ制限スルノ明文無之然ルヲ突然制限シ創立ヲ相拒ミ候テハ各地方發起人ノ迷惑スルハ言ヲ待タス亦公平至當ノ處置ニモ有之間敷且ツ地方ニヨリ旣ニ創立願出ツルノ多キハ六七ケ所少ナキモ猶三四ケ所ニ至リシ分不勘然ルニ丙丁ハ其出願戊己ヨリ先ナルモ其場所ヲ問ハス旣ニ許可ナシタル甲乙ト市街ヲ同フスル歟又ハ遠キモ二三里ニ過キス而シテ戊己ハ其出願固ヨリ丙丁ヨリ後チナレトモ其場所ニ至リテハ甲乙ヲ去ルコト或ハ二十里乃至三十里ニシテ且ツ商業物產ノ如キモ遙ニ丙丁ニ優ルモノ有之右等ノ類ハ總テ出願ノ前後ニ拘ハラス地方ノ便否ヲ量リ丙丁ヲ止メテ戊己ヲ許可イタシ度就テハ是亦其趣旨ヲ豫シメ相示シ置キ不申候テハ人民ノ苦情百端ナルハ必然ニ付旁〻以テ國立銀行條例ヘ右ノ趣至急御追加ノ布告相成候樣致度依テ御布告案トモ相添ヘ此段相伺候也

（別紙）

各府縣人口及ヒ租稅高ニ割合タル銀行資本及ヒ右資本ニ對シテ發行スヘキ銀行紙幣制限高調

資本金額	銀行紙幣額	府縣名
一參拾九萬圓	參拾壹萬貳千圓	鹿兒島縣
一參拾五萬圓	貳拾八萬圓	熊本縣
一貳拾五萬圓	貳拾萬圓	大分縣
一參拾七萬圓	貳拾九萬六千圓	福岡縣
一四拾萬圓	參拾貳萬圓	長崎縣
計金百七拾六萬圓	計百四拾萬八千圓	
一參拾九萬圓	參拾壹萬貳千圓	高知縣
一四拾五萬圓	參拾六萬圓	愛媛縣

一百五萬圓	一百萬圓	東京府	一萬八千圓	一萬八千圓	一萬八千圓	一萬八千圓	一萬八千圓	一萬八千圓	一萬八千圓
一百萬圓	一八拾萬圓	神奈川縣	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬二千圓	一萬二千圓	一萬二千圓	一萬二千圓
一參拾萬圓	一六拾萬圓	埼玉縣	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	一萬千圓	一萬千圓	一萬千圓	一萬千圓
一貳拾萬圓	一四拾萬圓	群馬縣	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	九千圓	九千圓	九千圓	九千圓
一壹拾萬圓	一貳拾萬圓	栃木縣	一萬千圓	九千圓	八千圓	八千圓	八千圓	八千圓	八千圓
計金百拾萬圓	計金百四拾萬圓	計	計金一萬八千圓	計金一萬六千圓	計金一萬四千圓	計金一萬二千圓	計金一萬千圓	計金九千圓	計金八千圓
一參拾萬圓	一貳拾八萬圓	千葉縣	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓
一貳拾萬圓	一四拾萬圓	山梨縣	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓	六千圓
計金八拾萬圓	計金一百四拾萬圓	計	計金一萬六千圓	計金一萬四千圓	計金一萬二千圓	計金一萬千圓	計金九千圓	計金八千圓	計金七千圓
一參拾萬圓	一六拾萬圓	靜岡縣	一萬八千圓	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓
一貳拾萬圓	一八拾萬圓	愛知縣	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓
一壹拾萬圓	一貳拾萬圓	岐阜縣	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓	六千圓
計金一百拾萬圓	計金一百四拾萬圓	計	計金一萬八千圓	計金一萬六千圓	計金一萬四千圓	計金一萬二千圓	計金一萬千圓	計金九千圓	計金八千圓
一參拾萬圓	一六拾萬圓	三重縣	一萬八千圓	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓
一貳拾萬圓	一八拾萬圓	愛知縣	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓
一壹拾萬圓	一貳拾萬圓	滋賀縣	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓	六千圓
計金一百拾萬圓	計金一百四拾萬圓	計	計金一萬六千圓	計金一萬四千圓	計金一萬二千圓	計金一萬千圓	計金九千圓	計金八千圓	計金七千圓
一參拾萬圓	一六拾萬圓	京都府	一萬八千圓	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓
一貳拾萬圓	一八拾萬圓	大阪府	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓
一壹拾萬圓	一貳拾萬圓	兵庫縣	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓	六千圓
計金一百拾萬圓	計金一百四拾萬圓	計	計金一萬四千圓	計金一萬二千圓	計金一萬千圓	計金九千圓	計金八千圓	計金七千圓	計金六千圓
一參拾萬圓	一六拾萬圓	島根縣	一萬八千圓	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓
一貳拾萬圓	一八拾萬圓	廣島縣	一萬六千圓	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓
一壹拾萬圓	一貳拾萬圓	岡山縣	一萬四千圓	一萬二千圓	一萬千圓	九千圓	八千圓	七千圓	六千圓
計金一百拾萬圓	計金一百四拾萬圓	計	計金一萬六千圓	計金一萬四千圓	計金一萬二千圓	計金一萬千圓	計金九千圓	計金八千圓	計金七千圓

一	貳拾萬圓	拾	栃木縣
一	四拾貳萬圓	參拾萬六千圓	千葉縣
一	貳拾九萬圓	貳拾參萬貳千圓	茨城縣
計	金七百五拾貳萬圓	計	六百壹萬六千圓

一	貳拾七萬圓	貳拾壹萬六千圓	福島縣
一	拾八萬圓	拾四萬四千圓	宮城縣
計	金四拾五萬圓	參拾六萬圓	

一	拾七萬圓	參萬六千圓	岩手縣
一	拾五萬圓	貳拾萬圓	青森縣
計	金參拾貳萬圓	貳拾五萬六千圓	

一	拾八萬圓	四萬四千圓	秋田縣
一	貳拾參萬圓	拾八萬四千圓	山形縣
計	金四拾壹萬圓	參拾貳萬八千圓	

一	七萬圓	五萬六千圓	開拓使
計	金七萬圓	五萬六千圓	

合	金千九百參拾六萬圓	計	千五百四拾八萬八千圓

外ニ			
一	豫備資本金貳百八拾四萬圓	銀行紙幣貳百貳拾七萬貳千圓	開港場所在ノ府縣其他貨財ノ需用特ニ多キ地方ノ如キハ或ハ其制限高ヲ超過シテ設立セシムルコトアルヘキニ付各府縣割合高ヨリ二割宛ヲ除キ置キ以テ其需用ニ供スヘキ總高
但	是ハ		
一	資本金大凡千七百八拾萬圓	銀行紙幣凡千六百六拾六萬八百八拾圓	第十五國立銀行分

但右華族設立ノ銀行ハ特別ヲ以テ資本高九割以上ノ銀行紙幣ヲ發行スルコトヲ許可セラレタルニ付其割合右ノ如シ尤右資本高ハ未タ確定セサリシニ付紙幣高モ隨テ概算ヲ掲ケタリ

總計	金四千萬圓	參千四百四拾貳萬八百八拾圓

太政官ハ右稟議ヲ裁可シ明治十年十二月十二日第八十三號ヲ以テ布告セリ

第八十三號

明治九年八月第百六號布告國立銀行條例左ノ通追加候條此旨布告候事

國立銀行條例追加

第一條　大藏卿ハ此條例ヲ遵奉シテ創立スヘキ銀行ヨリ發行スル紙幣ノ員額ヲ制限スルコ

トアルヘシ

第二條　此條例ヲ遵奉シテ銀行ヲ創立セントス欲スル者アルトキ大藏卿ハ其地方ノ便否ヲ審案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セス又ハ其資本金額ヲ減少スルコトアルヘシ

然ルニ右布告後元老院ハ其檢視ノ上此布告ハ明治九年改正ノ國立銀行條例及ヒ成規ト牴觸シ反テ人民ノ疑惑ヲ來スヘキヲ以テ寧ロ國立銀行條例ノ本文ヲ改正スヘシトシ之ヲ太政官ニ通牒セリ

本月十二日檢視ニ付セラレシ第八十三號ノ布告案ハ舊法ヲ害シ且ツ牴觸スルモノトス其第一條ニ銀行紙幣ノ員額ヲ制限ストアルモノハ條例第十八條及ヒ第二十二條ニ定ムル所ノ制限ト異ナリ第二條ニ地方ノ便否ヲ審案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セストハ條例第一條及ヒ成規第三條ニ言フ所ノ相當ト思慮スル云々若クハ銀行ヲ創立スルニ相當ナリト思考スルニ於テハ云々ノ約束ト同一ナレハ蛇足ニ屬シ同一ニ非サレハ其約束ニ異ナリトス同條中資本金額ヲ減少スルコトアリトハ條例第十七條資本金額制限ノ明文ニ牴觸スルヲ免カレス今舊來ノ制限及ヒ約束ヲ變更セント欲セハ條例第十六章ニ由リ之ヲ增補シ又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコトヲ得ル固ヨリ自由ナリトスト雖モ布告本文ヲ追加トスル時ハ國立銀行條例及ヒ成規ト並行シテ牴觸スルヲ以テ人民ノ疑惑ヲ來スハ必至ノ勢ナリ銀行ノ如キハ信義ヲ以テ主トスルモノナリ而シテ制限及ヒ約束ノ固カラサルハ條例ニ於テ已ニ此主義ヲ失スルニ近シ仍テ其理由ヲ具シ條例ノ本文ヲ改正センコトヲ求ム此段及御通牒候也

明治十年十二月十八日

議長　二品親王熾仁

太政大臣　三條實美殿

是ニ於テ太政官ハ元老院ノ申牒ヲ容レ更ニ布告ノ改正ヲ爲スヘキ旨明治十年十二月二十七日ヲ以テ大藏省ヘ照會セリ而シテ當時銀行當局者ノ意見ハ該追加條例ハ決シテ原條例ニ牴觸スルモノニアラス且ツ爲ニ公衆ノ疑惑ヲ招キ信ヲ人民ニ失フカ如キハ萬々之ナキヲ主張シテ頻リニ追加條例ノ據置ヲ請ハントセリ今其理由トスル所ヲ見ルニ左ノ如シ

元老院ノ申牒ニ據レハ追加第一條銀行紙幣ノ員額ヲ制限ストアル者ハ條例第十八條及ヒ第二十二條ニ定ムル所ノ制限ト異ナリト是レ大ニ然ラス抑〻條例第十八條及ヒ第二十二條ハ國立銀行資本金額ニ對シ下付スヘキ紙幣ノ割合ヲ示スモノニシテ全國ニ於テ發行セシムヘキ銀行紙幣ノ總員額ヲ制限スルハ理財上最モ緊要ニシテ一日モ忽諸ニ付スヘカラサル者ニ有之然ルニ條例中右ヲ制限スル意味一モ之ナシ是レ之ヲ追加シテ其足ラサル所ヲ補フモノニシテ毫モ舊法ニ牴觸スル者ニアラス而シテ元老院ノ之ヲ第十八條第二十二條ニ異ナリトスル者ハ果シテ其意ノ所在ヲ知ラサルナリ

其申牒ニ依レハ第二條ニ地方ノ便否ヲ審案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セストハ條例第一條及ヒ成規第三條ニ言フ所ノ相當ト思慮スル云々若シクハ銀行ヲ創立スルニ相當ナリト思考スルニ於テハ云々ノ約束ト同一ナレハ蛇足ニ屬シ同一ニ非サレハ其約束ニ異ナリトスト是亦然ラス右條例第一條及ヒ成規第三條ニ言フ所ノ相當トハ只其發起人ノ身元人柄及ヒ出願ノ手續等ヲ相當ト思考スル而已ニ相聞ヘ嘗テ其土地ノ便否則チ物產ノ多寡及ヒ貨財ノ需用等ニ及フ者ナキカ如ク大ニ人民ノ迷誤ヲ來シ易シ是レ之ヲ追加シテ大藏卿ハ只發起人等ノ身元人柄

等ノミニ限ラス其創立場所ノ便否ニヨリテ許可スルトノ意ヲ明示シ發起人ヲシテ出願ノ先後並ニ身元ノ豐薄等ヲ申立テ苦情ヲ鳴ラスノ弊ヲ豫防セシモノニシテ則チ條例成規中所載相當ノ字ヲ擴充シ豫メ政府ノ意ノアル所ヲ明示セシモノナレハ固ヨリ蛇足ニアラス亦約束ニ異ナルモノニアラサルナリ

元老院ノ申牒ニ依レハ同條中資本金額ヲ減少スルコトアリトハ條例第十七條資本金額制限ノ明文ニ牴觸スルヲ免カレスト是亦同院ノ誤解ナリ夫レ追加條例ノ意味ハ右第一條ニ紙幣ノ員額ヲ制限スルト云ヒテ資本金ノ減少ニ及ハス又第二條或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セストノミニテハ只〻全ク許スト許サヽルトノ二途ニ止マリ未タ出願ノ資本金高ヲ減少シテ許可スルトノ意ヲ見ス故ニ此一句ヲ加ヘテ其意ヲ示スモノニシテ固ヨリ條例第十七條ニ資本金額制限ノ明文ヨリ減少スルニアラス則チ右條例明文全額以内ノ内ニ適宜減少シテ全國ニ發行セシムヘキ紙幣ノ豫定額ニ超過セシメサラシムルモノナリ

然レトモ當時大藏省ニ於テハ復タ別ニ見ル所アリ遂ニ追加條例据置ニ關スル抗辯ヲ見合セ更ニ該追加ノ趣旨ヲ斟酌シテ國立銀行條例ニ改正ヲ加フルコトヽナシ明治十一年一月二十二日ヲ以テ左ノ如ク太政官ニ稟議セリ

國立銀行條例追加布告改正ノ儀ニ付御照會ノ趣了承篤ト熟考仕リ候處右追加二條共本條ノ旨趣ヲ擴充致候儀ニテ聊カ牴觸候廉ハ無之候ニ付其旨上答可致存候ヘトモ兼テ伺置候各府縣銀行資本定限高已ニ相充候地方不尠然ルニ其後ニ至リ願出候者ニシテ却テ其資産營業ノ目的トモ既ニ許可セシ者ヨリ一層善良ナル者有之今是等ノ分創立爲致度モ已ニ定限高相充チ候上ハ

別ニ詮議致方モ無之去迚單ニ難聞屆旨及指令候時ハ折角ノ企望モ水泡ニ屬シ發起人共ニ於テハ一時其方向ヲ失シ難澁不尠儀ト被存候間右等ノ分ハ一應紙幣發行ノ都合ヲ懇諭シ假令其發行高八割以下ノ員額ニ渉ルモ不苦創立致度段願出候モノヽ如キハ別ニ其資本額ニ節減ヲ加ヘス創立並ニ增株トモ差許候樣致度就テハ右ノ趣旨付旁〻以テ右旨趣ヲ籠メ更ニ條例第十八條ヲ改正先般御布告相成候追加二條御取消相成候樣致度云々

太政官ハ直ニ之ヲ裁可シ同年三月二日第五號ヲ以テ國立銀行條例第十八條ヲ左ノ通改正シ曩ノ條例追加ヲ取消ス旨ヲ布告シタリ

第五號

明治九年八月第百六號布告國立銀行條例第十八條左ノ通改正シ明治十年十月ニ第八十三號布告同條例追加取消候條此旨布告候事

第十八條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レトモ大藏卿ハ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルコトアルヘシ故ニ新ニ創立ヲ願フ者アルトキ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコトアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ時ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコトアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシテ出納局ニ預ルヘシ

但公債證書ノ時價低下スルトキハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙

幣ノ額ニ充タシムヘシ

國立銀行貸付金利息ハ年壹割ヲ超過ス可ラサルハ條例第五十七條ノ規定スル所ナリ蓋シ國立銀行ハ紙幣發行ノ特權ヲ附與セラレタルモノナレハ其利息ハ宜シク普通ノ割合ヨリモ輕減シテ公益ヲ圖ルヘキハ銀行當然ノ義務タルヘシトノ主旨ニ基キ此制限ヲ立テタルモノナリ然ルニ當時世上ノ金利ハ前年發布ノ利息制限法アルニモ拘ラス實際ニ於テハ大抵其割合ヲ超過セルノ有樣ナルヲ以テ國立銀行ニ加ヘタル特殊ノ制限ヲ解キ之ヲシテ一般ノ利息制限法ニ遵ハシムルモ其歩合ハ尚ホ普通金利ノ下ニアルヘキハ論ヲ俟タス仍テ大藏卿ハ明治十一年八月條例中利息制限ノ規定改正ノ件ニ付左ノ如ク太政官ニ伺出テタリ

國立銀行條例中利息制限ノ箇條改正ノ儀ニ付伺

明治九年八月第百六號國立銀行條例御頒布以來結社營業ノ者比々有之候處該條例中貸付金ノ利息ハ年壹割ヨリ超過ス可カラサル制限アルニヨリ大ニ世間高利ノ弊害ヲ減殺スルノ一助ト相成候哉ニ存候得共昨十年一般利息ノ制限ヲ頒布セラレタルニ及テハ制限自ラ二樣ニ相成リ銀行獨リ一般ノ制限ヲ以テ利息ヲ收メ得サルニヨリ銀行ニヨリテハ種々ノ名義ヲ付シテ壹割以上ヲ收メ或ハ媒介ヲ借主ノ間ニ立テ、間接ニ利ヲ牧ムル等ノ類ナキヲ保セス且ツ今般及稟議候銀行收稅ノ儀御決裁相成候ハヽ銀行利益ノ減小スルニ苦ミ譎詐百端陽ニ制限ヲ遵奉スルモ陰ニ之ヲ破リ條例ヲシテ遂ニ有名無實ノモノタラシムルニ可至存候旁〻以テ銀行貸付金ノ利息モ一般ノ制限ニ遵據セシメ候樣致度因テ國立銀行條例第五十七條改正御布告案相添ヘ此段相伺候也

明治十一年八月十四日

大藏卿 大隈重信

太政大臣 三條實美殿

太政官ハ此稟議ヲ裁可シ同年十月一日ヲ以テ條例第五十七條ニ改正ヲ施セリ卽チ左ノ如シ

第三十一號

明治九年八月第百六號布告國立銀行條例第五十七條左ノ通改正候條此旨布告候事

國立銀行條例

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金ノ利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘシ若シ此制限ニ超過スルモノアルトキハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムヘシ

次テ明治十二年一月二十日第三號布告ヲ以テ國立銀行成規第二十四條ヲ改正シ損傷紙幣交換ニ於テ全額半額及ヒ交換スヘカラサルモノヽ、明解ヲ與フル所アリタリ(損傷紙幣ノ部參照)

第三號

明治九年八月第百六號布告國立銀行成規第二十四條左ノ通改正候條此旨布告候事

國立銀行成規

第二十四條 敗裂銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ引換ヲ請フ者アルトキハ其役員之ヲ精密ニ檢查シ金額ハ勿論店名(又ハ役員姓名)明瞭ニシテ番號記號全存スルモノ及ヒ番號一モ存セサルモノニテモ缺失セシ部分ニ金額及ヒ店名(又ハ役員姓名)番號記號(各其一)ノ連續シテ俱ニ存スヘキモノハ全額ヲ以テ交換スヘシ又番號記號各其一ヲ存シ且ツ金額及ヒ店名(又ハ役員姓名)明

瞭ナルモ缺失セシ部分ニ猶金額及店名又ハ役員姓名番號記號(各其一)ノ連續シテ俱ニ存スヘキ餘地アルモノハ總テ半額ヲ以テ交換スヘシ若シ又細裂シテ其紙片ノ全備セサルモノト雖モ之ヲ集合シテ彩紋字體等ノ連續スルモノハ前文ノ例ニ照準シ全額或ハ半額ヲ以テ交換スヘシ

但汚染ノ紙幣ニシテ金額及ヒ其店名等ヲ認メ得ヘキモノハ全額ヲ以テ交換スヘシ

第三款　第三期

是ヨリ先キ政府ハ其發行ニカヽル紙幣ノ銷却ヲ努ムル所アリタルカ當時世上ニ流通セル多額ノ銀行紙幣ハ實際其性質不換ニシテ伸縮自在ナラサルノミナラス假令之ヲシテ兌換ノモノタラシムルモ無數ノ小銀行ヲシテ各自紙幣ヲ發行セシムルハ中立銀行ヲシテ獨リ之ニ從事セシムルノ便ナルニ如カス依テ政府ハ日本銀行ヲ創立シテ之ニ兌換券發行ノ特權ヲ附與シ各種紙幣ヲシテ漸ク跡ヲ市場ニ絶タシムルコトヽセリ此クテ主トシテ紙幣整理及ヒ銀行制度改正ノ趣旨ニ基キ今ヤ國立銀行ニ一大改正ヲ加フルノ必要ニ迫レリ因テ明治十六年三月二十四日大藏卿松方正義ハ國立銀行條例中改正ノ儀ニ付太政官ニ建議シタリ卽チ左ノ如シ

國立銀行ノ義ハ曩ニ明治九年頒布ノ條例ヲ以テ紙幣發行ノ特典ヲ與ヘラレ目今百四十有餘ノ銀行各自ニ紙幣ヲ發行シ以テ營業ニ從事致來候處今ヤ之ヲ既往ニ徵シ將來ニ慮リ我國現今ノ事勢及ヒ歐洲諸國ノ實例ニ據リ之ヲ斟酌折衷スルニ現今國立銀行條例中改正若クハ追加ヲ要スルノ個條蓋シ一ニシテ足ラスト雖モ今其最モ緊急ナル者ヲ擧レハ其條目三項アリ第一營業

年限滿期ノ日ニ至レハ紙幣發行ノ特許ヲ止ムルコト第二現在發行ノ紙幣ヲ處分スルコト第三管理上ニ關スルノ要項是レナリ蓋シ營業年限ニ至リ紙幣發行ノ特許ヲ止メントスル者ハ畢竟一ハ以テ國內流通ノ紙幣ヲ減少シテ之ヲ適度ニ復セシメ一ハ以テ紙幣各種ニ涉ルノ大弊ヲ洗除シ他日盡一ノ幣制ヲ全國ニ布カントスルノ目途ニ有之而シテ今殊ニ之ヲ條例中ニ明示スルノ目途ニ非サレハ他ナシ卽チ各國立銀行ヲシテ夙ニ我政府理財ノ目的ヲ了知セシメ營業上ノ方途ヲ惹ラス將來ニ處スルノ目途ヲ追年講究セシメントス欲スルニ在リ是レ改正案ノ第一要點ナリ斯ク營業年限ニ至リ斷然紙幣發行ノ特典ヲ許サヽルモノトスレハ現今發行ノ銀行紙幣ノ若キハ宜ク今日ヨリシテ漸次跡ヲ收メシムルノ目途ヲ定メサル可ラス何トナレハ現在發行ノ銀行紙幣ヲシテ依然据置キ年限ニ至リ一時ニ之ヲ銷却セシメント欲セハ爲メニ財政上急激ノ變動ヲ生スルノミナラス各國立銀行ハ俄然其資力ヲ減セラレ顚沛覆滅相踵クノ慘狀ニ至ラサルヲ保シカタシ是レ畢竟理財ノ得策ニ非サルハ勿論ニ付今之カ方法ヲ講究スルニ宜ク其紙幣ヲ遞減シテ財政ノ激變ヲ生セシメス徐々ニ之ヲ謀リテ各銀行ヲシテ其業ニ安堵セシムルニ如クハナシ抑〻國立銀行紙幣ノ義ハ一般ノ取引上ハ勿論國稅上納ニ於テモ差支ナク通用スル者ニシテ所謂法貨同樣ノ資格ヲ有スルモノナリ今若シ現在發行高ノ幾分ヲ逐年銷却スルモノトシ流通上ノ感覺ヨリ之ヲ觀レハ卽チ國幣ヲ減少スルト同一ニ歸シ不換紙幣ヲ減殺シテ他日兌換ノ制ヲ立ルノ順路ヲ開クヲ得ヘシ是レ改正案ノ第二ノ要點ナリ且ツ國立銀行創立以來事業年ヲ逐フテ擴張シ其效蹟觀ルヘキ者ナキニ非スト雖モ或ハ當業其人ヲ得ス經紀其宜ヲ失ヒ一敗復タ自立スル能ハサルモノ往々有之一國ノ財政上之カ爲メニ影響ヲ蒙ル實ニ淺尠ナラス因テ今將

來管理ノ方法ヲ講究シ以テ之ヲ匡救維持スル所アラントス是レ改正案ノ第三要點ナリ以上三項ノ外改正追加ヲ要スルノ條項モ往々有之候得共右三項ノ若キハ目下財政上ニ於テ殊ニ須急ヲ要シ候事項ニ有之卽チ簿冊改正追加案取調上是候條至急御裁定御布告相成候樣致度依テ此段相伺候也

（別冊略ス）

太政官ハ直ニ右ノ建議ヲ採納シ明治十六年五月五日ヲ以テ左ノ如ク全國ニ布告セリ

第十四號

明治九年八月第百六號布告國立銀行條例中左ノ通改正加除ス

第十二條　此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非ラサレハ開業ノ許可ヲ受ケシ日ヨリ二十ケ年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス

第二十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ

第二十二條　削除

第二十七條　但書削除

第四十九條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換ヘシ

第六十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲替手形約束手形等ノ仕拂ヲ爲スニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時償辨ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速ニ之ヲ各株主ヘ返辨スヘシ

第八章　利益金分配ノ方法ヲ明ニス

第七十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ每半季其銀行ノ總勘定ヲナシ其純益金ノ內ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トナシ之ヲ總株主ヘ分配スヘシ尤モ右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以內ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ヘ通知シ且ツ新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ

但慥カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸付金ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルコト六ケ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ

第八十條　削除

第八十三條　國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事シ危險ナリト認ムルトキハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ

第十二章　官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方竝ニ公債證書ノ沒入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

第九十二條　削除

第九十三條　國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルトキハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルコトアルヘシ

第一　國立銀行條例ノ旨趣又ハ個條ニ背戻シ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト思考スルトキ

第二　國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル證據アルトキ

第三　國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルトキ

第九十四條　前條ニ記載スル事實アリト認ムルトキハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ總テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十八條　此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ沒入シタル公債證書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ公賣若シクハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ルモノトス但右公債證書ノ賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アルトキハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ銀行ノ資產ヨリ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アルトキハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ

第百三條　此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費等ハ都テ相當ノ處分ヲ以テ大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ資產ヨリ辨償セシムヘシ

第十六章　銀行紙幣銷却ノ方法ヲ明カニス

第百十二條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ營業年限內ニ悉皆銷却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムヘシ

一　各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年限內之ヲ定期預ケトナシ以テ紙幣銷却ノ元資ニ充ツヘシ

一　各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ハラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘(卽チ半季一分二厘五毛)ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣銷却ノ元資ニ充ツヘシ

一　日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ヒ之カ發行紙幣ヲ銷却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ奧書證印ヲ受クヘシ

一　日本銀行ヨリ右銷却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ

一　日本銀行ヨリ右銷却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債證書ノ內右銷却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行ニ還付スヘシ

第十六章第十七章ト改ム

第百十二條第百十三條ト改ム

此改正ニヨレハ國立銀行ノ處分方法ハ急ナラス緩ナラス酷ニ失セス寬ニ流レス最モ巧ニ計畫セラレタルモノニシテ(第一)國立銀行營業滿期ノ後ハ紙幣發行ノ特權ヲ失ヒ私立銀行ニ變形シテ營業ヲ繼續スルヲ得ルコト(第二)銀行紙幣ハ漸次ニ銷却ノ方法ヲ立テヽ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハ

シメ營業滿期ト共ニ悉皆其銷却ヲ了ルコトヽナシ以テ國立銀行ノ制度トナスノ方針ヲ定メタルナリ而シテ紙幣銷却ノ綱領ハ載セテ追加第百十二條ニアリ今就テ之ヲ見ルニ該條ノ趣旨タル各銀行ハ逐年銀行紙幣ヲ銷却シ營業滿期ニ至リ悉ク私立銀行ト爲リテ其業ヲ繼續スルヲ許シ各銀行ノ紙幣準備金ヲ日本銀行ニ委托セシメ同銀行ヲシテ銀行紙幣ノ銷却ヲ負擔セシムルニ在リ而シテ其方法ハ日本銀行ニ於テ右準備金ニテ公債證書ヲ購求シ其利子ヲ以テ年々紙幣銷却ノ元資ニ充テ又各國立銀行利益金ノ中ヨリ其紙幣下付高ニ對シ年二分五厘ニ當ル金額ヲ日本銀行ニ預ケシメ之ヲ以テ公債證書ヲ買收シ其證書ヨリ生スル利子ヲ以テ又紙幣銷却ノ元資ニ供シ若シ買收セル公債證書ノ中ニ於テ抽籤ニ當リ償還セラルヽモノアルトキハ其金額ハ日本銀行之ヲ受取リ更ニ其受取リタル金額ニテ公債證書ヲ買收シ以テ紙幣銷却ノ元資ニ加ヘ此ノ如クシテ銀行營業滿期ノ後ニ及ヒ尚ホ紙幣銷却殘高アルトキハ以上ノ公債證書ヲ買却シテ悉ク之ヲ消盡スルニ在リトス

第三節 國立銀行ノ創立

第一款 第一期

明治五年十一月十五日國立銀行條例ノ制定頒布セラルヽヤ之ヲ遵奉シテ銀行開業ヲ願出テタルモノハ東京第一國立銀行ヲ以テ其嚆矢トス

是ヨリ先キ明治五年六月三井小野兩組ヨリ銀行創立ノ件ヲ大藏省ニ願出テタリ曰ク

銀行創立願書

御一新以降私共兩組共

政府爲替方被仰付金錢爲替竝ニ出納其外臨時御用向等無滯奉事仕候儀者重々難有仕合奉存候就テ方今之御時體奉恐察候ニ追々外國御交際ニ付テハ差向眞成ノ銀行御創立ノ義尤モ御急務ニ通之利便物產ノ蕃殖等萬般御執掌被爲在候ニ奉存候因テ先頃私共兩組共各特別ニテ銀行開業ノ義奉願置候得共尚熟考仕候處所詮一身一個ノ獨力ヲ以テ各自其ノ業相營候樣ニテハ終ニハ相牴觸ノ患モ有之殊ニ卑見陋才加フルニ微薄ノ財力ニテ鴻業成立ハ無覺束況哉每々被仰出候協同戮力ノ盛旨ニモ相悖候次第ニ付此度兩組共全協力仕差向金二百萬圓ヲ目的ト致確實ノ銀行共立仕度奉存候尤モ右創立ニ付テハ追々組合相望候者モ可有之ニ付尚ホ順序ヲ以テ株主相募リ且ツ向後增高等ノ見込モ有之候旁々往々金五百萬圓ノ合集高ニ相滿候樣仕度奉存候右銀行御規則等ニ於テハ追々御取調モ被爲在候趣仄奉聞候ニ付每事成規ニ照準致シ敢テ悖戻ノ所爲仕間敷候間何卒右ノ通御許可被成下置候樣奉願候將又右銀行御爲替方ハ勿論其外臨時御用向共都テ右共立ノ銀行ヘ被仰付是迄ノ通戮力奉事仕度尤モ西京大阪橫濱神戶長崎新潟函館其ノ他樞要ノ地ヘモ夫々出店取扱諸爲替向聊凝滯無之內外ノ流通御辨理相成候樣可仕奉存候此段奉願候也

壬申六月

小野善右衞門
小野善太郎
小野善次郎

紙幣御寮

小野善助
三井元之助
三井次郎右衛門
三井三郎助
三井八郎右衛門

此願意ハ八月十五日ヲ以テ紙幣寮ノ許可ヲ得第一國立銀行ノ名稱ヲ附與セラレタリ蓋シ當時未タ國立銀行條例ノ頒布之レナカリシト雖モ同條例ハ八月五日ヲ以テ既ニ正院ノ決裁ヲ經早晩公布セラルヘキ者ナリシヲ以テ特ニ右ノ如ク社號ヲ唱フルコトヲ許サレタリ而シテ同年十一月條例ノ發布アルヤ同銀行ハ首トシテ之ニ遵ヒ同年十一月ヨリ翌六年六月十一日創立證書竝ニ定款ヲ大藏省ニ差出シテ諸般ノ手續ヲ了シ同年七月二十日ヲ以テ開業免狀ノ下付ヲ得直ニ其業務ヲ開始シタリ當時該行ノ資本金ハ貳百四十四萬八百圓ナリシモ越ヘテ七年二月二十二日ニ至リ五萬餘圓ノ增資認可ヲ得テ合計貳百五拾萬圓トシ而シテ此資本金ニ對スル六割卽チ百五拾萬圓ノ紙幣發行ヲ許可セラレタリ而シテ政府ハ明治六年八月二十日左ノ如ク全國ニ布告シタリ

布告第三百四號

今般東京第一國立銀行ニ於テ國立銀行條例之趣意ニ據リ公債證書ヲ抵當トシテ本年八月二十日ヨリ別紙見本ノ通リ貳拾圓、拾圓、五圓、貳圓、壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ海關稅及ヒ公債證書ノ利息ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引等總テ正金同樣通用セシメ候條此ノ旨可相心得最

モ右紙幣ノ儀ハ何時ニテモ銀行本店竝ニ横濱大阪神戸之支店ニ於テ人民之望次第無差支正金ト引換ヘル筈ニ付無疑念取引可致依テ銀行紙幣見本相添ヘ此旨布告候事(見本略之)

東京第一國立銀行ニ次テ起リタル國立銀行ハ横濱第二國立銀行ニシテ明治二年七月以來繼續セル横濱爲替會社ヨリ國立銀行ニ轉業セルモノナリ

抑モ明治五年頒布ノ國立銀行條例ハ其ノ第二十二條ニ於テ同條例ニヨル外銀行會社ノ紙幣證券又ハ通用手形ノ類ヲ發行スルコトヲ禁制シタルカ故ニ從來三府五港ノ地ニ設立セル各爲替會社ハ其發行ニ係ル金券ヲ回收シテ全ク其業務ヲ閉鎖スルカ又ハ新條例ヲ遵奉シテ國立銀行ニ變スルカ二者其ノ一ヲ選マサル可ラサルニ至レリ然ルニ各地爲替會社ハ孰レモ業務ノ經營其ノ宜シキヲ得ス巨額ノ缺損ヲ生シテ非常ノ困危ニ陷リ到底其ノ事業ヲ繼續スルノ望ナク政府ノ寬典ニ依リテ僅ニ大破綻ニ至ルコトヲ免カレ以テ其ノ店舖ヲ閉鎖スルコトヲ得タルニ過キサリシカ獨リ横濱爲替會社ハ他ノ七社ニ比スレハ稍ミ其終ヲ全フシテ國立銀行ニ變形スルコトヲ得タリ是レ素ヨリ會社經營其ノ宜シキヲ得タルノ效ニ歸スヘシト雖モ抑モ亦政府ニ於テ特別ノ寬典ヲ附與シ横濱ニ於ケル金融ノ權力ヲシテ全ク外國銀行ノ手ニ落チサラシメンコトヲ力メシニ由ラスンハアラサルナリ而シテ横濱爲替會社ハ明治五年十月ヲ以テ大藏省ニ改業願書(爲替會社ノ部參照)ヲ差出シ大藏省ニ於テハ右願意ヲ審議シ明治五年十一月二十七日ヲ以テ太政官ニ伺出テ六年一月十八日其裁可ヲ得タリ斯クテ該行ハ公稱資本金ヲ百萬圓トシ先ツ四拾萬圓ヲ以テ實際資本金トナスノ外洋銀券發行繼續ノ特許ヲ與ヘラレタリ而シテ是レ明ニ國立銀行條例ニ違フモノナリト雖モ洋銀券ハ貿易上至大ノ關係ヲ有シ一時ニ之ヲ引揚クルトキハ內外ノ取引上不便ナルノミナラス殊

ニ我商人ノ不利多カルヘキヲ以テ變通ノ策ニ出テタルノミ

尋テ明治六年十月同銀行ハ資本金減額ノ儀ニ付更ニ紙幣頭ニ願出テタリ卽チ左ノ如シ

以書付奉願上候當港元爲替會社轉業ノ儀ハ昨明治五年十月中書面ヲ以テ奉願卽チ其節申上候條款ノ通夫々御許可相成第二國立銀行ニ改業可致ノ處其ノ後元爲替會社諸勘定取纏方ニ於テ彼是手數モ相懸リ意外ノ曠日ニ及ヒ奉恐入候處此度右諸勘定向モ全ク了局イタシ諸損失ノ支消モ都テ相立從前ノ計算ハ明瞭ニ分界相成候ニ付最前御許可ノ趣旨ニ據リ右計算相立候手續ヲモ相認一般ノ公告ヲ以テ株主ノ加入ヲ募可申ト奉存候就テ再考仕候處最前願濟ニ相成候條款第二條株高眞額ハ四拾萬圓ト取極差向稱呼高ノ虛額ハ百萬圓ノ御許可相成居候得共右ニテハ却テ確實ノ眞理ヲ失シ候ヤト奉存候間矢張銀行條例ノ御趣意ヲ遵守シ稱呼高ノ虛額相用ヒ候義ハ御取消ニ被成下度其他ノ條款ハ昨年十月中御許可ノ通御見据被下置度方今株主募リ方ノ義ハ差向參拾萬圓ヲ以テ資本金ト相定メ一般ノ布告差出シ追テハ御許可相成候眞額百萬圓迄ノ增加仕度奉存候云々

右減資ノ件ハ同月二十日ヲ以テ認可ヲ得タリ此ニ於テ同行ハ參拾萬圓ノ資本金ヲ以テ創立スルニ決シ翌十一月ヨリ公告ヲ以テ株主ノ募集ニ着手セシカ市場不景氣ノ爲メ遂ニ豫定ノ金額ニ達セス止ムナク七年六月ニ至リ現在募集高貳拾五萬圓ヲ以テ本行資本ニ充テンコトヲ申請シ七月三日其許可ヲ得直ニ創立證書定款ノ進達諸般ノ手續ヲ了シ同日開業免狀ノ下付ヲ得翌月十五日ヨリ國立銀行トシテ漸ク其開業ヲナスニ至レリ卽チ政府ハ條例ニ準據シ銀行紙幣拾五萬圓ノ發行ヲ許可シ七月二十九日第八十號布告ヲ以テ前年八月第一國立銀行ノ紙幣發行ニ關スル布告ノ

例ニ倣ヒテ之ヲ公示セリ

明治六年四月大阪鴻池善右衞門外十名ヨリ第三國立銀行創立ヲ願出テタリ其願書ハ左ノ如シ

銀行創立願書

當今文明ノ治開化日進ノ際ニ當リ區々私利ヲ營候者固陋頑愚ノ弊習可愧ノ至ニ付何卒同心協力精確ノ基礎ヲ建盛大ノ事業ヲ營聊開化之進歩ヲモ奉裨益度宿志ニ御座候處今般御頒布ノ國立銀行條例拜閱仕御制度ノ盡一公私ノ洪益衆庶ノ便利作業ノ精確一々拍手歡稱ニ不遑欣抃感戴ノ餘直チニ之ヲ照準確定ノ銀行創立仕往々金百五拾萬圓之集合高ニ至候目的ヲ以テ差向百萬圓ノ資本金ヲ募可申其内六拾貳萬圓ハ別紙割合ノ通私共出金ヲ以テ第三國立銀行ト相唱先大阪今橋通三丁目ニ假店ヲ開名東縣板野郡撫卷林崎村竝ニ德島内船場町ニ支店ヲ設ケ早々開業仕度勿論每事銀行條例之御趣意遵奉聊悖戻仕間敷候間何卒右願之通御免許被仰付被下度此段奉願候也

明治六年四月

大阪鴻池善右衞門

外十名

紙幣御寮

（別紙出資割合書略之）

此願書ハ同月末直ニ許可セラレタリト雖モ其後創業總會ニ於テ株主中ニ紛議ヲ生シ遂ニ開業ニ至ラスシテ止ミタリ

第四國立銀行ハ新潟縣市島德次郎外十一名之カ發起人トナリテ明治六年二月其創立ヲ願出テタルモノナリ卽チ左ノ如シ

奉願候事

今般國立銀行ノ御趣意拜見仕候處御國內一般ノ融通商法盛大相成候儀ト奉存候ニ付當新潟表ニモ銀行創立仕度最モ當國之儀ハ北陬ノ偏土未タ大金融通ノ見留モ無覺束奉存候間先ツ貳拾萬圓ノ銀行創立仕追々盡力盛大仕度奉存候依テ私共十二人六百參拾株卽チ六萬參千圓出金發起仕度奉存候御聞屆被成下候ハヽ御規則ノ通相守開業仕度奉存候右願ノ通リ仰付被下置度一同連印奉願上候以上

明治六年二月

市島德次郎印

外十一名

紙幣御寮

右ハ同年五月末ニ於テ大藏省ノ認可ヲ受ケ同十一月二日其創立證書竝ニ定款ヲ差出シ越エテ十二月二十四日開業免狀ヲ下付セラレ翌七年三月一日ヨリ資本金貳拾萬圓ヲ以テ其業務ヲ開始セリ而シテ政府ハ拾貳萬圓ノ紙幣發行ヲ許シ七年二月十日第十八號ヲ以テ之ヲ布告シタリ

第四國立銀行ニ次テ創立ヲ許可セラレタルハ鹿兒島縣士族重久佐平太外四名ノ發起ニ係ル大阪第五國立銀行ニシテ該行ハ明治五年頒布ノ國立銀行條例ノ下ニ於ケル最後ノ創立ニ屬セリ其願書ニ曰ク

私共從來區々自己ノ商業相營居候處方今文明諸事日進ノ折柄獨商業ニ至候而者格別從前ノ面目ヲ不相改殊外國御交際モ日夜御盛大ニ相成候ニ付農工商ニ至迄御趣意奉戴同心協力一層勉勵不仕候而者難相濟カト苦慮罷在候處先般國立銀行條例御頒布被爲在候ニ付同志申合往々百萬圓迄增加可仕目的ヲ以テ卽今資本五拾萬圓ノ銀行創立仕度其ノ內參拾五萬圓ヲ私共五名ヨリ出金殘拾五萬圓ハ株主相募候上大阪府下ヘ本店ヲ据ヱ東京長崎琉球ヘ分店ヲ設ケ諸事條例成規ニ照準營業仕度尤モ名號ノ儀ハ旣ニ他方ヘ御許容相成居候順番ヲ以テ相唱申度奉存候間何卒願ノ通御許容被成下度此段奉願上候以上

明治六年癸酉五月三十日

重久佐平太

外四名

芳川紙幣頭殿

右ハ速ニ其認可ヲ得六年九月八日開業免狀ヲ下付セラレ資本金五拾萬圓ニ對シ參拾萬圓ノ紙幣ヲ發行スルコトヽナリ政府ハ前例ニ倣ヒ同年十一月第三百七十八號ヲ以テ其ノ旨ヲ布告セリ而シテ本行ハ第一銀行ニ次キ六年十二月十日ヨリ其業務ヲ開始セシカ後九年一月營業ノ都合ニ依リ本店ヲ東京ニ移シテ大阪本店ハ其支店ト定メ又實際ノ經驗ニ因リ其資本金ノ過大ニシテ反テ利益ノ薄キヲ悟リ九年六月貳拾萬圓ヲ減シテ參拾萬圓トナセリ

以上ハ明治五年頒布ノ國立銀行條例ニ準據シテ設立ノ許可ヲ得タル國立銀行ナリトス此他新ニ銀行ノ創立ヲ願出テタルモノ明治七年以後ニ於テ多少之レナキニアラサリシモ政府ハ當時銀行營業ノ甚タ困難ナルヲ看テ一モ其許可ヲ與ヘス卽チ竊ニ諭旨ヲ加ヘテ其ノ發起ヲ抑制シタリ左

レハ舊條例ノ下ニ於テ業務ヲ開始セシ國立銀行ハ僅ニ左ノ四行ニ過キサリキ

國立銀行名稱	開業免狀下付日付	資本金高	紙幣發行免許高
東京第一	明治六年七月二十日	後 二、五〇〇、〇〇〇圓	後 一、五〇〇、〇〇〇圓
橫濱第二	明治七年七月十八日	一、五〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
大阪第三	依願解社	二五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
新潟第四	明治六年十二月二十四日	七年三月一日	
大阪第五	明治六年九月八日	六年十二月十日	
合計四行	—	—	
		後 二、四五〇、〇〇〇	後 一、四七〇、〇〇〇
		三、四五〇、〇〇〇	二、〇七〇、〇〇〇
		二〇〇、〇〇〇	一二三、〇〇〇
		五〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇

備考

東京第一國立銀行ノ滅資ハ小野組ノ破產ニ基クモノニシテ小野組破產ノ事ハ後段ニ詳述スヘシ

抑〻國立銀行ハ其條例第四條第二節ニ遵フトキハ開業免狀ヲ得ルモノナリト雖モ開業前一部株金ノ拂込ヲ爲スモノアル時ハ之ニ對シ株券ヲ交付スヘキモノナルヲ以テ該券面ニ社印捺用ノ必要アリ依テ大藏省ハ明治六年七月省議ノ上右條例ノ規定ニ拘ラス國立銀行創立ノ許可ト共ニ已ニ社號ヲ附與シタル以上ハ便宜社印ヲ彫刻シテ使用セシムル事トナセリ又同月開業免狀樣式ヲ決定シテ第一國立銀行以下順次創立ノ許可ヲ與ヘタル各國立銀行ニ下付シタリ左ニ當時ノ開業免狀雛形ヲ示サン

大藏省

紙幣寮第

開業免狀

證書に據り此銀行は大日本政府の公債證書を引當として紙幣を發行し之を通用し之を引換ふる義に付明治五年八月五日大日本政府にて制定したる銀行條例の趣意に從ふて創立し其開業前の手續は都て此銀行條例の規則を履行したること分明なるに付今此開業免狀を交付し自今銀行條例に從て銀行の業を營むことを許可するもの也

第何々國立銀行より差出たる

右の證據として明治　年　月　日余は大藏卿の命を奉して爰に姓名を自記し官印を鈐する也

紙幣頭

明治　年　月　日

第二款　第二期

第一項　舊國立銀行處分

明治九年八月一日改正國立銀行條例ノ發布ニヨリ政府ノ處分ヲ要スヘキハ從來開業セル第一第

二第四第五ノ四國立銀行ナリ蓋シ是等舊條例ヲ遵奉シタル國立銀行ハ更ニ改正條例ニ準據シテ其營業ノ免許ヲ受クヘキモノナレトモ此四行ハ曩ニ株金十分ノ六ニ相當スル政府紙幣ヲ上納シテ同額ノ金札引換公債證書ヲ買受ケ之ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シタルニヨリ條例改正ノ曉ハ金札引換公債證書ヲ政府ヨリ買戻シ其金額ヲ以テ四朱以上利付ノ他ノ公債證書ヲ時價ニテ買集メ更ニ抵當トシテ上納スルニアラサレハ新ニ銀行ヲ設立スルモノト均一ノ利益ヲ享受スル能ハサルヘシ而テ是レ元ヨリ世態ノ變遷ニ基キ遂ニ條例ノ改正ヲ來シタル結果ニ外ナラサレハ政府ハ之ニ對シ相當ノ方法ヲ設ケテ處置セサル可ラス是ニ於テ乎改正條例發布後一日ヲ隔テ八月三日紙幣頭得能良介ハ曩ニ四銀行救濟ノ爲メ其發行紙幣ヲ抵當トシテ政府ニ上納セシメ同額ノ新紙幣ヲ貸付シタル金額ヲ以テ差引キ四銀行ヨリ大藏省ニ預ケ入レタル金札引換公債證書ヲ買戻サンコトヲ大藏卿ニ稟議シ速ニ其承認ヲ得タリ其稟議ニ曰ク

今般特別ノ御詮議ヲ以テ國立銀行條例御改定御發行相成候處右條例ニ於テ發行紙幣抵當ノ規定ハ四朱以上利付ノ公債證書卽チ新公債證書秩祿公債證書又ハ金札引換公債證書ノ內ヲ以テ可相納ノ旨揭載有之候間自今國立銀行創立願出候モノハ無論新公債證書秩祿公債證書ノ內ヲ以テ抵當上納致シ金札引換公債證書ヲ願受抵當ニ差出ス者ハ有之間敷其損益ハ別紙記載之通ニ有之候然ルニ是迄各銀行ヨリ發行紙幣ノ抵當トシテ出納寮ヘ納置候記名證書百四拾貳萬圓（第一銀行ヨリ九拾萬圓第二銀行ヨリ拾萬圓第四銀行ヨリ拾貳萬圓第五銀行ヨリ參拾萬圓）ハ舊條例ノ規定ニ從ヒ銀行創立ニ付證書面同額ノ金員ヲ現ニ上納シテ願受ケタルモノニ有之候間舊條例御廢止ノ上ハ右記名證券悉皆政府ニ於テ御買揚相成候樣致シ置キ候開業免狀ハ返納爲致新條例ニ從

ヒ夫々ノ手續ヲナシタル上更ニ開業免狀下付可致都合ニ有之候間其節ハ新條例ノ規定ニ依リ新公債證書又ハ秩祿公債證書ヲ以テ其銀行ノ都合ニ任セ抵當上納爲致度候且ツ此際右記名證書御買揚不相成ニ於テハ新舊銀行ノ間其得失徑庭シテ折角ノ特旨モ舊銀行ノ爲ニハ裨益無之各銀行ヲ周救スルノ本旨ヲ失シ不都合ニ有之候間各銀行願出次第記名證書百四拾貳萬圓ハ御買揚ニ相成兼テ國債寮ヨリ銀行紙幣ヲ抵當トシテ各銀行ヘ御貸下ケニ相成居候百貳拾六萬圓（第一銀行九拾萬圓第二銀行拾萬圓第四銀行拾壹萬圓第五銀行拾五萬圓）ノ銀行紙幣ト借用證書及ヒ殘高拾六萬圓御下渡金札引換公債證書ヲ上納爲致候樣致度此段及稟議候也

（別紙）

秩祿公債證書抵當ノ分

一 金百萬圓　資本金

內

金八拾萬圓　發行紙幣抵當秩祿公債證書
九拾萬九千九拾壹圓買入代
但證書面金額百圓ニ付八拾八圓積リ

金貳拾萬圓　準備金高

右抵當公債證書ヨリ生スル利益左之通

一 金七萬貳千七百貳拾七圓貳拾八錢　右秩祿公債證書年八分ノ利息

一 金壹萬八千百八拾壹圓八拾參錢參厘　同抽籤當リ六ケ年平均ノ利益

合金九萬〇九百〇九圓拾壹錢參厘

記名公債證書抵當ノ分

一 金百萬圓 資本金

內

金八拾萬圓 發行紙幣抵當記名公債證書八拾萬圓願受代但證書面百圓ニ付百圓

金貳拾萬圓 準備金高

右抵當記名公債證書ヨリ生スル利益左之通

一 金四萬八千圓 右記名公債證書年六朱ノ利息

一 金七百貳拾圓 右四萬八千圓ノ利息ハ金貨ヲ以テ御拂下ケニ付百圓ニ付壹圓五拾錢ノ差ト見積リ如斯買入元金八拾萬圓ノ年六朱〇九ニ當ル

合金四萬八千七百貳拾圓

但秩祿公債證書抵當ノ利益ニ比スレハ一ケ年ニ付金四萬貳千百八拾九圓拾壹錢參厘ノ損

舊國立銀行ニ對スル處分ハ右ノ如ク省議決定ニ至リタルヲ以テ東京第一國立銀行ハ同月二十六日左ノ如ク請願シテ許可ヲ得タリ

本月一日公布相成候改定國立銀行條例ニ照準當銀行改業出願仕昨二十五日御許可被成下候ニ付テハ發行紙幣ノ抵當トシテ上納可仕公債證書ハ四朱以上利付之物ヲ差出可申旨條例中御揭示有之候ニ付秩祿公債證書新公債證書ノ中ヲ以テ相納可申ト奉存候就テハ舊條例ヲ以テ發行紙幣ノ抵當トシテ上納仕候金札引換公債證書九拾萬圓ハ最初當銀行創立御許可ノ節同額ノ金員上納御下付相成候儀ニテ他ノ公債證書ノ類トハ相異リ利息割合ニ於テモ自ラ差違有之候ニ付何卒右九拾萬圓ハ同價額ヲ以テ御買被成下度此段御聞屆之程奉願候也

明治九年八月二十六日

得能紙幣頭殿

他ノ三行モ亦續テ同一ノ寬典ヲ受ケタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ國立銀行條例ノ改正ハ曾ニ條規ノ改正ニ止マラス實際舊條例ニ從テ施行シタル處分マテモ盡ク改正スルニ至リタリト云フヘシ

第二項 國立銀行創立ノ實況

第一國立銀行

改正條例ハ國立銀行ノ營業ニ非常ノ便利ヲ與ヘタルカ政府ニ於テモ亦大ニ國立銀行ノ創立ヲ奬勵シテ條例改正ノ本旨ヲ達センコトヲ欲セリ明治九年八月十五日內務大藏兩卿ヨリ各地方官ニ發シタル左ノ內達ハ以テ能ク其眞意ノアル所ヲ窺フニ足ルヘシ

銀行ノ儀ハ民間ノ財源ヲ開キ其融通ノ便宜ヲ助クルノ媒介ニシテ民間凡百ノ營業新ニ工業ヲ開キ農業ヲ起スカ如キ凡ソ其資本ヲ要スル所ノ者ハ皆ナ貸借ニ依ラサルハナカルヘシ而シテ其貸借ノ便ヲ助クルハ銀行ノ設ケアルニ如クハナシ是レ曾テ之カ創立ノ方法ヲ制シ國立銀行條例ヲ發布セラレ爾來ノ經驗ニ因テ今般該條例ヲ改定頒行セラレシ所以ナリ夫レ銀行營業ノ方法タルヤ卽チ條例中明載スルカ如ク其資本金百分ノ二十ヲ以テ之ヲ社幣兌換ノ準備ニ充テ

其殘額八十ヲ以テ公債證書ニ變換シ而シテ之ヲ政府ニ納メ以テ之カ同額ノ社幣ヲ發行シ其營業ニ從事スルモノニシテ其利益ニ至テハ一ハ以テ其社幣貸付ノ金額ヨリ生シ乃チ二重ノ利息ヲ要スルモノニシテ其所得ノ利益モ亦少シトセス是レ畢竟遠境都鄙ノ別ナク金銀ノ融通ヲ開キ之カ貸借ノ道ヲ便ニシ一ハ以テ普ク人民就産ノ道ヲ助ケ一ハ以テ廣ク開物生産ノ基ヒヲ開キ終ニ物産蕃殖ノ旺盛ヲ永遠ニ期セラレントノ盛意ニ有之併シ銀行ノ設ケタル其日尚ホ淺ク其營業未タ旺盛ナラス故ニ民間ニ在ツテハ未タ銀行ノ何物タルヲ辨知セス或ハ之ヲ官廳ト同視シ或ハ三井組ト看做スノ類不少哉ニテ此等ハ其人民ノ不注意ニ依ルト雖モ地方官ニ於テ厚ク注意ヲ加ヘ反覆說諭スル所アルニ非サレハ縱令條例アリト雖モ終ニ放擲誤認ナキヲ保チカタシ而シテ漫リニ威逼誘導强テ結社セシムルヲ用キスト雖モ須ラク該條例ノ旨趣ニ準據シ其地方管民ヲシテ其盛意ノ依ル所ヲ了解セシメ追々結社創立候樣可致然ルトキハ民間金銀ノ流融ヲ疏通シ物貨ノ蕃殖ハ勿論隨テ人民就産ノ道モ亦之レヨリ相開ケ候儀ニ可有之管民一般苟モ之カ方向ヲ誤ラシメサル樣篤ト玆ニ注意可致尤モ該條例ノ旨趣竝ニ其方法等了解シ難キ廉有之ニ於テハ便宜縣官ヲシテ紙幣寮ニ出張シテ之ヲ質問セシムヘク又管下有志中該條例ノ旨趣竝ニ銀行簿記ノ方法等自費ヲ以テ研究致シ度志願ノ者有之ニ於テハ是亦直ニ紙幣寮ニ出願セシメ傳習ヲ受ケシムヘク因テ更ニ條例二十冊相添ヘ此旨及內達候也

明治九年八月十五日

大藏卿 大隈重信

斯クテ改正條例ニ從ヒ明治九年第一第二第四第五ノ四國立銀行カ開業免狀ノ下付ヲ得タルノ外東京第三國立銀行ノ設立アリ次テ全國各地銀行創立ノ計畫漸ク盛ナルニ及ヘリ

明治九年八月五日第百八號布告ヲ以テ金祿公債證書發行條例ノ頒布アルヤ同時ニ第百九號布告ヲ以テ右證書ハ當分書入質入竝ニ賣買約定ヲ禁止スル旨ヲ布告セリ蓋シ一ハ金祿公債證書ノ未タ下付ナラサルニ書入質入竝ニ賣買約定ヲ結フハ大ニ弊害ヲ生シ取扱ノ不便ヲ來スノ虞アリタルト一ハ華士族ノ輩ニシテ奸商ノ爲ニ誘惑セラレ終ニ就産ノ道ヲ失ハンコトヲ慮リ豫メ之カ保護ヲ爲シタルトニ由レリ然ルニ當時各地方ニ於テ金祿公債證書ヲ以テ銀行ヲ起サンコトヲ請願スル者往々之アリ地方官ヨリ此種銀行ノ成否ヲ伺出テタル者アリト雖モ該證書ノ書入質入竝ニ賣買約定ノ禁止ヲ解カルヽニ非サレハ之カ創立ヲ許可スヘカラサルヲ以テ大藏省ハ其旨ヲ指令セリ而シテ政府ノ意ハ實際金祿公債證書下付ノ日ニ於テハ其抵當賣買ノ禁ヲ解クハ勿論銀行條例改正ノ主意モ該證書ヲ以テ銀行ヲ起サシメントスルニアリタルヲ以テ此內意ヲ地方官ニ通達センコトヲ明治十年二月七日大藏卿ヨリ太政官ニ稟議シテ其裁可ヲ得三月十四日ヲ以テ大藏卿ヨリ各府縣ヘ左ノ如ク內達セリ

今般御發行ノ金祿公債證書ヲ以テ國立銀行創立致度望之者各地方ニ於テモ往々有之哉ノ趣相聞候處右ハ昨明治九年太政官第百九號布告之趣モ有之ニ付目下創立之儀難聞屆筈ニハ候ヘトモ國立銀行ノ儀ハ貨財流通ノ媒介ニシテ工藝ヲ開キ物産ヲ興スカ如キ乃チ授産ノ爲メ其裨益タルハ勿論客歲第百九號御布告ノ如キモ畢竟將來就産之道ヲ失ハンコトヲ深慮セラレ候儀ニ

内務卿 大久保利通

有之ニ付追々下渡候該證書ヲ以テ國立銀行設立志願ノモノハ許可可相成筈ニ候條地方官ニ於テ其邊相含ミ居候樣可致此旨及內達候事

抑〻銀行ノ創立ヲ企ツモノ益〻多キヲ加ヘタルハ必竟銀行條例ノ改正ヲ以テ非常ノ特典ヲ銀行家ニ附與シタルト政府カ種々ノ方法ヲ以テ銀行ノ創立ヲ奬勵シタルトニ由レリ而シテ其結果銀行創立ハ一時社會ニ流行シ地方商業ノ大小金融ノ閑劇ナルト否トヲ顧ミス又銀行營業ノ如何ヲ熟知セス或ハ地方官ノ諭達ヲ誤認シ苟モ祿券ヲ下付セラレタル士族ハ銀行ヲ創立セサルヘカラサルノ義務アリト信シ頻ニ其設立ニ狂奔シテ陸續大藏省ニ出願スルノ狀況ナリキ

是ニ於テ大藏省ハ國立銀行設立ノ奔逸ヲ矯正スルノ方針ヲ採リ明治十年八月二十八日ヲ以テ大藏卿ハ再ヒ左ノ如ク地方官ニ內達セリ

國立銀行ノ義ニ付テハ先般及御內達候處何レモ其趣旨ヲ領得シ管民ヲシテ其方向ヲ誤ラシメサル樣夫々注意有之趣ニテ各地方共追々銀行創立等ノ企望ヲ抱ク者不少哉ニ相聞候然ルニ士族輩ニ至テハ其管內ノ士族ハ必スシモ協同結社セサルヲ得サルモノヽ如ク相心得銀行ニ望ミナキ者ヲモ或ハ强テ誘導セントスルカ如キ者有之哉ノ趣ニ候得共是等ハ各地方官ニ於テ固ヨリ注意モ有之筈ニ付敢テ不都合ニ立至リ候憂ハ有之間敷候得共銀行創立ノ義ハ人民各自ノ自由ニ任セ候儀ニテ官ヨリ强テ勸奬ヲ要セサルハ勿論人民ニ於テモ互ニ相强誘スル等ノ儀不相成候ニ付猶其邊ノ處篤ト注意可有之且銀行創立ノ義ハ其土地ノ廣狹人口ノ多寡物產ノ有否其他商業取引ノ模樣ニヨリ自然其興否得失ノ次第モ有之且銀行ハ禍福ノ門戶トモ謂フヘキ者ニテ其營業ノ宜キヲ得ルト不ラサルトニヨリテ著シク其利害損益ノ歸着スル所ヲ異ニスル者ニ付該事業ノ興廢ハ偏ニ其銀行主ニ存スルモノニシテ到底適宜ノ役員ヲ得ルニ非サレハ假令銀行ノ設ケアルモ其營業上終ニ蹉跌倒行ノ憂ヲ生シ利益ヲ期シテ却テ損失ヲ招クニ立至リ加之凡ソ貸財ノ運用ハ其地方自ラ定限アルモノニ付或ハ不適度ノ資本ヲ要シ或ハ過多ノ銀行ヲ起スモ終ニ之カ運轉使用ニ苦ムノミニテ結局其功用ヲ失シ尋テ民間多少ノ弊害ヲ釀スモ難計ニ付其邊篤ト熟慮致シ前途ノ差閊ヲ不生樣尙ホ一層注意有之度此段更ニ爲心得尙亦及內達候事

右ニ述ヘタル如ク銀行條例改正ト政府ノ奬勵トニ由リ銀行ノ創立ヲ出願スル者非常ニ多ク爲ニ政府ハ其創立ヲ少シク制限スルノ必要ヲ感スルニ至レリ仍テ明治十年十二月第八十三號布告ヲ以テ國立銀行條例ニ重要ナル追加ヲナシ次テ同十一年三月同條例第十八條ヲ改正シ大藏卿ノ權限ヲ擴張シ國立銀行創立ノ許否資本金額ノ多少竝ニ發行紙幣ノ節減等ヲ自由ニ裁量處分スルヲ得ルコトヽセシコト前ニ記スルカ如シ

今大藏省銀行課第四回年報書ニヨリ明治十年度ニ於ケル創立ノ狀況ヲ按スルニ國立銀行條例ヲ遵奉シテ銀行創立ヲ出願セシ件數前年度ヨリ受越シノモノ九、本年度中ニ受付ケシモノ百二十三合計百三十二ナリ此內旣ニ開業免狀ヲ下付セラレシモノ二十七又創立願出中其資金內定高ニ餘額ナキモノ或ハ願高其地方ニ不適當等ノ事故アリテ節減ヲ指令セラレタルモノ則チ四十五此ノ內御指令ノ旨ヲ奉シ資金減額ノ上創立再願セシモノ三十九又同上ノ御指令アリト雖モ本年度中ニ再願セサルモノ四又同上ノ御指令ヨリ創立願止メノモノ二又創立願ヲ聽許セラレシ員數六十七又一旦創立聞屆ラレシ後詮議ノ次第アッテ其創立ヲ差止メラレシモノ一、創立願止メノモノ一

創立聞屆ラレサルモノ九又創立願本年度中處分未濟ニ係ルモノ二十七トス而シテ資金ノ節減ヲ指令セラレタル四十五個ノ銀行資金願出高ハ合計七百八拾壹萬八千圓ナリシカ大藏省ハ其內參百六拾九萬八千圓ヲ減少シ四百拾貳萬圓ト爲スヘキ旨ヲ指令シタリキ又同十年度中既ニ開業セル銀行ノ資本增額ヲ出願セルモノ總計三十一其金額參百五拾參萬七千圓ニシテ本年度內ニ增額ヲ許可セラレシモノ十九其金額ハ貳百貳拾貳萬圓ナリ以テ當時銀行創立願ノ非常ニ多カリシトヲ見ルヘキナリ

而シテ先ニ政府カ祿券銀行ヲ許可スヘキノ內意ヲ示シタル以來祿券銀行ノ設立ヲ願出ツル者益多キヲ加ヘタリ然レトモ實際祿券下付ノ上ニアラサレハ其賣買書入質入等ノ禁止解ケサルヲ以テ大藏省ハ單ニ其願意ヲ聞置クニ付祿券下付ノ上更ニ願出ツヘキ旨ヲ指令シ銀行ノ名號ヲ附與セサリシカハ發起人等株主ヲ團結スルニ苦ミ中ニハ衆望ニ背キテ解散ノ不幸ニ瀕スルモノナキニアラス且ツ祿券ノ下付モ稍近キニ在ルヲ以テ銀行課長岩崎小二郎ハ明治十一年一月七日左ノ如ク稟議シタリ

金祿公債證書ヲ以テ國立銀行創立願出既ニ御許可相成候モノ許多有之候處右ハ金祿公債證書御下付ノ上何レモ名號御附與相成ヘク筈ニ有之然ル處卽今創立御允許相成ノミニテ名號御附與無之テハ一般ノ氣配ニモ差響キ折角結合イタセシ輩モ自カラ解散ノ情勢モ有之發起人等ニ於テモ頗ル苦心ノ趣ニ相聞候ニ付卽今名號御附與相成候トモ別ニ差閊ノ事項モ無之候間創立御允許ノ順序ニ從ヒ銀行發起等ヘ名號御附與ノ儀御達相成度云々

而シテ此伺ハ速ニ大藏卿ノ允裁ヲ得直ニ各發起人等ヘ行名附與ノ儀ヲ達シタリ尋テ同年九月九

日第二十五號布告ヲ以テ政府ハ金祿公債證書書入質入竝ニ賣買等ノ禁止ヲ解キタルヲ以テ祿券銀行ノ開業スルモノ頓ニ增加ヲ致セリ

今此ニ明治九年八月銀行條例改正ヨリ以降銀行創立ノ景況ヲ按スルニ明治九年度(自九年七月一日至十年六月三十日)ニ於テ國立銀行ノ創立十二行資本高合計貳千壹百拾七萬六千壹百圓發行紙幣高合計壹千九百參拾四萬八百八拾圓此十二行中祿券ヲ以テ資本金ト爲ス者一卽チ第十五銀行ニシテ其資本金壹千七百八拾貳萬六千百圓ナリ明治十年度創立ノ銀行ハ二十七行資本高合計參百貳拾參萬圓發行紙幣高合計貳百五拾八萬四千圓ニシテ祿券銀行ナシ明治十一年度ニ於テ銀行ノ創立百九十行其資本金高合計壹千貳百五拾四萬五千圓發行紙幣高合計九百六拾貳萬八千圓ナリ此ノ資本金ノ內祿券千百貳拾九萬五千圓ナリ明治十二年度ニ於テ銀行ノ創立五行其資本金高合計七拾七萬五千圓發行紙幣高合計五拾五萬六千圓此ノ資本金ノ內祿券若干圓ナリ而シテ此十二年度ニ創立開業シタル五銀行ノ內最後ナル者ハ十二年十二月五日ヲ以テ開業シタル京都第百五十三銀行是ナリ而シテ諸國立銀行ノ旣ニ開業シタル者ニ增株ヲ許可セシ者十二年度マテニ四百參拾八萬五千圓ニ達シタリ而シテ此第百五十三銀行ノ開業ニヨリ先ニ大藏卿カ內定シタル國立銀行資本金總額四千萬圓ノ制限ヲ超過スルニ至レルヲ以テ此以後ニ於テ國立銀行ノ創立ハ無カリキ故ニ第百五十三國立銀行ハ九年改正國立銀行條例ヲ遵奉シテ我國ニ開業シタル最後ノ國立銀行ナリトス

以上九年度十年度十一年度及ヒ十二年度ノ四年度間ニ創立シタル銀行ノ景況ヲ對比スルニ左ノ如シ

年度	年度内ニ開業セシ銀行ノ數	同上資本金額	同上發行紙幣高
九年度	二	二一、一七六、一〇〇圓	一九、三四〇、八八〇圓
十年度	十七	三、二三〇、〇〇〇	二、五八四、〇〇〇
十一年度	百〇九	一二、五四五、〇〇〇	九、六二八、〇〇〇
十二年度	五	七七五、〇〇〇	五五六、〇〇〇
合計	百五十三	三七、七二六、一〇〇	三二、一〇八、八八〇

是ニ於テ之ヲ見レハ國立銀行創立ノ最モ巨多ナリシハ九年度ナリシヲ知ルヘシ又十二年度ハ銀行紙幣發行免許僅少ナルヲ以テ暫ク之ヲ算外ニ置クトキハ僅々三年間ニシテ銀行創立ノ巨多ナル其發行紙幣ノ巨額ナル農工商業進歩ノ度ニ比較シ遙ニ超過セシモノナキヤノ疑問ハ自ラ免レサルカ如シ

左ニ百五十三個ノ國立銀行ヲ列記シ其資本高並ニ發行紙幣高ノ沿革ヲ掲ケ且ツ明治十五年六月三十日ニ於ケル現計ヲ示サン

國立銀行創立時期資本金高及發行紙幣高表

國立銀行名稱	開業免狀下付年月日	資本金高	資本增減	同上年月	資本金現高（十五年六月三十日）	發行紙幣現高（十五年六月三十日）	支店數
	開業日	發行紙幣高	發行紙幣增減				
東京第一	九年九月二十六日	一、三〇〇、〇〇〇			一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	
東京第三	九年十二月一日 九年十二月五日	二〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇増	十一年八月十六日	二一六、〇〇〇	二一六、〇〇〇	
新潟第四	九年十二月十九日	三〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇増	同上	三二四、〇〇〇	三二四、〇〇〇	
東京第五	九年十月五日	三〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇増	同上	三二四、〇〇〇	三二四、〇〇〇	
福島第六	十年二月十三日 十年三月十五日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇増	十一年四月二日	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	
高知第七	十年二月二十日 十年三月十五日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇増	十一年度中ニ二回增ス	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	
豐橋第八	十年二月二十二日 十年三月二十日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇増	十一年四月三十日	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	
山梨第十	十年三月二十二日 十年四月十五日	一五〇、〇〇〇	一二、〇〇〇増	十一年八月一日	一六二、〇〇〇	一六二、〇〇〇	
名古屋第十一	十年五月二十六日 十年七月十八日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇増	十一年四月八日	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	
大阪第十三	十年五月十五日 十年五月二十一日	二五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇増	十一年四月八日	二七〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	
東京第十五	十年九月二十七日	一七、八二六、一〇〇	一六、六六〇、八八〇	十二年二月及ヒ十三年五月二回增ス	一七、八二六、一〇〇	一六、六六〇、八八〇	
熊本第九	十年十一月二十二日 十年十二月十五日	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇増	九、十一、十二ノ三年度間ニ三回增ス	五〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	

國立銀行名稱	開業免狀下付年月日	資本金高	資本增減	同上年月	資本金現高（十五年六月三十日）	發行紙幣現高（十五年六月三十日）	支店數
	開業日	發行紙幣高	發行紙幣增減				
横濱第二	九年十一月二十八日	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇增	九、十一、十二ノ三年度間ニ三回增ス	五〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	
東京第三	九年十二月一日 九年十二月五日	二〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇増	十一年八月十六日	二一六、〇〇〇	二一六、〇〇〇	
新潟第四	九年十二月十九日	三〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇増	同上	三二四、〇〇〇	三二四、〇〇〇	
東京第五	九年十月五日	三〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇増	同上	三二四、〇〇〇	三二四、〇〇〇	
福島第六	十年二月十三日 十年三月十五日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇増	十一年四月二日	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	
高知第七	十年二月二十日 十年三月十五日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇増	十一年度中ニ二回增ス	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	
豐橋第八	十年二月二十二日 十年三月二十日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇増	十一年四月三十日	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	
山梨第十	十年三月二十二日 十年四月十五日	一五〇、〇〇〇	一二、〇〇〇増	十一年八月一日	一六二、〇〇〇	一六二、〇〇〇	
名古屋第十一	十年五月二十六日 十年七月十八日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇増	十一年四月八日	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	
大阪第十三	十年五月十五日 十年五月二十一日	二五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇増	十一年四月八日	二七〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	
東京第十五	十年九月二十七日	一七、八二六、一〇〇	一六、六六〇、八八〇	十二年二月及ヒ十三年五月二回增ス	一七、八二六、一〇〇	一六、六六〇、八八〇	
熊本第九	十年十一月二十二日 十年十二月十五日	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇増	九、十一、十二ノ三年度間ニ三回增ス	五〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	

山梨第十水戸第百四大阪第百二十一ノ三行ハ創立或ハ增株ノ際紙幣發行許可高ニ達セサル者ハ規定ノ割合ニ從ヒ二十二年一月ニ至リ右三行ノ請願ニ上發行高ヲ增加セリ

金澤第十二	十年七月二日	二〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇						
	十年八月二十六日								
松本第十四	十年七月十七日	一〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇						
	十年八月五日								
岐阜第十六	十年八月八日	五〇、〇〇〇	四、〇〇〇						
	十年十月一日								
福岡第十七	十年九月二十二日	一〇五、〇〇〇	八四、〇〇〇						
	十年十一月一日								
長崎第十八	十年十一月二日	一六、〇〇〇	一二八、〇〇〇						
	十年十二月二十日								
上田第十九	十年十月十日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇						
	十年十一月八日								
東京第二十	十年七月十一日	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇						
	十年八月十日								
横濱第二十一	十年十一月三十日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇						
	十年十二月一日								
岡山第二十二	十年十月十日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇増	二〇〇、〇〇〇				
	十年十一月十五日			一九二、〇〇〇増					
大分第二十三	十年十月十二日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇増	八〇、〇〇〇				
	十年十一月十一日								
飯山第二十四	十年十月十九日	八〇、〇〇〇	六四、〇〇〇	八〇、〇〇〇増	六四、〇〇〇				
	十年十一月一日								
小濱第二十五	十年十二月十七日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇						
	十一年一月四日								

十三年九月福岡第十七大阪支店ヲ本店ト爲シ大阪第十七ト改稱ス

十四年三月九日

十二及ヒ十四兩年度ニ回增ス

十二年一月二十日

十一年八月三十一日

十一年八月及ヒ十三年六月二回增ス

十一年八月及ヒ同十二月二回增ス

十一年十二月九日

十一年十二月二十四日

大阪第二十六	十一年二月十八日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇増	一二〇、〇〇〇				
	十一年四月二十五日								
東京第二十七	十年十二月七日	二一〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇	九〇、〇〇〇増	七二、〇〇〇				
	十年十二月二十八日			三二、〇〇〇増					
濱松第二十八	十年十二月二十八日	一二〇、〇〇〇	九六、〇〇〇	一八〇、〇〇〇増	一四四、〇〇〇				
	十一年一月十日			六四、〇〇〇増					
川ノ石第二十九	十一年一月二十九日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇増	四〇、〇〇〇				
	十一年三月十五日								
東京第三十	十年十二月十五日	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇						
	十年十二月二十四日								
若松第三十一	十一年三月十四日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇						
	十一年六月一日								
大阪第三十二	十一年一月十六日	一三〇、〇〇〇	一〇四、〇〇〇	一二〇、〇〇〇増	九六、〇〇〇				
	十一年二月一日								
東京第三十三	十一年一月十九日	二〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇						
	十一年二月一日								
大阪第三十四	十一年三月十四日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇増	一二〇、〇〇〇				
	十一年四月十三日								
靜岡第三十五	十一年五月四日	七〇、〇〇〇	五六、〇〇〇						
	十一年五月十五日								
八王子第三十六	十一年二月十六日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇増	八〇、〇〇〇				
	十一年四月二十三日								
京都第四十九	十一年五月二日	二〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇						
	十一年六月一日								

十一年十二月及ヒ十二年十二月二回增ス

十年度及ヒ十四年度ニ回增ス

十一、十三、十四ノ三年度ニ三回增ス

十四年度

十三年三月第百四十三銀行ノ分合併

十一年十二月及ヒ十三年一月二回增ス此他二銀行ノ合併スルモノアリ

十三年六月十一日

十一年八月及ヒ十二年六月二回增ス

十四年二月五日

十一年十一月及ヒ十三年八月二回

明石第五十六	十一年六月十一日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇		
	十一年八月　四日				
大津第六十四	十一年六月十七日	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇増	十二、十三、十四ノ三年度間三回
	十一年七月二十日			二四、〇〇〇増	
高知第三十七	十一年十月十七日	一五〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇		
	十一年十二月　八日				
姫路第三十八	十一年十月　三日	二三〇、〇〇〇	一八四、〇〇〇		
	十一年十一月二十日				
前橋第三十九	十一年九月　十日	三五〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇		
	十一年十一月　九日				
館林第四十	十一年九月　四日	一五〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇		
	十一年十一月　五日				
栃木第四十一	十一年九月廿四日	二〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇		
	十一年九月　八日				
大阪第四十二	十一年十　月　二日	二〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇増	十二年十二月十八日
	十一年十月十八日				
和歌山第四十三	十一年十月二十二日	二〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇		
	十一年十一月二十五日				
東京第四十四	十一年七月　三十日	七〇〇、〇〇〇	五六〇、〇〇〇		
	十一年八月　一日				
東京第四十五	十一年十月二十一日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇		
	十一年十月二十五日				
多治見第四十六	十二年　二月十四日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇増	十三及ヒ十四兩年度二回

（十二年三月大津銀行ヘ第六十四銀行ノ資本金十萬圓ヲ減シ第百三十三銀行ヲ創立）

八幡第四十七	十一年十月十八日	九五、〇〇〇	七六、〇〇〇		
	十一年十一月十五日				
秋田第四十八	十一年十二月十七日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇増	十一年十二月十三年一月二回
	十一年一月　四日				
土浦第五十	十一年八月十四日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇		
	十一年九月　九日				
岸和田第五十一	十一年九月三十日	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇		
	十一年十二月　五日				
松山第五十二	十一年九月十四日	七〇、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇増	十一年度及ヒ十四年度二回
	十一年九月二十五日			二四、〇〇〇増	
津和野第五十三	十一年十二月十一日	八〇、〇〇〇	六四、〇〇〇		
	十一年　二月　一日				
沼津第五十四	十一年九月二十七日	七〇、〇〇〇	五六、〇〇〇		
	十一年十月十一日				
出石第五十五	十一年九月二十四日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇		
	十一年十一月　一日				
武生第五十七	十一年十月　五日	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇		
	十一年十月二十八日				
大阪第五十八	十一年十月二十八日	一二〇、〇〇〇	九六、〇〇〇	八〇、〇〇〇増	十二年十二月二十三日
	十一年十一月二十八日			四〇、〇〇〇増	
弘前第五十九	十一年十二月　十日	二〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇		
	十二年　一月二十日				
東京第六十	十一年八月十七日	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇		
	十一年九月　二日				

久留米第六十一	十一年十一月　六日	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇増	十三年　五月　七日	一五〇、〇〇〇
	十一年十一月　二十日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
水戸第六十二	十一年十月十四日	一〇〇、〇〇〇			一〇〇、〇〇〇
	十一年十月二十五日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
松代第六十三	十一年十月二十八日	一〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇増	十二年十二月二十二日	二五〇、〇〇〇
	十一年十二月　一日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
鳥取第六十五	十一年　一月十五日	七〇、〇〇〇			七〇、〇〇〇
	十二年　一月　四日	五六、〇〇〇			五六、〇〇〇
尾ノ道第六十六	十一年十一月二十九日	一八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇増	十三年　七月　三日	二五〇、〇〇〇
	十二年　四月　二十日	一四四、〇〇〇			一四四、〇〇〇
鶴岡第六十七	十九年　九月十九日	八〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇増	十二年十二月十一日他ニ銀行ノ合併アリ	二五〇、〇〇〇
	十九年十二月　一日	六四、〇〇〇			一二八、〇〇〇
郡山第六十八	十一年十月　八日	八〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇増	十三年十二月二十二日	二三〇、〇〇〇
	十二年　一月十一日	六四、〇〇〇			八〇、〇〇〇
長岡第六十九	十一年十一月　二日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
	十一年十二月二十日	六四、〇〇〇			六四、〇〇〇
淀　第七十	十一年十二月二十五日	八〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇減	十　三　年　度	五〇、〇〇〇
	十二年　四月　一日	六四、〇〇〇			四〇、〇〇〇
村上第七十一	十一年十月　七日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
	十一年十一月十五日	六四、〇〇〇			六四、〇〇〇
酒田第七十二	十一年　九月　二十日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
	十一年十一月二十五日	六四、〇〇〇			六四、〇〇〇
兵庫第七十三	十一年　十月　三十日	五〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇増	十二年二月及ヒ十二年十二月二回	一四〇、〇〇〇
	十一年十二月二十二日	四〇、〇〇〇	七二、〇〇〇増		一一二、〇〇〇

十二年度中神戸支店ヲ本店トシ兵庫ヲ支店トス

横濱第七十四	十一年　七月十九日	二五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇増	十二年　一月二十二日	四〇〇、〇〇〇
	十一年　七月　三十日	一〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇増		三二〇、〇〇〇
金澤第七十五	十一年十一月　六日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇増	十三年　四月二十八日	一〇〇、〇〇〇
	十二年　一月二十五日	四〇、〇〇〇			四〇、〇〇〇
高須第七十六	十一年十月二十五日	七〇、〇〇〇			七〇、〇〇〇
	十二年　一月　六日	五六、〇〇〇			五六、〇〇〇
仙臺第七十七	十一年十一月　七日	二五〇、〇〇〇			二五〇、〇〇〇
	十一年十二月　九日	二〇〇、〇〇〇			二〇〇、〇〇〇
中津第七十八	十一年十月十九日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
	十一年十二月　二十日	六四、〇〇〇			六四、〇〇〇
松江第七十九	十一年十月十二日	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇増	十二年二月及ヒ十四年一月二回	二〇〇、〇〇〇
	十一年十一月二十三日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
高知第八十	十一年十月　八日	一〇〇、〇〇〇			一〇〇、〇〇〇
	十一年十月二十八日	八〇、〇〇〇			八〇、〇〇〇
山形第八十一	十一年十月　八日	六〇、〇〇〇			六〇、〇〇〇
	十一年十二月十三日	四八、〇〇〇			四八、〇〇〇
鳥取第八十二	十一年十一月　五日	二〇〇、〇〇〇			二〇〇、〇〇〇
	十一年十一月二十四日	一六〇、〇〇〇			一六〇、〇〇〇
上野第八十三	十一年　九月二十一日	五〇、〇〇〇			五〇、〇〇〇
	十一年　十月　十八日	四〇、〇〇〇			四〇、〇〇〇
大聖寺第八十四	十一年十一月　十八日	九〇、〇〇〇			九〇、〇〇〇
	十二年　一月　四日	四〇、〇〇〇			四〇、〇〇〇
川越第八十五	十一年十一月二十六日	二〇〇、〇〇〇			二〇〇、〇〇〇
	十一年十二月　十七日	一六〇、〇〇〇			一六〇、〇〇〇

高梁第八十六	十一年十二月九日	八〇、〇〇〇		
	十二年五月一日	六四、〇〇〇		
大橋第八十七	十一年十一月二日	八〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇增	十三年十月二十九日
	十一年十二月五日	四〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	
一ノ關第八十八	十一年十一月五日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
	十一年十二月十三日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
德島第八十九	十一年十二月二十三日	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	十四年二月十七日
	十二年五月二十日	一六〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	
盛岡第九十	十一年十月八日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
	十一年十二月二日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
福井第九十一	十一年十月三日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
	十一年十二月九日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
福井第九十二	十一年十月十一日	一二〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	
	十一年十二月二日	九六、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	
三春第九十三	十一年十月十六日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	十三年四月四日
	十一年十一月二十二日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
龍野第九十四	十一年十月十九日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
	十一年十二月十二日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
東京第九十五	十一年九月十八日	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	
	十一年十月十七日	一六〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	
柳川第九十六	十一年十一月二十八日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	十三年十一月二十五日
	十二年一月四日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
小城第九十七	十二年二月十日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
	十一年三月二十五日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	

千葉第九十八	十一年十一月十六日	一二〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	
	十一年十二月七日	九六、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	
平戸第九十九	十二年一月十八日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
	十二年二月十五日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
東京第　百	十一年八月十五日	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	
	十一年九月四日	一六〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	
梁川第百一	十一年九月十四日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	十二年十二月四日
	十一年十一月三日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
嚴原第百二	十一年十一月二十八日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
	十二年一月二十八日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
岩國第百三	十一年十月二十三日	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	十三年四月十日
	十一年十二月二日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
水戸第百四	十一年九月六日	一〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	十二年三月二十八日（山梨第十ヲ見ヨ）
	十一年十月二十二日	七二、〇〇〇	二四、〇〇〇增	
津　第百五	十一年十二月四日	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	
	十二年三月十一日	六四、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	
佐賀第百六	十二年二月二十四日	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	
	十二年四月一日	二四〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	
福島第百七	十一年九月二十六日	一〇〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇	十三年六月三十日
	十一年十月十五日	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	
須賀川第百八	十一年九月十九日	五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	十三年三月九日
	十一年十月七日	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
佐伯第百九	十一年十一月十六日	五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	十四年度
	十二年一月十三日	四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇增	

十三年二月第百十八下之關支店ヲ本店ト爲ス	山口第百十	十一年十一月二十五日 十二年三月十日	六〇〇,〇〇〇 四六四,〇〇〇		六〇〇,〇〇〇 四六四,〇〇〇
	京都第百十一	十一年十一月八日 十一年十二月十日	五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇增 一六,〇〇〇增	十二年十一月二十五日	七〇,〇〇〇 五六,〇〇〇
	東京第百十二	十一年九月十九日 十一年十月八日	一〇〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇			一〇〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇
	函館第百十三	十一年十一月十三日 十二年一月六日	一五〇,〇〇〇 一二〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇增 四〇,〇〇〇增	十三年二月十七日	二〇〇,〇〇〇 一六〇,〇〇〇
	高松第百十四	十一年十月七日 十一年十一月六日	五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇增	十三年六月十日	九〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
	龜山第百十五	十一年十二月十日 十二年一月十五日	七〇,〇〇〇 五六,〇〇〇			七〇,〇〇〇 五六,〇〇〇
	新發田第百十六	十一年十二月十日 十二年二月五日	五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇增	十四年度	一五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
	飯田第百十七	十一年十二月五日 十二年一月十五日	五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇增	十四年度	一一〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
十三年十一月第百十八ハ平田第三十六ヘ合併	東京第百十八	十一年十一月十四日 十一年十二月九日	一〇〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇			
	東京第百十九	十一年十二月四日 十二年一月十一日	三〇〇,〇〇〇 一六〇,〇〇〇			三〇〇,〇〇〇 一六〇,〇〇〇
	古河第百二十	十一年九月十一日 十一年一月十一日	五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇增	十四年度	一〇〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
	大阪第百二十一	十二年一月十四日 十二年四月五日	二二〇,〇〇〇 一二〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇增	十二年十一月	二六〇,〇〇〇 一二〇,〇〇〇

十三年五月第百三十一加納ニ本店ヲ移シ加納ト改稱ス而シテ十四年七月本銀行ハ大阪第三十二ヘ合併	桑名第百二十二	十一年十二月十八日 十二年五月六日	一五〇,〇〇〇 一一二,〇〇〇		一五〇,〇〇〇 一一二,〇〇〇
	富山第百二十三	十一年十二月十七日 十二年二月一日	八〇,〇〇〇 六四,〇〇〇	五〇,〇〇〇增	十三年五月十七日	一三〇,〇〇〇 六四,〇〇〇
	見附第百二十四	十一年十月二十五日 十一年十一月十日	五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇增	十三年十二月二十二日	七〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
	米澤第百二十五	十一年十二月十九日 十二年二月十一日	八〇,〇〇〇 六四,〇〇〇			八〇,〇〇〇 六四,〇〇〇
	大阪第百二十六	十一年十二月十日 十二年一月十六日	一〇〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇增 四〇,〇〇〇增	十三年二月二十四日	二〇〇,〇〇〇 一二〇,〇〇〇
	丸龜第百二十七	十一年十二月十七日 十二年二月一日	一五〇,〇〇〇 一二〇,〇〇〇			一五〇,〇〇〇 一二〇,〇〇〇
	八幡第百二十八	十一年十二月九日 十二年二月九日	五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇			五〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
	大垣第百二十九	十一年十二月十七日 十二年四月十日	七〇,〇〇〇 五六,〇〇〇			七〇,〇〇〇 五六,〇〇〇
	大阪第百三十	十一年十二月二十七日 十二年二月十五日	二五〇,〇〇〇 一二〇,〇〇〇			二五〇,〇〇〇 一二〇,〇〇〇
	大庭第百三十一	十二年一月十五日 十二年六月十日	五〇,〇〇〇 四八,〇〇〇			
	堡ケ谷第百三十二	十二年四月二日 十二年五月二十一日	七〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇			七〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
	彦根第百三十三	十二年二月二十二日 十二年四月一日	一〇〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇			一〇〇,〇〇〇 八〇,〇〇〇

名古屋第百三十四	十一年十二月二日 十二年一月八日	一五〇、〇〇〇 一二〇、〇〇〇			一五〇、〇〇〇 一二〇、〇〇〇
宇土第百三十五	十二年一月七日 十二年四月十五日	八〇、〇〇〇 六四、〇〇〇			八〇、〇〇〇 六四、〇〇〇
半田第百三十六	十二年二月二十日 十二年六月二十八日	七〇、〇〇〇 五六、〇〇〇		十三年十一月第百十八ノ分合併	一七〇、〇〇〇 一三六、〇〇〇
笹山第百三十七	十二年四月十一日 十二年六月十五日	五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇			五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇
二俣第百三十八	十二年二月十二日 十二年三月一日	五〇、〇〇〇 三二、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇増	十二、十三、十四ノ三年度三回	一五〇、〇〇〇 三二、〇〇〇
高田第百三十九	十二年二月二十六日	一〇〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇増	十三年九月二十八日	二〇〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇
十四年一月第百四十八鶴岡第六十七ヘ合併ス 山形第百四十	十二年三月二十日	一〇〇、〇〇〇 九四、〇〇〇			
西條第百四十一	十二年四月十二日	五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇			五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇
十四年十月第百四十二ハ大阪第三十二ヘ合併ス 銚子第百四十二	十二年三月十四日 十二年五月三日	五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇			
十三年三月第百四十三ハ東京第三十ニ合併ス 八街第百四十三	十二年三月二十八日 十二年六月七日	一〇〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇			
飫肥第百四十四	十二年五月一日	五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇			五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇
延岡第百四十五	十二年四月十七日	五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇			五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇

廣島第百四十六	十二年四月二十一日	八〇、〇〇〇 六四、〇〇〇			八〇、〇〇〇 六四、〇〇〇
大阪第百四十八	十二年三月十八日 同　四月二十一日	一〇〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇			一〇〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇
八戸第百五十	十二年五月二日	五〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇増	十三年九月十一日	一〇〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇
鹿兒島第百四十七	十二年八月三十日 同　十月六日	四〇〇、〇〇〇 三二〇、〇〇〇			四〇〇、〇〇〇 三二〇、〇〇〇
函館第百四十九	十二年八月二十二日 十三年二月十日	一三〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇			一三〇、〇〇〇 八〇、〇〇〇
熊本第百五十一	十二年八月二十六日 同　十月二十五日	六五、〇〇〇 五二、〇〇〇			六五、〇〇〇 五二、〇〇〇
沖繩第百五十二	十二年十二月十日 十三年三月十五日	一〇〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇増	十四年度	一三〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇
京都第百五十三	十二年十一月十一日 同　十二月五日	八〇、〇〇〇 六四、〇〇〇			八〇、〇〇〇 六四、〇〇〇
合計		三七、七二六、一〇〇 三二、一〇八、八八〇	資六、三九〇、〇〇〇増 一二〇、〇〇〇減 紙二、三六八、〇〇〇増 八〇、〇〇〇減	九年度ヨリ十四年度ニ至ル	四三、九九六、一〇〇 三四、三九六、八八〇

改正國立銀行條例發布後第一第二第四第五ノ四國立銀行ハ何レモ改正條例ニ遵テ開業免狀ノ下付ヲ出願シ各直ニ許可ヲ得其他新ニ國立銀行ノ創立ヲ出願スルモノ續々踵ヲ接スルノ有樣ナリシコト前ニ述ヘシ如シ仍テ紙幣頭得能良介ハ豫メ國立銀行名稱ヲ一定シ後日無用ノ混雜ヲ來ササランコトヲ欲シ明治九年十二月二十五日ヲ以テ左ノ如ク大藏卿ニ稟伺セリ

國立銀行名稱ノ義區々相成候テハ紛亂モ生シ易ク且ツ同性質ノ銀行ニシテ種々有之候テハ自然世間ノ耳目ヲ惑ハシ其性質ノ種々ナルヲ疑ハシムルノ恐モ有之且ツ是迄ノ銀行ハ第一第二ト順次數字ヲ逐テ爲相唱候儀ニシテ銀行名稱ノ義ハ條例中紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシト有之候得共向後總テ順次數字ヲ以テ名稱爲相唱候樣一定仕度候此段豫テ相伺候也

而シテ大藏卿ハ速ニ之カ承認ヲ與ヘタリ仍テ爾來國立銀行ノ名稱ハ都テ出願及ヒ許可ノ前後ニ從ヒ第一以下順次數字ヲ用ヒ以テ第百五十三ニ及ヘリ

明治十年一月官制ノ改革アリテ紙幣寮ヲ廢止シ從來同寮ニ於テ取扱ヒタル國立銀行ノ事務ハ以後大藏省本局ニ於テ直轄スルコトヽナレリ故ニ從前國立銀行創立證書定款等ノ內ニアリタル紙幣寮及ヒ紙幣頭ノ文字ハ都テ大藏省及ヒ大藏卿ニ更ヘ定款ノ奧書及ヒ開業免狀等モ亦大藏卿ノ記名調印ヲ以テ下付スルコトヽナシ同時ニ開業免狀ノ樣式ヲ左ノ如ク改定セリ

（輸廓縱八寸六分橫一尺八分）

（菊花御紋章）

開業免狀

（第　　番）

於テ創立スル　國立銀行ヨリ差出シタル創立證書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治九年八月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ノ手續ヲ履行シタルコト分明ナルニ付今此開業免狀ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ國立銀行ノ業ヲ營ムコトヲ許可スルモノ也

右ノ證據トシテ余ハ玆ニ記名調印シ併セテ當省ノ印章ヲ鈐スルモノ也

明治

明治財政史第十三卷

第三項　第十五國立銀行ノ特點

國立銀行中一種ノ特點ヲ附與セラレタルモノヲ東京第十五國立銀行ナリトス而シテ同銀行ノ設立セラレシハ華族督部長右大臣岩倉具視カ政府ヨリ秩祿公債證書下付ノ期近キニ在ルヲ以テ諸華族ノ爲メニ該祿券ヲ利用スルノ道ヲ立テ以テ就產ノ方法ヲ計ラント欲シ諸華族ヲ結合シ其祿券ヲ以テ一大銀行ヲ創立シ而シテ鐵道築造ノ大工業ヲ興サント企テ明治十年ノ初已ニ其手續ニ著手セリ然ルニ巨額ノ株金ハ一時ニ之カ運轉ヲナス能ハサルヲ以テ竊ニ之カ利用ヲ講スルニ當リ恰モ西南ノ事變起リ國費頗ル多端ナリシモ人心恟々タルノ際俄ニ國債ヲ募集センカ事情困難ナルアリ租稅ヲ增徵センカ民心ノ背離計ルヘカラス此ニ於テカ政府ハ應急ノ策ニ出テ本行ヲ創立セシメテ巨額ノ資金ヲ借上ケ以テ必要ナル軍費ヲ支辨スルコトニ決セリ

當時秩祿公債證書未タ成ラサルヲ以テ政府ハ特例ヲ用ヒテ假證書ヲ下付シ以テ銀行創立ニ著手セシメ其發行セル紙幣ノ總額中千五百萬圓ハ年五朱ノ低利ヲ以テ二十年間（二十年ハ營業年限ナルヲ以テ實際永借ノ姿ナリ）大藏省ニ借上ケル事ヲ約定シタリ而シテ當時普通ノ金利ハ年一割以上ニアリシヲ以テ右ノ低利ニ對スル報酬トシテ種々ノ特典ヲ附與シタリ今明治十年三月二十一日大藏卿ヨリ第十五國立銀行ニ交付シタル特許條款及ヒ發行紙幣貸借條款ニヨレハ銀行紙幣ノ抵當トシテ大藏省ヘ納ムヘキ金祿公債證書ハ未タ其發行前ニ屬スト雖モ假證書ヲ附與シテ銀行

ヲ設立セシムヘキコト大藏省國債局ニ於テ借受ケタル千五百萬圓ニ限リ其準備金ハ其百分ノ五ヲ
即チ七十五萬圓ノ通貨ヲ銀行ニ積置クヘキコトヽセシカ之ニ對シ第十五國立銀行頭取毛利元德
副取締德川慶勝取締役黒田長知山内豐範ハ「右御命令七ケノ條件當銀行ニ於テ決シテ異議無御座
候ニ付依テ御請奉申上候以上」トノ請書ヲ大藏卿ニ差出シタリ（國債（征討費借）入金）ノ部參照）
此ニ於テ大藏卿ハ同月二十七日華族銀行ニ特典附與ノ件ニ付左ノ如ク太政官ニ伺出テタリ

華族毛利元德外四名發起國立銀行創立許可候ニ付テハ營業上特許與ヘラレ度儀ニ付上申

華族毛利元德外四名發起ニテ資本金千八百萬圓ヲ以テ國立銀行創立之儀願出且ツ右資本金ニ
依テ發行スル銀行紙幣ノ內千五百萬圓ハ當省ヘ借受ケ融通致呉ヘク內願之趣モ有之ニ付篤ト
勘考致候處卽今西南紛擾臨時多額之出費モ有之加之金祿公債證書發行ニ付テハ本年十一月其
利息半數可拂渡筈右ハ從來ノ家祿渡方同樣ノ順序ニテ其法タルヤ每歲其年之收納高ヲ以テ下
付スヘキ儀ニ有之候處十一月迄ニハ收納高纔ニシテ之カ支給ニ供スルニ足ラス依テ今華族ヨ
リ借受ヘキ金額ヲ以テ是等之不足ヲ補ヒ申度且ツ又過般內々及稟議置候爲一般融通貸付所設
立之儀等モ有之候ニ付年五分利付ヲ以テ當省國債局ニ借入流融可致積ニ有之候就テハ自カラ
他之國立銀行トモ異候廉有之ニ付別冊命令書第一條金祿公債證書發行前ニ屬スト雖モ此際假
證券ヲ附與シテ設立ニ從事セシムル件並ニ第六條當省ニ借受ヘキ金額千五百萬圓ニ限リ其準
備ハ百分ノ五ノ割ヲ以テ積立ヘキ件等ノ如キハ素ヨリ條例ニハ觸候得共該銀行ニ限リ特許ニ
附セラレ候樣致度依テ別紙相添ヘ此段及上申候也

明治十年三月二十七日

大藏卿 大隈重信

右大臣岩倉具視殿

（別紙略ス）

右ノ稟議ハ四月五日太政官ノ裁可スル所トナリタリ。

明治十年四月二十五日ニ至リ發起人總代德川慶勝ハ更ニ各種ノ特典ヲ得ンコトヲ大藏省ニ出願
シ同月二十七日悉ク之ヲ許可セラレタリ卽チ發行紙幣ノ引換準備金ニ關スル件政府ニ預入ノ公
債ノ價格ハ之ヲ据置ノモノトスルコト貸出並ニ積立金額ニ付法定ノ制限ヲ受ケサルコト是レナ
リ

第十五國立銀行創立ニ付願請條件

先般華族一同協議ノ上國立銀行ヲ創立シ其資本ヲ大藏省ヘ貸シ上右金額ヲ以テ鐵道建築及ヒ
外債支消ノ兩款ニ御費用相成度就テハ追テ御下渡可相成公債證書ノ假證書速ニ御下渡被下度
段懇願仕候處假證ノ儀ハ特別ノ譯ヲ以テ可下渡ニ付銀行創立ノ儀ハ一般ノ手續ヲ以テ更ニ出
願可受許可其他外債銷却鐵道建築云々ト御指令相成奉拜承候右ニ付一般ノ手續ヲ以テ銀行創
立初願差出候處願ノ趣聞屆候間創立證書竝ニ銀行定款可差出旨被仰渡奉敬承候然ル處初願指
令書ニ附シ御下ケ相成候御達書ニ揭載セル條款ノ趣當銀行ニ於テ異議無之候ハヽ請書可差出
旨是亦敬承右ハ至重ノ命令將來經營上尤モ關係ヲ有スル要件ト奉存候間猶留心協議仕候處一
體當銀行設立ノ主旨ハ明治九年十二月三十一日付ヲ以テ督部長岩倉具視ヨリ致開申候通今回
華族一同ヘ下賜ノ公債證書ノ金員ヲ以テ之ヲ四百八十有餘人ニ分配シ各自適宜其家事ニ充テ
專用セシムルトキハ雲散霧消ノ憂ナキヲ保セス況ンヤ國家經濟ノ一端ヲ裨補スルニ由ナシ然

ルトキハ則チ上王室奉護ノ實ヲ失ヒ下一家保全ノ路ヲ絕ツニ至ル故ニ下賜ノ公債證書ヲ悉皆集合シテ資本トシ銀行ヲ創立シ其通用紙幣ノ借上ヲ大藏省ニ請ヒ以テ聊皇恩ニ奉答シ兼テ家産永久ノ策モ亦樹ツ所アラントスルノ素志タル儀ハ縷々御洞察被爲在候事ト奉存候右等之裏情御洞察被成下今回御下付相成候御達書及ヒ銀行條款ノ內左ニ記載致候條々特別ノ御詮議ヲ以テ御許可被成下度此段奉懇願候也

第一條

明治十年三月二十一日御達書第六條ニ大藏省國債局ニ於テ借受タル千五百萬圓ノ金額ニ限リ其準備金ハ特別ノ詮議ヲ以テ其百分ノ五卽チ七拾五萬圓ノ割合ニ制定セシニヨリ云々御下命ノ趣難有敬承仕候就テハ銀行紙幣引換ニ際シ右七拾五萬圓ノ金額ニテ自然不足相立候砌ハ銀行紙幣ヲ大藏省ニ差出シ同額ノ通貨御下渡相成候樣仕度候事

但本條御許可相成候上ハ大藏省ヘ貸上ノ千五百萬圓ニ對シ候テハ銀行條例第六十一條中準備金不足ノ節各株主等別ニ出金シテ一時之ヲ辨償スルノ責任ハ之レ無キコトト相心得申度候事

第二條

同御達書第七條ニ大藏省國債局ニ於テ借受タル千五百萬圓ノ外他ニ發行スル銀行紙幣ノ金高アルニ於テハ國立銀行條例第二十條ノ定規ニ從ヒ其流通高四分ノ一ノ準備ナルモノ通貨ヲ以テ銀行ニ積置ヘキ旨御下命ノ趣敬承仕候然ルニ銀行紙幣引換ノ際ニ臨ミ大藏省ヘ貸上候紙幣ノ引換タルヤ或ハ他ニ發行シタル紙幣ノ引換タルヤ其區別難相立候間前條通貨御下

ケ渡可相願割合ノ儀ハ譬ハ銀行紙幣發行高千六百萬圓有之若シ其引換ニ際シ準備金不足致シ候節ハ其不足高十六分ノ一ハ當銀行ニ於テ通貨ト引換殘リ十六分ノ十五ハ銀行紙幣ヲ大藏省ヘ差出シ同額ノ通貨御下渡相成候樣仕度候事

第三條

銀行條例第十八條但書ニ公債證書市中賣買ノ相場低下スルトキハ其不足ハ尙ホ他ノ公債證書ヲ納ムル云々此儀ハ當銀行ニ於テハ其資本金ノ內千五百萬圓ハ大藏省ヘ貸上候儀ニテ他ノ銀行トハ自ラ趣意相異リ候儀モ有之候間金祿公債證書價額ノ儀ハ五朱利付ハ百圓ニ付五拾五圓六朱利付ハ百圓ニ付六拾三圓七朱利付ハ百圓ニ付七拾壹圓トシ向後相場ノ高低有之候共卒業迄此價格ヲ据置キ拔差不致樣仕度候事

第四條

銀行條例第五十二條ノ內銀行營業本務ノ件々此儀ハ當銀行ニ於テハ其起因明治九年十二月三十一日付ヲ以テ督部長岩倉具視ヨリ致開申候通ノ主趣ニテ其資本金ノ內千五百萬圓ヲ大藏省ニ貸上候儀ニ付一般ノ銀行ト同ク普通營業專務ニハ不仕積ニ候間此段御聞置相願候事

第五條

銀行條例第五十六條ニ據リ候ヘハ一口ニ付資本金總額十分ノ一ヨリ多數ハ貸出シ不相成ノ成規ニ候得共當銀行ニ於テハ其資本金ノ內千五百萬圓ヲ大藏省ヘ御借上ノ御下命モ有之候儀ニ付此個條ハ履行セサルモノト相心得申度候事

第六條

銀行條例第八十條ノ內純益金ノ內ヨリ少ナクトモ十分ノ一宛ヲ引分テ之ヲ積金トシ以テ非常ノ豫備ニ供スヘシ云々此儀ハ當銀行ニ於テハ其資本金ノ內千五百萬圓大藏省ヘ貸上致置候ニ付別段懸念等モ無之儀ト被存候間右ハ毎年純益金ノ內二十分ノ一ヨリ少ナカラサル高ヲ以テ積金ト相定候樣仕度候事

以上

明治十年四月二十五日

大藏卿大隈重信殿代理

大藏大輔松方正義殿

右ノ如ク華族銀行ハ一種ノ特典ヲ有スル銀行ナルカ其他此ノ銀行ハ通常ノ國立銀行ト異ナル所少ナカラス卽チ其株券ノ如キモ一株百圓ナレトモ幾株モ一枚ニ合シ何番ヨリ何番ニ至ルト記セリ蓋シ華族一同申合セ株券ノ典賣等ハ一切爲サヽルヲ以テ幾株モ一枚ニ記スルヲ便トスレハナリ

第十五國立銀行發起人總代

德川慶勝

第十五國立銀行ハ明治十年五月二十一日開業免狀ヲ下付セラレ越エテ二十二日貸上金千五百萬圓ニ關スル本條約ヲ締結シ五月二十七日資本金壹千七百八拾二萬六千壹百圓ヲ以テ開業シ紙幣壹千六百六拾六萬八百八拾圓ヲ發行スルコトヲ許可セラレタリ故ニ資本金ニ對スル發行紙幣ノ割合ハ九割三分餘ニ當レリ

第四節　國立銀行紙幣

第一款　第一期

第一項　製造

銀行紙幣ノ製造ハ明治四年大藏少輔伊藤博文ノ建議ヲ採用シ大藏省ヨリ米國在留ノ我通商正中島信行ニ命シテ紐育府紙幣會社「コンチネンタル、バンクノート、コムパニー」ト約定ヲ取結ヒ同會社ヲシテ壹圓及ヒ五圓ノ兩種各參百萬圓拾圓及ヒ貳拾圓ノ兩種各貳百萬圓卽チ四種合計壹千萬圓ヲ製造セシメタルヲ以テ初メトス

是ヨリ先キ伊藤少輔ノ米國ニ在ルヤ公債證書竝ニ銀行紙幣製造ノ件ニ付同國ニ於ケル會社ト略ホ交涉ヲ經テ我政府ニ向ヒ速ニ其製造ニ著手セラレンコトヲ建議セリ當時政府ノ議未タ紙幣發行ノ會社ヲ設立スルニ至ラサリシヲ以テ伊藤少輔ノ建議ヲ採用スルヲ得スト雖モ彼ノ地ニ於ケル會社ト交涉上不得已モノアルニ於テハ銀行紙幣ノ製造ヲ命センコトヲ欲シ大藏省ハ明治四年四月ヲ以テ太政官ニ左ノ如ク稟議セリ

伊藤大藏少輔米國御用先ヨリ別紙ノ通リ申來御國公債證書竝ニ會社發行紙幣製造ノ儀縷々建議ノ次第有之候ニ付篤ト審議再案イタシ候處公債證書ノ方ハ何レ早晩御聞相成度儀ニ候ヘトモ會社發行紙幣ノ儀ハ將來ノ得失概算モ難相立哉ニ被存候先差止ノ方可然ト存候因テ別紙第一號ノ通リ返翰差遣候積ニ候ヘトモ來書中ニモ事理仔細ニ申立モ有之自然彼地引合ノ都合モ

相見エ候間若シ不得已次第ニ候ハヽ公債證書會社紙幣共別紙積書ノ通リ製造方注文爲取計候テ可然ト存候且右會社紙幣ノ儀ハ彌伊藤少輔歸朝ノ上更ニ商議ヲ遂ケ當方見込ノ如ク卽今施行不致方可然儀ニ相決シ候ハヽ現今取設有之候三府其外爲替會社準備眞貨積立金券ニ爲相用候テモ聊差支ノ儀ハ無之候間夫是豫防ノ爲メ第二書狀ノ通リ申遣候樣イタシ度此段奉伺候也

（別紙未詳）

尋テ同月二十四日ヲ以テ大藏省ハ更ニ太政官ニ伺ヒ出テヽ曰ク

伊藤大藏少輔米國御用先ヨリ申越候國債證書並ニ會社手形發行法創立ノ儀ニ付テハ先般相伺候通同人歸朝ノ後協議ヲ盡シ候上ニテ注文相成候方可然旨申遣候得共米國大藏省官員等ノ紹介モ有之自然體裁ニ關シ候程ノ儀ニモ有之候ハヽ國債證書並ニ紙幣都合三千五百萬圓丈ケノ高注文可相成右紙幣證書ノ表面ニ刻鏤スヘキ文言圖畫等ハ當省ニ於テ取調次ノ郵便ニテ可差送旨申遣置候ニ付畫圖取調方夫々及手配候得共畢竟國債證書並ニ紙幣等ニ挿入スル畫圖ハ極メテ精密ノモノニ無之候テハ贋造模製ノ患モ不少候依之篤ト將來ノ得失ヲ推考イタシ候ニ凡ソ畫圖中精細緻密ニシテ內外人民模造ノ奸ヲ防ニ足ルモノハ寫眞圖ニ若クモノ有之間敷ト存候ニ付別紙寫眞模樣書ノ通リ製造仕度且ツ文言ハ雜形ノ通リニテ可然ト存候此段至急御決議相成度候也

追テ右御允可ノ上ハ早々御寫眞相成御下ケ御座候樣仕度候也

（別紙）

寫眞模樣書

姓名記載竝ニ利息札付國債證書都合七種

景色人物ヲ併寫スル圖畫ヲ右證書上段ノ中央ニ挿入ス

右納言以上議政ノ模樣ト皇城ノ景色ヲ併寫シ竝ニ皇城中最モ景色ノ所ニ於テ伶人奏樂ノ圖ヲ寫ス但每種其ノ色人物ノ位置ヲ異ニスヘシ

會社發行紙幣四種

表面下段右ノ方ニ大藏卿ノ寫眞像ヲ挿入シ左ノ方ニ皇城ノ小景色ヲ模シ裏面ニ皇城ノ大景色ヲ刻

但景色ハ四種其模樣ヲ異ニス

右ニ對シ太政官ハ指令シテ曰ク「申出ノ趣被聞屆候寫眞模樣ノ儀ハ人物等相除キ都テ景色ノ方相用可申事」ト卽チ大藏省ハ右伺濟ノ趣旨ニ據リ公債證書並ニ會社紙幣製造取扱方ヲ定メ之ヲ在米伊藤少輔ニ宛テ發送セリ然レトモ時恰モ同人ノ歸朝ニ際會シタルヲ以テ更ニ彼ノ地滯在ノ中島信行竝ニ吉田二郎ニ向テ該件ノ取扱ヲ命セリ而シテ右ニ關シ明治四年六月大藏省ヨリ太政官ヘノ上申竝ニ中島通商正ニ宛テタル公債及ヒ紙幣製造命令書ハ左ノ如シ

公債證書會社發行紙幣製造ノ儀ニ付先頃伊藤大藏少輔米國滯在中申立ノ趣モ有之其節伺ノ上右取扱方書翰ヲ以テ申遣置候處右書翰ト行違ヒ同人歸朝相成候ニ付尙ホ巨細商議ヲ遂ケ最前伺濟ノ旨趣ニ照準イタシ且ツ少輔米國滯在中取扱ノ手續ヲモ參酌ノ上別紙ノ通彼ノ地滯在ノ中島通商正竝ニ吉田二郎ヘ申遣右製造方爲取扱候積ニ御座候尤モ證書ノ方ハ更ニ詳細ニ取調次便ニ可申遣差向キ紙幣丈ケ製造ノ積ニ取計置候將又右彫刻圖畫及ヒ書入文字等ノ儀ハ實地

工作ノ際ニ於テ先便伺濟ノ上差遣候通ニハ難出來少々模樣相替リ候儀モ有之ヘクト存候依テ
別紙書類寫添ヘ此段申進候也

（別紙未詳）

○

辛未六月五日發從東京以書翰得御意候然ハ先般伊藤大藏少輔米國滯在中御國公債證書竝ニ會
社發行紙幣製造方建議有之折節御用都合ニヨリ同人義ハ歸朝イタシ其取扱來候事務ハ委細貴
下ヘ相託シ後任擔當可致義伊藤少輔ヨリ篤ト申談ニモ相成居候次第ニ有之尤モ當地ヨリハ少
輔其他滯在中ノ來書ニ從ヒ右製造方取扱振少輔宛ヲ以テ委曲送書及ヒ尚ホ先便吉田二郎差遣
其前申遣置候手續ヲ以テ厚ク二郎ヘ申含證書竝ニ紙幣製造員數及ヒ其模樣圖畫書入文字等迄
取調差遣候處少輔歸朝ニ付都テ行違相成候ニ付テハ此度改メテ左ノ件々摘書ノ趣旨ヲ以テ貴
下其他ニテ御擔任御取扱可被成候

公債證書之方ハ（姓名記載利息札付）兵都テ次便ニ巨細取調可申進候間先第二ノ事務ニ御擱被成卽今取扱
ノ儀ハ會社紙幣製造ヲ以テ主要トシ別紙約條書原譯兩通ノ次第ヲ以テ紐約「コンチネンタル、バ
ンク」社中ト御定約相成御製造方御取扱可被成候
右約定書ハ貴下ト社中之統領トノ檢印ヲ以テシ各三通宛ヲ製シ壹通ハ貴下ニ留置壹通ハ社中
ニ留メ壹通ヲ當地ヘ御送リ可被成候
紙幣製造ニ付右會社ト約定書廉々ノ內其地ニ於テ可認入分其外共譯書ノ寫ヘ注釋書添ヘ差遣
候間右ニテ御了解可被成候

製造紙幣之員數種類彫刻圖畫書入文字等ハ都テ別紙之通ニ御承知被成至巧精緻ニ造作相成候
樣御取計可被成候
彫刻出來之上雛形トシテ最初摺立ノ分二通宛差出候ハヽ各其次第ヲ認入壹通ハ貴下ニ留置壹
通ハ當地ヘ御差越可被成尤モ右ハ追々摺立相成候惣高ヲ時々檢閱スルタメノ原本ニ候間用紙
其外都テノ用具器具等マテヲ悉ク監視シテ御取定可被成其他定約書之廉々常ニ照査相屆候樣
御注意可被成候
製造代價ハ最前社中ヨリ申出候積書ニヨリテ取調候得ハ別紙之通ニ相成候處右定約書ニモ揭
載ノ通彫刻代彫刻濟摺立代紙等ハ製造ノ時々一ケ月每ニ拂渡候手續ニ候得ハ當分ノ處ハ先便
伊藤少輔ヘ宛東洋銀行ヘ爲替取組差送候墨斯哥銀五萬弗卽チ米金五萬貳千五百弗ニテ充分引
足可申尤モ彌右約定相成製造ニモ取掛候上ハ殘金入用之都合ハ總勘定ト共ニ御見込御申越可
被成候
製造濟ノ紙幣當地ヘ差送方ハ紐約府ノ「ヘンリークルー」ニ托シ同社ヨリ郵船ヘ爲請負相廻シ候
歟又ハ製造次第「コンチネンタル、バンク」ヨリ桑佛郎斯哥「ブルークス」ヘ委託シ直ニ太平洋郵船會
社ヘ請負申付差送候方可然歟右等ハ差向候ニ無之候間兩樣トモ篤ト御取調便否竝ニ費用ノ增
減等御申越ノ上當方ヨリ御回答次第御定可被成候
公債證書ノ方モ次便ニハ委詳可申進候間其邊ニ御承知可被成尤モ右之方ハ紙幣製造ト同商會
ヘ申付候テハ箝制ノ法ナク不都合ニ付何レ歟他ノ商會ニテ相當ノ處ヘ申付候樣致シ度ト存候」
吉田二郎義先便差遣候主務ハ桑佛郎斯哥博覽會之事ニ有之竝ニ證書紙幣ノ事伊藤少輔ヘ回答

之旨趣申含差遣候義之處少輔歸朝貴下代任ト相成候ニ付テハ二郎義モ右製造方之事務ヲ主要トシ貴下ニ副付シテ毎事取扱可申義此度改テ同人ヘ相達候間其段御承知可被成候就テハ此書中之旨趣ハ同人ヘモ逐次御申通可被成候尤モ向後證書製造方注文相成候ハヽ兩人申合兩所ノ監視行屆候樣御取計可被成候

右之件々可得貴意別紙書類添ヘ此段相達候也

辛未六月四日

澁澤大藏權大丞
井上大藏少輔

中島通商正殿

會社發行紙幣注文高調書

公債證書引當會社發行紙幣

注文高

一 千萬圓

此譯

一 壹圓之紙幣　參百萬圓
此紙數　合紙ニテ七拾五萬枚　但一枚ニ付四葉宛揃立
紙幣ニテ參百萬葉

一 五圓之紙幣　參百萬圓
此紙數　合紙ニテ拾五萬枚
六拾萬葉

一 拾圓之紙幣　貳百萬圓

此紙數　合紙　五萬枚
二十萬葉

一 貳拾圓之紙幣　貳百萬圓
此紙數　合紙　貳萬五千枚
拾萬葉

〆

四種　此高　千萬圓

此紙數　合紙　九拾七萬五千枚
紙幣　三百九拾萬葉

此製造入費

彫刻料

一 壹萬貳千圓　一種ノ原版三通宛ニテ四種ノ彫刻代　但一種ニ付參千圓宛

摺立料

一 五萬參千六百貳拾五圓　紙數合紙ニテ九拾七萬五千枚　但千枚ニ付五拾五圓

紙代

一 七千七百〇貳圓半　紙數合紙ニテ九拾七萬五千枚　但千枚ニ付七圓九十錢

合計七萬參千參百貳拾七圓半

右之費用高ヘ宛差遣候金高

一 墨斯哥ドルラル　五萬圓

此米金　五萬貳千五百圓

是ハ辛未四月朔日横濱出店ノ東洋銀行ニ於テ爲替取組右手形ハ英國留學生徒正木退藏長松脩造兩人ヘ相渡四月三日開帆ノ太平洋郵船ニテ差遣シ候分

前之紙幣代價ハ米國之紙幣ヲ以テ相拂候ニ付其相場正金圓ト一割ノ差違有之ト見積リ
六萬五千九百九拾五圓七拾五錢トナル
差引
壹萬參千四百九拾五圓七拾五錢　不足

右ハ此度相廻シ候約定書ニテ卽チ新約克府「コンチネンタル」商會ヨリ差出候書面ニ據リ取調候代價積書ニ候間右見込ヲ以テ御申付可被成尤モ尙ホ紙代等ニハ少々差違有之候ハヽ其高モ隨テ差違可有之其邊ハ實地定約之際御取究可被成事

辛未六月四日

又明治四年十月大藏省ヨリ我在米官吏中島信行吉田二郎ニ送リタル書面ハ以テ紙幣製造ニ關スル一二ノ事實ヲ詳悉スルニ足ルヘキモノアリ依テ左ニ揭ク

一書致啓上候然ハ先達テ相送候會社發行紙幣約定草案御落手後會社頭取「スチワルト」氏及ヒ其他數人ヘ御示シ被成候處最上至極殊ニ製造經費モ餘程安價且ツ成功ノ日限モ十八ケ月ノ處十二ケ月ニ短縮シ其中二種ノ紙幣ハ當年ニ成功可出來ノ趣誠ニ都合能速ニ相捗取リ御同喜ノ至ニ御座候就テハ其經費速ニ相送リ可申旨御申越シ右ハ九月五日ノ郵便船ヲ以テ墨西哥銀六萬弗例ノ手續ヲ以テ差送候間最早此間御落手相成候方存候右ノ高ニテ先當分ノ處ハ粗引足可申存候尙ホ其他ノ入用ハ委細御申越被成候ハヽ逐次相送候樣可致候

先達テ吉田二郎ヘ付シ相送候紙幣ニ可用寫眞等右ハ三韓征伐天ノ岩戸開等ヲ除クノ外ハ悉皆疎雜ニシテ難相用就テハ我國古來有名ノ英雄豪傑ノ圖畫ニテモ可差送旨縷々御申越實ニ貴諭

ノ通我國ニ於テハ彫刻ノ術未タ充分相開不申人面防贋ノ要用ナル事ヲ不知ハ遺憾ノ事ニ候得共各國證書紙幣ノ彫刻ヲ歷觀スルニ必シモ人面而已能々贋ヲ防キ餘物ハ概シテ贋防ノ具ニ供スヘカラサル者トモ相見エ不申候三職及ヒ諸省諸賢ノ寫眞云々一應御尤ノ事ニ候得共我邦內通用ノ紙幣ノ面ヘ卿輔ノ面ヲ眞載シ人々滿足ト申場合ニハ未タ開化ノ德澤不行渡遺憾千萬ニ候早速畫工ヘ命シ蒙古襲來覆沒及ヒ楠公迎輦之圖其外數種ノ古畫六七枚模寫爲致今便相送可申積リニテ頻リニ催促イタシ此間粗ホ下繪出來候得共未タ清書出來兼右之仕合後便ノ郵船ヲ以テ右圖畫差送可申候間左樣御承知可被成候（下略）

辛未十月十三日

申島信行殿
吉田二郎殿

井上大藏大輔

斯ノ如クシテ銀行紙幣製造ノ件ハ諸般ノ手續ヲ了シ彼ノ地ニ於テ四種合計壹千萬圓印行ニ着手シタリシカ明治五年三月ニ至リ中島信行ハ大藏省有司ニ宛テ金額ノ大ナル紙幣ハ流通上不便勘カラサルヘキヲ以テ更ニ貳圓紙幣參百萬圓壹圓紙幣貳百萬圓ヲ增製センコトヲ建議セリ

一書呈上仕候先般御書翰中彌米國「ナショナル、バンク」之法方ヲ採用スルニ決議相成候趣ヲ御申越有之處其後未タ何等ノ御指圖モ無之候ヘ共竊ニ我會計前途ノ目的ヲ推考仕候ニ米國「ナショナル、バンク」ノ法方ヲ採用ニ不及候テハ不相叶儀ト奉存候右ニ付存慮仕候處於我國右「ナショナル、バンク」ヲ創立シ紙幣發行ノ時ニ至テ十分ニ小札ヲ積置不申テハ人民日用融通ニ差障相成ハ

必然ニ可有之候米國ノ如キ富強ノ民多ク且ツ商法繁盛物價騰貴ノ國ニ於テモ尚ホ又大札ハ人民融通貨ニ寥々然タリ況ンヤ我國ニ於テヲヤ是則先年太政官札發行ノ時跡ヲ鑒ミテ可知也且ツ又今般我國新貨幣ヲ以算スルニ壹圓アリ貳圓アリ五圓アリ拾圓アリ貳拾圓アリ加フルニ銀錢ノ助アリ然ルニ會社發行ノ紙幣ハ以下四種也則壹圓五圓拾圓貳拾圓也素ヨリ會社ニ小札發行ヲ免許スル政府ハ無之候ヘ共自今我國ノ形勢ニ於テ機ニ以上四種ノミニテハ融通不辨ハ眼前ニ可有之於是右以上四種ノ紙幣ニ今一種ヲ加ヘンコトヲ乞フ則貳圓ナリ然ルトキハ新貨幣ノ五種ト符合シ全瓦ノ紙幣ト相成且ツ通用ノ際辨理ナルヘシ則チ製造增加積左ニ

一　貳圓ノ紙幣　參百萬圓
一　壹圓ノ紙幣　貳百萬圓
以上合シテ五百萬圓

（下略）

大藏省ハ此議ヲ容レ左ノ通リ太政官ニ稟伺シテ裁可ヲ得タリ

兼テ米國ヘ御注文相成候會社紙幣ノ儀壹圓五圓拾圓貳拾圓ノ四種製造ノ積ニ候處追テ紙幣會社御創立相成候節大札多分ニテハ人民日用ノ流融ニ差障可申ハ必然ノ義ト被存候間壹圓ノ方貳百萬圓貳圓ノ方參百萬圓合五百萬圓增製造致候方可然尤モ各國トモ會社小札發行ヲ免許致候政府ハ無之趣ニ候得共米國ノ加キ商法繁盛富民衆多ノ國ニテモ大札ハ流通寥々ノ趣ニ付御國ニ於テハ猶更流通不便ニ可有之候間右之通小札ノ分多數製造致シ度此段相伺申候

壬申五月四日

大藏大輔　井上　馨

正院御中

追テ本文會社紙幣最前注文諸入費內譯竝ニ此度增注文諸入費大凡積書相添ヘ入御覽候也

依テ大藏省ハ明治五年五月十三日附ヲ以テ貳圓紙幣參百萬圓壹圓新幣貳百萬圓增注文ノ命令書ヲ中島信行ニ向ケテ發送シ前約定ノ趣旨ニ從ヒテ之ヲ處辨セシメタリ

以上ハ米國ニ注文シタル銀行紙幣ノ高ニシテ前後合セテ壹千五百萬圓ナリ此銀行紙幣ハ明治五年五月以降順次米國ヨリ輸送セラレシカ到着ノ上注文高ニ照シテ其種類金額ヲ精査セシニ貳圓、五圓、拾圓ノ三種合セテ四千五百圓ノ不足アリ又壹圓ノ一種ニ九百六拾圓ノ過剩アルヲ發見セリ卽チ其過剩ヲ以テ其不足ヲ補フモ尚ホ三千五百四拾圓ノ不足ヲ生スヘキカ故ニ實際製造ノ原額ハ壹千四百九拾九萬六千四百六拾圓ナリトス尚ホ詳細ハ左表ニ就テ之ヲ知ルヘシ

銀行紙幣米國注文高表

種類	枚數	金額
壹圓札	五、〇〇〇、〇〇〇 枚	五、〇〇〇、〇〇〇 圓
貳圓札	一、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
五圓札	六〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
拾圓札	二〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
貳拾圓札	一〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
合計	七、四〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇

銀行紙幣米國製造高表

種類	數枚	金額	注文高ニ照シ過剰一不足
壹圓札	五、〇〇〇、九六〇 枚	五、〇〇〇、九六〇 円	九六〇 円
貳圓札	一、四九九、八二〇	二、九九九、六四〇	三六〇
五圓札	五九九、一八八	二、九九五、九四〇	四、〇六〇
拾圓札	一九九、九九二	一、九九九、九二〇	八〇
貳拾圓札	一〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	—
合計	七、三九九、九六〇	一四、九九六、四六〇	九六〇

而シテ右紙幣ノ中壹圓札ハ長六寸三分幅二寸七分ニシテ着色ハ欄線色圖畫薄墨トス又他ノ四種ハ幅員彩色共ニ右壹圓札ト同一ナリ唯タ其異ナル所ハ各記載金高表面及ヒ裏面ニ於ケル圖樣ニ在リトス尙ホ之ヲ示セハ卽チ左ノ如シ

種類	表面圖樣	裏面圖樣
壹圓札	右方 爲朝 左方 兵船	元寇撃退
貳圓札	右方 新田義貞刀ヲ投シテ海神ニ禱ル 左方 兒島高徳櫻樹ニ詩ヲ題ス	皇城（舊江戸城）見付
五圓札	右方 田植 左方 稻苅	日本橋 皇城櫓及富士山遠望
拾圓札	右方 天岩戸開	神功皇后征韓
貳拾圓札	右方 素盞雄尊 左方 八頭蛇	大己貴神二神ニ矛ヲ授ク

右銀行紙幣製造入費ヲ計算スルニ版刻竝ニ印刷料ヨリ海上保險運賃其他ノ諸費合セテ拾貳萬貳千貳百參拾五圓拾壹錢ナリ但シ製圖料及ヒ中島信行等ノ旅費ハ之ヲ算入セス然リ而シテ此銀行紙幣ハ各種ヲ通シテ其製造費凡テ同一ナリシニヨリ總注文高壹千五百萬圓ノ合計枚數七百四十萬枚ヲ以テ之ヲ除スレハ壹枚ノ現費通シテ壹錢六厘五毛一强トナリ之ニ我紙幣記錄兩局ノ押印費每壹葉參厘五毛ヲ加フルトキハ銀行紙幣一枚ニ付貳錢〇〇一强トナルナリ

米國製造ノ銀行紙幣ノ流通ニ付テハ我國ニ於テ未タ經驗ナキ所ナリシカ爲メ大藏省ヨリ其發行許可ノ初ニ當リテ中央諸官府竝ニ各府縣ヘ向ケ見本トシテ配付セシモノ甚タ尠シトセス其他紙質檢査ノ爲メ舊紙幣寮（現印刷局）ニ於テ消盡シ若クハ照鑑ノ爲メ保存ノ用ニ供シタリ而シテ明治六年七月ヨリ同十二年六月迄ノ間ニ於ケル見本竝損札ノ額ハ四拾參萬參千五拾貳圓ニシテ今其內譯ヲ示セハ見本四萬八百拾貳圓製造損（米國ヨリ輸送後發見セル損札）千四百五拾六圓押印損參拾七萬六千七百貳拾壹圓流通損壹萬四千六拾參圓ナリトス

第二項　下付及流通

米國注文ノ銀行紙幣ハ總額壹千五百萬圓ニ達シタリト雖モ精査ノ結果參千五百四拾圓ノ不足ヲ生シ尚ホ損傷ニ係ルモノ參拾九萬貳千貳百四拾圓ヲ發見セリ其他見本トシテ控除セシモノ四萬八百拾貳圓アリタルヲ以テ實際銀行ニ下付シ得ヘキ高ハ壹千四百五拾六萬參千四百貳拾八圓ニ過キサリキ而シテ政府ハ明治六年七月以降當時ノ條例規則ニ遵ヒ資本金高十分ノ六ノ割合ヲ以テ逐次創立ノ許可ヲ得タル各國立銀行ヘ之ヲ下付シタリ但シ五圓以下ノ紙幣ハ條例ノ定ムル所ニ據レハ總額十分ノ五ヨリ多カルヘカラストハ雖モ當時貨幣流通ノ上ニ於テ大數ノ紙幣ハ融通宜シカラス寧ロ五圓以下ノモノ最モ多キヲ以テ第一國立銀行ハ紙幣發行ノ初メニ方テ特ニ條例ノ規定ヲ超エテ小數ノ紙幣ヲ下付セラレンコトヲ申請シ大藏省ニ於テハ事情寔ニ已ムヲ得ストナシ太政官ニ稟伺シ之ヲ聽許シタリ爾後下付紙幣ノ種類ハ專ラ融通ノ便否ヲ主トシ必スシモ條例ノ規定ニ據ルコトナカリキ

斯ノ如クシテ下付シタル銀行紙幣ハ明治六年ニ於テ百參拾六萬貳千貳百拾圓同七年ニ於テ六拾參萬貳千七百九拾圓同八年ニ於テ貳萬五千圓合計貳百貳萬圓ニ達セリ然レトモ明治八年末第一國立銀行減資ノ爲メ紙幣六拾萬圓ノ還納アリタルヲ以テ舊條例ノ下ニ於テハ差引其總下付高僅ニ百四拾貳萬圓ニ止マレリ尚ホ詳細ハ左表ニ就テ之ヲ見ルヘシ

銀行紙幣下付高表

年月	毎月下付高	年月	毎月下付高
明治六年七月	一、〇〇〇円	明治八年二月	二五、〇〇〇円

同	八月	四三六、〇五〇	同
同	九月	一〇四、五三五	同
同	十月	一八一、六一五	同
同	十一月	三三二、五三〇	同
同	十二月	二九七、四八〇	同
	小計	一、三六二、二一〇	同
明治七年	一月	五二、四九〇	同
同	二月	四二一、七八〇	同
同	三月	—	同
同	四月	三五、五二〇	同
同	五月	一二、〇〇〇	小計
同	六月	一二、〇〇〇	明治九年一月
同	七月	二四、〇〇〇	同
同	八月	七五、〇〇〇	同
同	九月	—	同
同	十月	—	同
同	十一月	—	同
同	十二月	—	同

小計		六三二、七九〇円
明治八年一月		
小計		二、〇二〇、〇〇〇
通計		一、四二〇、〇〇〇

右ノ內明治八年十二月第一國立銀行減株紙幣六拾萬圓ノ還納アリシヲ以テ該金額ヲ控除セハ下付高通計百四拾貳萬圓トナル

以上銀行紙幣下付高ニ對スル抵當公債證書ハ左ノ如シ

金札引換公債證書券面額

年度	金額
明治六年末	一、三六二、二一〇円
明治七年末	一、九九五、〇〇〇
明治八年末	一、四二〇、〇〇〇

夫レ政府カ國立銀行條例ヲ制定シ多額ノ銀行紙幣ヲ製造シタル所以ノモノハ實ニ其發行ニ係ル不換紙幣ノ銷却法ヲ立ツルト共ニ大ニ金融ノ開通ヲ計ランコトヲ欲セルニ由レリ而シテ該條例ノ下ニ於テ國立銀行ノ開業ヲ告ケシモノハ僅ニ四行ニ止マリ銀行紙幣ノ下付高亦僅々百四拾貳萬圓ニ過キス政府當初ノ計畫ハ頗ル齟齬シタルモノアリキ

更ニ眼ヲ轉シテ銀行紙幣流通ノ景況ヲ窺フニ明治六年發行ノ初ニ當リテハ政府ニ於テ特ニ銀行

紙幣ノ確實ナルヲ保證シ海關稅及ヒ公債證書ノ利息ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引ニ正金同樣疑念ナク授受スヘキ旨ヲ布告セシノミナラス紙幣正貨ノ間未タ著シキ差異ヲ生セサリシヲ以テ其流通毫モ澁滯ノ弊ナク銀行ニ於テ亦交換ノ煩ヲ見ス條例ノ本旨圓滿ニ行ハルヽコトヲ得タリシカ明治七年下半季ニ入リテハ流通頓ニ減殺シ遂ニ九年六月ノ頃ニ迨ンテハ銀行紙幣ハ殆ント跡ヲ市場ニ絕ツト云フモ敢テ不可ナキ有樣トナレリ今明治六年以來九年六月三十日ニ至ル間ニ於ケル每半年銀行紙幣ノ流通高ヲ按スルニ左ノ如クナリキ

銀行紙幣流通表

年月日	國立銀行箇數	下付高	實際流通高
六年十二月三十一日	二	一、三六二、二一〇円	八五二、五二〇円
七年六月三十日	四	一、八九六、〇〇〇	一、三五六、九七九
七年十二月三十一日	四	一、九九五、〇〇〇	八〇二、七三〇
八年六月三十日	四	二、〇二〇、〇〇〇	三八一、一六三
八年十二月三十一日	四	一、四二〇、〇〇〇	二三三、八六一
九年六月三十日	四	一、四二〇、〇〇〇	六二、四五六

斯ノ如ク銀行紙幣ノ流通不良トナリシ所以ヲ稽フルニ紙幣其モノヽ罪ニアラス又國立銀行ノ信用地ニ墜チタルカ爲メニモアラス職トシテ正貨ノ騰貴ニ由ラサルハナシ蓋シ政府ハ維新以來數

次不換紙幣ヲ發行シタルカ明治六年ニ至リ歳入補塡ノ爲メニ更ニ七百餘萬圓ノ紙幣ヲ增發シタルヲ以テ其結果明治七年以後ハ紙幣ノ價格漸次低落シテ正貨ニ對シ打歩ヲ生スルニ至リタルト共ニ不換紙幣ハ金銀貨ヲ排擠シテ之ヲ海外ニ驅逐セリ加之明治七年臺灣ノ征討日清ノ紛議等國際上ノ事件ヲ生シ國費增加スルニ及ヒテ紙幣ノ下落益〻甚シ此ニ於テ金貨兌換制タル銀行紙幣ハ直ニ其影響ヲ受ケ明治七年後半期以後ハ從テ發行スレハ從テ銀行ニ歸入シ長ク市場ニ存在セス而シテ國立銀行ハ右交換ノ都度巨多ノ損失ヲ被ルヘキヲ以テ寧ロ之ヲ庫中ニ委積スルノ姿ナリキ而シテ當時我國立銀行ハ業務創始ニ屬シ充分ノ發達ヲ爲サス故ニ世上ノ信用薄ク預リ金ノ額モ極メテ僅少ナリシヲ以テ銀行紙幣ノ流通杜塞シ徒ニ之ヲ庫中ニ藏スルニ於テハ利益薄フシテ殆ント困難ヲ免ルヽ能ハス何トナレハ銀行株金十分ノ六ハ之ヲ金札引換公債證書ニ變シ政府ヨリ年六分ノ低利ヲ受クルノミナルヲ以テ銀行紙幣ヲ流通スルコト能ハサレハ銀行ノ運轉シ得ヘキ資本ハ僅少ノ預リ金ト株金十分ノ四ニ止マレハナリ此ニ於テ明治八年三月八日第一第二第四第五ノ四國立銀行ハ連署シテ紙幣頭ニ歎願シ銀行紙幣ハ本位貨幣ヲ以テ兌換スヘキ制規ナルヲ改メテ通貨ヲ以テ兌換ニ充テンコトヲ請ヒシモ大ニ條例ノ趣旨ニ悖ルモノナレハ大藏卿ニ稟議ノ上銀行紙幣ヲ抵當トシテ新紙幣七拾壹萬圓ヲ貸下ケラレタリ

明治九年三月ニ至リ金貨ノ騰貴ハ終ニ八年以來ノ最高點ニ達シタリ故ニ銀行紙幣ノ流通ハ愈〻杜塞シタルヲ以テ紙幣頭得能瓦介ハ同月十日ヲ以テ銀行紙幣ノ內銀行ノ便宜ニ任シ兌換セシメンコトヲ大藏卿ニ建議シ太政官ニ稟議アランコトヲ請ヘリ而シテ該建議ハ大藏卿ノ裁定ヲ經テ一旦太政官ニ稟議セラレタレトモ當時旣ニ國立銀行條例改

正ノ議アリ紙幣頭モ亦見ル所アリテ之カ下戻ヲ請ヒ遂ニ實行ニ至ラスシテ止ミヌ而シテ各國立銀行ハ再ヒ其殘額ノ銀行紙幣ヲ抵當トシテ新紙幣ノ貸下アランコトヲ大藏省ニ歎願シ此歎願ハ速ニ前例ニ準シ許容セラレタリ而シテ明治九年六月三十日ニ於テハ發行紙幣抵當トシテ出納寮ヘ預入レタル公債證書ハ百四拾貳萬圓ナルニ現ニ世上ニ流通セル銀行紙幣ハ僅ニ六萬貳千四百五拾六圓ナリ而シテ政府ヨリノ拜借金ハ百參拾四萬圓ナルヲ以テ實際ニ於テ政府ハ恰モ先ニ銀行ニ賣渡シタル金札引換公債證書ヲ再ヒ買戻シタル有樣ナリキ故ニ明治五年發布ノ銀行條例ノ效力ハ此ニ至リ全ク消滅シタリト云フモ不可ナカルヘキ乎

第二款 第二期

第一項 製造

銀行紙幣ハ曩ニ米國ニ於テ五種合計壹千四百餘萬圓ヲ製造シ爾來專ラ該紙幣ヲ以テ國立銀行發行ノ用ニ供シタリシカ明治九年條例ノ改正ニ依リテ更ニ多額ノ銀行紙幣ヲ要スルコトヽナリタルヲ以テ新ニ之カ製造ノ議ヲ生スルニ至レリ然ルニ舊銀行紙幣ハ各種券面金額ノ大小ニ拘ラス其幅員彩色共ニ同一ニシテ彼此ノ區別一見明瞭ナラサルヨリ授受ノ際計算ノ不便少カラサルノミナラス紙質亦頗ル脆弱ニシテ損傷ノ弊最モ多キヲ以テ當局者ハ力メテ是等ノ缺點ヲ補ヒ我印刷局ニ於テ新紙幣ノ製造ヲ爲サンコトヲ欲シ明治十年二月大藏卿ヨリ其旨ヲ太政官ニ具申シ壹圓ヨリ五百圓ニ至ルマテ八種ノ銀行紙幣合セテ四千萬圓ヲ製造シテ從來使用セル舊紙幣ヲ盡ク交換シ將來創立ノ各國立銀行ヘ下付スヘキ高ト損札交換ノ豫備ニ充ツルコトニ決セリ其割合左

ノ如シ

銀行紙幣製造高豫定表

種類	金額	割合
壹圓札	六、〇〇〇、〇〇〇円	一・五〇〇割
貳圓札	六、〇〇〇、〇〇〇	一・五〇〇
五圓札	八、〇〇〇、〇〇〇	二・〇〇〇
拾圓札	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二・五〇〇
貳拾圓札	三、〇〇〇、〇〇〇	〇・七五〇
五拾圓札	二、〇〇〇、〇〇〇	〇・五〇〇
百圓札	四、〇〇〇、〇〇〇	一・〇〇〇
五百圓札	一、〇〇〇、〇〇〇	〇・二五〇
合計	四〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇・〇〇〇

右ノ內貳拾圓以上ノ紙幣ハ商業ノ繁盛ナルニ從ヒ巨額ノ取引ヲ爲スニ當リテハ其携帶ニ便ナルト計算ノ勢ヲ省クトヲ以テ却テ融通ノ便ヲ助クルニ至ルヘシト雖モ當時市場ノ景況ヲ觀ルニ小紙幣ノ需用最モ多キヲ以テ明治十年十二月大藏卿ハ姑ク五百圓紙幣ノ製造ヲ停メ其豫定高百萬圓ハ更ニ五圓紙幣ニ繰換ヘ同紙幣都合九百萬圓ヲ製造スルコトヽナセリ然ルニ翌十一年五月ニ

至リテ銀行紙幣壹圓五圓ノ兩種ノ版面既ニ成リ漸次印刷ニ從事シタリト雖モ印刷局ノ事務頗ル多端ニシテ自餘ノ各種ハ未タ製造ニ著手スルコト能ハス若シ其製造ノ順序ニ從テ各種ノ紙幣ヲ下付シ前ニ定メタル割合ニ充テントセハ數年ノ後ヲ期セサル可ラス然レトモ業ニ已ニ開業免狀ヲ附與シタル各國立銀行ハ必ス五箇月ヲ期シテ悉皆其資本金ヲ集合スルノ規定條例第三十條ナルヲ以テ紙幣ノ下付ニシテ甚タ遲延スルトキハ大ニ其營業ヲ妨クルノ虞アリ仍テ政府ハ已ムヲ得ス明治十一年六月豫定ノ紙幣製造高ヲ更メテ壹圓五圓ノ兩種合セテ金貳千五百萬圓トナシ以テ一時國立銀行發行ノ紙幣ニ給スルコトヽ定メ尙ホ他日拾圓以上ノ紙幣ヲ製造スルニ至ラハ該紙幣ヲ以テ右五圓以下ノ損傷札ヲ交換シ遂ニ其割合ヲシテ總發行高十分ノ五ヲ超過セシメサルコトヽシ且ツ舊銀行紙幣ハ其流通既ニ彌蔓シ一時ニ之ヲ收集交換スルノ極メテ難キニヨリ右拾圓以上ノ紙幣成ルニ至リ是亦漸次其損傷紙幣ヲ交換シ遂ニ全ク舊銀行紙幣ノ迹ヲ斂ムルニ至ラシメント決シタリ其改正豫定高左ノ如シ

新銀行紙幣製造豫定高改正表

種類	金額	割合
壹圓	八、〇〇〇、〇〇〇円	三・二〇〇割
五圓	一七、〇〇〇、〇〇〇	六・八〇〇
合計	二五、〇〇〇、〇〇〇	

右壹圓紙幣ハ明治十年十二月ニ五圓紙幣ハ十一年六月ニ見本トシテ各八十二葉ヲ太政官ニ上呈セリ而シテ太政官ハ之ヲ諸官廳ニ配布シ且ツ其都度新ニ銀行紙幣ヲ製造シ從前ノ銀行紙幣ト取交セ國立銀行ヘ交付發行セシムヘキニ付疑念ナク授受スヘキ旨ヲ全國ニ布告シタリ而シテ拾圓以上ノ紙幣ハ引續キ製造スル見込ナリシモ後遂ニ之ヲ見合セ舊銀行紙幣ノ交換モ亦之ヲ施行セサルコトヽナレリ故ニ我印刷局ニ於テ製造シタル銀行紙幣ハ前記二種合計貳千五百萬圓ノ外損札引換豫備紙幣貳百四拾八萬五千四百貳圓ナリトス其詳細ハ左表ノ如シ

銀行紙幣印刷局製造高表

種類		數	金額	
札	壹圓札	八、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	圓
	五圓札	三、四〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	
	小計	一一、四〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇、〇〇〇	
豫備紙幣	壹圓札	八四〇、四四七	八四〇、四四七	圓
	五圓札	三二八、九九一	一、六四四、九五五	
	小計	一、一六九、四三八	二、四八五、四〇二	
通計		一二、五六九、四三八	二七、四八五、四〇二	

新銀行紙幣見本明細表

科目	金額	數	紛失高	燒棄高	現在高	合計
壹圓札	金	三二八	五	四三五	三〇	五〇二
五圓札	枚	八	一	一四七	一〇	一六六

此新紙幣見本ハ各所配付ノ爲メ單ニ見本品トシテ調製シタルモノナレハ製造總額ニハ關係ヲ有セサルモノナリ

新銀行紙幣製造費ヲ計算スルニ左ノ如シ

印刷局現費	壹圓札壹枚ニ付	貳錢壹厘四毛五
	五圓札同上	貳錢五厘
外ニ記錄局押印費壹枚ニ付八毛四ヲ加フレハ	壹圓札壹枚ニ付	貳錢貳厘貳毛九
	五圓札同上	貳錢五厘八毛四

右製造費ハ舊條例ノ下ニ於テハ悉皆政府ノ負擔スル所ナリシカ明治九年改正條例ニ依リテ其入費ヲ銀行ヨリ徵收スルコトヽナレリ（條例第四十五條但シ舊銀行紙幣ハ條例改正以前ノ發行ニ係ルモノアリ卒カニ共現費ヲ徵收シ難キ事情アリシヲ以テ大藏省ハ特ニ其三分ヲ減シ明治十年二月以降之ヲ徵收セリ

以上新銀行紙幣ノ製造ハ本邦ニ於テ創始ノ業ニ屬セルヲ以テ當局者等最之ニ意ヲ用キ遂ニ其業

ヲ完成スル事ヲ得タリ故ニ之ヲ米國製舊銀行紙幣ニ比スレハ紙質印刷共ニ一層ノ進歩ヲ見タリ

第二項　下付及流通

一　下付

明治九年八月國立銀行條例改正ノ擧アリ紙幣下付高ヲ增加シテ資本金十分ノ八ト爲シタルニ依リ舊條例ヲ奉シテ創立シタル銀行ヘハ更ニ資本金十分ノ二ヲ附加シ且ツ將來創立スル所ノ銀行ヘ下付スヘキ紙幣ノ割合ヲ規定セサルヘカラス因テ同年十一月銀行紙幣ノ現在高（銀行ヘ下付殘高ニシテ大藏省ニ現存スルモノ）ヲ調査セシニ壹千貳百貳萬參千四百參拾貳圓ニシテ內五圓以下ノ紙幣殆ント十分ノ八ニ居レリ若シ條例ノ規定ニ據リ五圓以下半數ノ比例ヲ以テ之ヲ下付スルトキハ高額ノ紙幣ハ著シク不足ヲ生スヘキヲ以テ更ニ現在高ニ比例シ下付ノ割合ヲ左ノ如ク規定シタリ

明治九年十一月銀行紙幣現在高竝ニ下付割合表

種類	現在金額	下付割合
貳拾圓	一、三二〇、六四〇圓	一割一・〇九强
拾圓	一、一七四、一二〇	〇・九七强
五圓	二、七五三、七四〇	二・二九强
貳圓	二、五一九、五五二	二・〇九强
壹圓	四、二五五、三八〇	三・五三强
合計	一二、〇二三、四三二	

爾來右ノ割合ヲ以テ漸次各銀行ニ下付シ明治十年十一月ニ至リテハ銀行紙幣ノ現在高僅ニ拾六萬六千圓ヲ存セリ此高ヨリ六千圓ヲ引キ以テ損傷紙幣交換ノ豫備ニ充テ其殘拾六萬圓ヲ以テ各國立銀行ヘ下付スヘキ額ト爲セリ而シテ當時銀行創立ヲ許可セラレシモノ三十四ノ多キニ及ヘリ故ニ若シ此拾六萬圓ノ紙幣ヲ以テ各銀行資本高ノ割ニ充テントスルトキハ僅ニ二三ノ銀行ニ供給スルニ過キス是ヲ以テ暫ク左表ノ割合ヲ以テ配賦シ其不足高ハ新銀行紙幣發行ノ日ヲ待テ下付スルコトヽセリ

明治十年十一月銀行紙幣現在高竝下付割合表

種類	現在金額	下付割合
貳拾圓	五、〇〇〇円	〇・三一强
拾圓	三、〇〇〇	〇・一八强
五圓	一六、〇〇〇	一・〇〇
貳圓	二一、〇〇〇	一・三一强
壹圓	一一五、〇〇〇	七・一八强
合計	一六〇、〇〇〇	

尋テ明治十年十二月以降我印刷局ニ於テ新紙幣ノ製造成ルニ及ンテ順次之ヲ國立銀行ニ下付シ

十三年十二月ニ至リテ各發行免許高ニ對スル全部紙幣ノ下付ヲ了セリ其額實ニ參千四百四拾七萬六千八百八拾圓ナリトス尚ホ詳細ハ左表ニ就テ之ヲ見ルヘシ

銀行紙幣每月下付高表

年月	下付高	年月	下付高
自明治六年七月 至同九年七月	一、四二〇、〇〇〇円	明治十年七月	二、九六二、九七九
明治九年八月	—	同 八月	八三〇、五一六
同 九月	—	同 九月	七八、五〇八
同 十月	一二〇、〇〇〇	同 十月	一八二、九〇七
同 十一月	一八〇、〇〇〇 六〇、〇〇〇	同 十一月	一五三、八六八
同 十二月	八四、〇〇〇	同 十二月	一四四、〇四〇
小計（五ヶ月）	三八四、〇〇〇 三二四、〇〇〇	小計	一一、六〇八、七五一
明治十年一月	一一一、四〇〇	明治十一年一月	一六〇、八七六
同 二月	一一三、八五〇	同 二月	四〇、〇〇〇
同 三月	一七九、六〇〇	同 三月	五九一、七七三
同 四月	一四八、八七〇	同 四月	一、二一八、四〇〇
同 五月	二、四二九、七八七	同 五月	九〇八、二〇〇
同 六月	四、二七二、四二四	同 六月	六八四、八〇〇

（第五銀行還納）

（還納ノ分差引）

明治十一年七月	三、九八六、〇八〇	明治十二年十一月	一六、二〇〇
同 八月	六六五、二〇〇	同 十二月	二六四、〇〇〇
同 九月	一、三二二、一〇〇	小計	七、七九三、四〇〇
同 十月	一、〇七〇、七四〇	明治十三年一月	九一、七八五
同 十一月	九四七、二四〇	同 二月	一四五、九二〇
同 十二月	一、三三〇、八四六	同 三月	一五、〇八〇
小計	一二、九二六、二五五	同 四月	—
明治十二年一月	八二二、七六〇	同 五月	—
同 二月	一、二四六、一一〇	同 六月	—
同 三月	一、三六五、七七四	同 七月	—
同 四月	一、一九九、四七〇	同 八月	—
同 五月	一、一〇九、六八五	同 九月	—
同 六月	一、〇七〇、六五〇	同 十月	—
同 七月	二三七、四二五	同 十一月	—
同 八月	七五、六〇〇	同 十二月	一六、六一五
同 九月	二四四、一一〇	小計	四〇四、四〇〇
同 十月	一五一、六九〇	通計	三四、四七六、八八〇

備考

本表ハ明治九年改正條例ノ下ニ於ケル國立銀行紙幣發行許可高ニ對スル下付紙幣ノ種類及ヒ員數ヲ明細ナラシメンカ爲メ通計中ヨリ減棄セラレタル分ヲ除キ現ニ通用スヘキ下付ノ紙幣（第一參照）ヲ示シ又左ニ一表ヲ作リテ各國立銀行紙幣發行許可高ニ對スル下付紙幣ノ種類及ヒ員數ヲ明細ナラシメン

各國立銀行紙幣下付高明細表

種類／行名	舊壹圓札	舊貳圓札	舊五圓札	舊拾圓札	舊貳拾圓札	新壹圓札	新五圓札	合計
第一	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第三	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第四	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第五	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第六	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第七	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第八	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第九	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十一	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十二	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十三	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十四	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十五	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十六	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十七	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十八	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第十九	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二十	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二十一	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二十二	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二十三	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二十四	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二十五	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二十六	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇
第二十七	二八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一二、〇〇〇	〇	八〇、〇〇〇

第二十八	一七、二〇〇	三、二〇〇	二、四〇〇	四〇〇	八〇〇	四〇、八〇〇	九五、二〇〇	一六〇、〇〇〇
第二十九	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第三十	二八、七五〇	五、三〇〇	四、〇〇〇	七五〇	一、二〇〇	四八、〇〇〇	一一二、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
第三十一	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第三十二	八、八五九	一、八七六	八六五	一〇〇	三〇〇	五六、四〇〇	一三一、六〇〇	二〇〇、〇〇〇
第三十三	〇	〇	〇	〇	〇	四八、〇〇〇	一一二、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
第三十四	〇	〇	〇	〇	〇	六〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
第三十五	〇	〇	〇	〇	〇	一六、八〇〇	三九、二〇〇	五六、〇〇〇
第三十六	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第三十七	〇	〇	〇	〇	〇	三六、〇〇〇	八四、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
第三十八	〇	〇	〇	〇	〇	五五、二〇〇	一二八、八〇〇	一八四、〇〇〇
第三十九	〇	〇	〇	〇	〇	八四、〇〇〇	一九六、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
第四十	〇	〇	〇	〇	〇	三六、〇〇〇	八四、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
第四十一	〇	〇	〇	〇	〇	四八、〇〇〇	一一二、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
第四十二	〇	〇	〇	〇	〇	六〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
第四十三	〇	〇	〇	〇	〇	四八、〇〇〇	一一二、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
第四十四	〇	〇	〇	〇	〇	一六八、〇〇〇	三九二、〇〇〇	五六〇、〇〇〇
第四十五	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇

第四十六	〇	〇	〇	〇	〇	一二、〇〇〇	二八、〇〇〇	四〇、〇〇〇
第四十七	〇	〇	〇	〇	〇	二二、八〇〇	五三、二〇〇	七六、〇〇〇
第四十八	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第四十九	〇	〇	〇	〇	〇	四八、〇〇〇	一一二、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
第五十	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第五十一	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第五十二	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第五十三	〇	〇	〇	〇	〇	一九、二〇〇	四四、八〇〇	六四、〇〇〇
第五十四	〇	〇	〇	〇	〇	一六、八〇〇	三九、二〇〇	五六、〇〇〇
第五十五	〇	〇	〇	〇	〇	一二、〇〇〇	二八、〇〇〇	四〇、〇〇〇
第五十六	〇	〇	〇	〇	〇	一九、二〇〇	四四、八〇〇	六四、〇〇〇
第五十七	〇	〇	〇	〇	〇	一二、〇〇〇	二八、〇〇〇	四〇、〇〇〇
第五十八	〇	〇	〇	〇	〇	四〇、八〇〇	九五、二〇〇	一三六、〇〇〇
第五十九	〇	〇	〇	〇	〇	四八、〇〇〇	一一二、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
第六十	〇	〇	〇	〇	〇	六〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
第六十一	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第六十二	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
第六十三	〇	〇	〇	〇	〇	二四、〇〇〇	五六、〇〇〇	八〇、〇〇〇

第六十四	第六十五	第六十六	第六十七	第六十八	第六十九	第七十	第七十一	第七十二	第七十三	第七十四	第七十五	第七十六	第七十七	第七十八	第七十九	第八十	第八十一			
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

	第一百一十六	第一百一十七	第一百一十八	第一百一十九	第一百二十	第一百二十一	第一百二十二	第一百二十三	第一百二十四	第一百二十五	第一百二十六	第一百二十七	第一百二十八	第一百二十九	第一百三十	第一百三十一	第一百三十二	第一百三十三	第一百三十四	第一百三十五
	一六〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四八，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	九六，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一六〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	五六，〇〇〇	三一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	五六，〇〇〇
	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇	四〇，〇〇〇	一一二，〇〇〇

第百三十六	○	○	○	○	○
第百三十七	○	○	○	○	○
第百三十八	○	○	○	○	○
第百三十九	○	○	○	○	○
第百四十	○	○	○	○	○
第百四十一	○	○	○	○	○
第百四十二	○	○	○	○	○
第百四十三	○	○	○	○	○
第百四十四	○	○	○	○	○
第百四十五	○	○	○	○	○
第百四十六	○	○	○	○	○
第百四十七	○	○	○	○	○
第百四十八	○	○	○	○	○
第百四十九	○	○	○	○	○
第百五十	○	○	○	○	○
第百五十一	○	○	○	○	○
第百五十二	○	○	○	○	○
第百五十三	○	○	○	○	○

二 流通

明治九年八月國立銀行條例改正以降十年六月ニ至ルマテ僅々一箇年ニ滿タサル間ニ於テ國立銀行ノ開業ヲ告ケタルモノ十二個其資本金合計貳千百拾七萬六千百圓、發行紙幣總額千九百參拾四萬八百八拾圓ノ巨額ニ上レリ斯ノ如ク銀行紙幣ノ發行俄ニ增加シタルヲ以テ東京第一國立銀行ハ此際銀行紙幣ノ散布ニ注意スルニアラサレハ僻遠ノ地方ニ於テハ人民之カ流通ヲ忌ミ其結果該紙幣自ラ都會ニ集合スルコトヽナリテ終ニハ政府發行ノ新紙幣ト銀行紙幣トノ間ニ打歩ヲ生スルニ至リ銀行營業ノ危險ヲ來スヘキヲ慮リ明治十年六月二十二日ヲ以テ左ノ如ク大藏省ニ出願シタリ

銀行條例御改定相成候以來其創立相願候者頻々增加仕候ニ付各社發行ノ紙幣モ隨テ巨額ト可相成ノ處右銀行紙幣ノ如キ僻遠ノ地ニ於テハ未タ其取扱ニ馴習無之ヨリ多クハ都會ニ聚散シ其過量ニ及ハヽ終ニハ新札トノ差額ヲ生シ可申哉ノ懸念モ有之而シテ其都會ニ集マリ候際ニ於テハ各銀行トモ互ニ其交換ヲ相始メ候樣ニテハ或ハ流通ノ障碍トモ可相成哉ニ奉存候就テハ當銀行ノ儀ハ是迄各地方ニ於テ荷爲替業等ノ取引モ有之ニ付地方出產物ノ多キニ際シ其商業ニ關シテ勉メテ銀行紙幣ヲ輸送シ各地方ヘ流通致シ專ラ都鄙ノ互通ヲ相謀リ申度候得共未タ充分慣習無之儀ニ付右輸送ノ銀行紙幣ニテ其地方ノ流通ニ差支モ有之節ハ其御縣ヘ申上豫

合計	四、八〇六、七八九
	二、八二八、六五六
	二、九〇九、二〇五
	一、八〇五、七五〇
	一、四八三、六〇〇
	七、一三四、〇〇〇
	一三、五〇八、八八〇
	三四、四七六、八八〇

備金ノ中ニテ御都合相成候丈ハ銀行紙幣ト他ノ通貨トノ交換ヲモ相願取交通用候樣仕度依テ右樣ノ時機ニ候ハヽ御縣ニ於テモ成丈ケ御繰合被下其交換モ御聞屆相成且ツ御治下ニ於テ銀行互通ノ便宜御心配被下候樣兼テ御本省ヨリ御通達被成下置候云々

大藏省ハ審議ノ上其願意ヲ容レ同年七月十七日ヲ以テ左ノ如ク各府縣(東京府ヲ除ク)ニ內達セリ

第一國立銀行ヨリ別紙ノ通出願事實無餘儀相聞候ニ付則チ朱書ノ通及指令置候條萬一於其地方銀行紙幣流通ノ差閊モ有之同銀行ヨリ通貨ト交換ノ儀願出候節ハ其府縣廳ノ都合見計豫備金ノ內ヲ以テ引換可遣該紙幣ノ儀一旦其取引ヲ誤ル時ハ一時ノ流通ニモ差響キ詰リ民間ノ不便ヲ來タスモ難計候條別紙同銀行願書ノ趣ヲ酌量シ便宜取計可申此旨內達候事

但本文ノ儀ハ第一銀行ニ限ラス自餘ノ銀行及ヒ官ノ爲替方相務候者ヨリ願出候節モ同樣取計可申事

斯ノ如ク銀行紙幣ノ流通ニ於テハ政府深ク意ヲ用キ特ニ各府縣ノ豫備金ヲ流用シテ引換ノ便ヲ助ケシメタルノミナラス條例改正ニ依リテ銀行紙幣ハ通貨卽チ政府紙幣ヲ以テ兌換スルノ制トナシタルヲ以テ各銀行トモ交換ノ累ナク且ツ國立銀行ノ閉鎖アルモ其紙幣ハ必ス交換セラルヘキコト疑ナキニヨリ銀行紙幣ノ信用最モ固ク政府紙幣ト相竝ンテ圓滑ニ流通シ舊條例ノ時代ニ比シテ全ク其面目ヲ一新セリ故ニ明治九年八月以降ハ政府ノ手ヨリ實際下付シタル高ヲ以テ銀行紙幣ノ流通高ト爲スモ亦取テ不可ナルヲ見サルナリ今左ニ本期間ニ於ケル流通高ヲ示スヘシ

銀行紙幣每月末日流通高表

年月	流通高	年月	流通高
明治九年九月	一、四二〇、〇〇〇	明治十一年一月	一三、五一三、六二七
同十月	一、五四〇、〇〇〇	同二月	一三、五五三、六二七
同十一月	一、六六〇、〇〇〇	同三月	一四、一四五、四〇〇
同十二月	一、七四四、〇〇〇	同四月	一五、三六三、八〇〇
同十年一月	一、八五五、四〇〇	同五月	一六、二七二、〇〇〇
同二月	一、九六九、二五〇	同六月	一六、九五六、八〇〇
同三月	二、一四八、八五〇	同七月	二〇、九四二、八八〇
同四月	二、二九七、七二〇	同八月	二一、六〇八、〇八〇
同五月	四、七二七、五〇七	同九月	二二、九三〇、一八〇
同六月	八、九九九、九三一	同十月	二四、〇〇〇、九二〇
同七月	一一、九六二、九一〇	同十一月	二四、九四八、一六〇
同八月	一二、七九三、四二六	同十二月	二六、二七九、〇〇六
同九月	一二、八七一、九三四	同十二年一月	二七、一〇一、七六六
同十月	一三、〇五四、八四三	同二月	二八、三四七、八七六
同十一月	一三、二〇八、七一一	同三月	二九、七一三、六五〇
同十二月	一三、三五二、七五一	同四月	三〇、九〇三、一二〇

明治十二年五月	三二、〇一二、八〇五	
同　六月	三三、〇七一、三四六	
同　七月	三三、三〇八、一一四	
同　八月	三三、三七〇、六四九	
同　九月	三三、六一四、七五九	
同　十月	三三、七六六、三七六	
同　十一月	三三、七八二、三四四	
同　十二月	三四、〇四六、〇一四	
同十三年一月	三四、一三七、六五二	
同　二月	三四、二八三、五六一	
同　三月	三四、四二九、六三五	
同　四月	三四、四二四、一四八	
同　五月	三四、四一九、七九八	
同　六月	三四、四一五、〇六四	
同　七月	三四、四一三、五〇〇	
同　八月	三四、四一三、三八一	
同　九月	三四、四一三、一〇六	
同　十月	三四、四一二、一六九	

明治十三年十一月	三四、四一〇、二八二	
同　十二月	三四、四二六、三五一	
同十四年一月	三四、四二四、八九二	
同　二月	三四、四二〇、二六六	
同　三月	三四、四一八、六七六	
同　四月	三四、四一三、六二一	
同　五月	三四、四〇九、八四四	
同　六月	三四、四〇九、八四四	
同　七月	三四、四〇八、〇〇〇	
同　八月	三四、四〇七、六四〇	
同　九月	三四、三九八、五八五	
同　十月	三四、三九八、〇三〇	
同　十一月	三四、三九八、〇二九	
同　十二月	三四、三九六、八一八	
同十五年一月	三四、三九六、八一八	
同　二月	三四、三九六、八一七	
同　三月	三四、三九六、八一六	
同　四月	三四、三九六、八一五	

第三項　損傷紙幣

損傷紙幣ハ敗裂若シクハ汚染等ノ爲メ通用シ難キモノニシテ玆ニ掲クルハ國立銀行條例竝ニ同成規ニ遵ヒ豫備ノモノト引換ヲ爲スモノヲ云フモノニシテ明治六年七月初メテ國立銀行ニ紙幣ヲ下付シタル以來舊條例ノ下ニ於テ損傷札合計貳千六百七拾參圓ノ納付アリ尋テ新條例ノ下ニ至リ銀行紙幣ノ流通大ニ增加スルニ及ンテ該交換ヲ請求スルモノ年々益〻增進セリ

抑〻損傷紙幣交換ノ方法ハ國立銀行成規第二十三條ニ據リテ金額五百圓未滿ハ之ヲ銀行ニ藏置シ五百圓以上ニ達スル時ハ大藏省紙幣寮ニ差出シ以テ新札ト引換ヲ請フモノトス而シテ公衆ヨリ銀行ニ向テ之カ交換ヲ請求スルニハ明治九年改正ノ國立銀行條例第四十九條及ヒ第九十二條ノ規定ニ從ヒ各發行ノ本支店ニ限リテ之ヲ爲ヘキモノトス後明治十六年國立銀行條例中ニ改正ヲ加フルニ及ヒ第四十九條ヲ修正シ日本銀行ニ於テ之ヲ取扱フモノトシ又引換拒絶ノ場合ニ關スル第九十二條ノ規定ハ之ヲ削除セリ

然ルニ僅少ノ損札ヲ交換ノ爲メ遠隔ノ銀行本店又ハ支店ニ持參スルハ頗ル不便ニシテ且ツ爲メ

同　五月	三四、三九六、八一四	
同　六月	三四、三九六、八一三	
同　七月	三四、三九六、八一二	
同　八月	三四、三九六、八一二	

同　九月	三四、三九六、六〇一	
同　十月	三四、三九五、八六八	
同十一月	三四、三九三、〇九九	
同十二月	三四、三八五、三四九	

ニ銀行紙幣ノ流通ニ多少ノ障碍ヲ與フルヲ免レサルヲ以テ各府縣竝ニ諸銀行之ヲ憂ヒ往々其方法ヲ稟伺スルアリ仍テ大藏省ハ明治十年十月十八日ヲ以テ其發行遠隔ノ地ニアリテハ其地方廳及ヒ爲替方ニ於テ明治九年發布ノ國立銀行成規第二十四條(敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ引換ヲ乞フ者アラハ銀行ノ役員ハ其金額ノ數位ニ注目檢査シテ之ヲ引換フヘシ尤モ敗裂シテ其紙片ノ全備セサルモノト雖モ大藏卿ノ印章アルニ於テハ之ヲ引換フヘシ)ニ據リテ之カ交換ヲ爲シ其損傷紙幣ハ發行店ヘ回送シテ其代リ金竝ニ遞送費ヲ領收スヘキ旨ヲ各府縣ニ達セリ然ルニ爾來國立銀行ノ創立漸ク全國ニ普及セシヨリ之ヲシテ互ニ其交換ニ從事セシメハ更ニ一層ノ便宜ヲ加フヘキヲ以テ明治十二年二月十日ニ至リ大藏卿ハ損傷紙幣ハ自他發行ノ別ナク互ニ之カ交換ヲ爲シ又互ニ其代リ金及ヒ遞送費手數料ヲ(交換高千分ノ二)領收スヘキ旨ヲ各銀行ヘ達シ同時ニ地方廳及ヒ爲替方ニ爾後其交換ニ從事スルニ及ハサル旨ヲ各府縣ニ達シタリ

是ヨリ先キ明治十年八月第一國立銀行等ハ擇善會ト稱スル銀行同盟會ニ於テ損傷紙幣交換ノ方法ヲ議定シ同盟銀行連署シテ之ヲ大藏省ニ建議セリ其方法タル損傷銀行紙幣ノ交換ヲ請フ者アルトキハ各銀行ニ在リテハ官札引換元金ヲ以テ地方廳ニ在リテハ豫備金ヲ以テ其交換ニ從事シ且ツ交換シタル損札遞送ノ便宜ヲ計リ各地方ニアル銀行ハ各東京ニアル支店及ヒ他店ヘ其取扱方ヲ委託シ各地方ニ於テ引換ヘタル紙幣ハ其發行本店(地方所在)ヲ經由セス直ニ東京ニ回送シ其代リ金及ヒ遞送費等ヲ要求スルノ主意ニシテ添ユルニ交換規則ヲ以テス尋テ明治十一年三月ニ至リ其交換規則ニ修正ヲ加ヘテ再ヒ之ヲ大藏省ニ提出シ以テ採用アランコトヲ請ヘリ而シテ國立銀行成規第二十一條以下ニ掲クル所ノ交換方法ハ未タ盡サヽル所アルヲ以テ其改正ノ日ヲ待タサ

レハ之ヲ實施セシムル能ハサルヲ以テ先ツ同第二十四條ヲ改正セラレンコトヲ同年十二月大藏卿ヨリ太政官ニ稟議セリ仍テ十二年一月二十日第三號布告ヲ以テ國立銀行成規第二十四條ヲ改正セリ

然ルニ右ノ改正ハ單ニ損札交換ニ關スル規則ヲ示スニ止マリ當業者等未タ以テ實地取扱ノ便ヲ得タリト云フ可ラス且ツ又同年二月十日ノ大藏省達ハ特ニ公衆ノ便ヲ計リタルモノニシテ其引換ヲナス銀行就中東京大阪ノ如ク現ニ數行竝立ノ地ニ於テハ事頗ル繁雜ヲ來スヘキニヨリ東京同盟銀行ハ更ニ改正成規ニ基キ其ノ敗裂紙幣交換規則ニ修正ヲ加ヘ明治十二年四月大藏省ニ差出シテ之カ承認ヲ請ヒ繼テ六月右方法ハ單ニ同盟銀行間ニ於ケル隨意ノ規約ニテハ全國銀行ニ普及セサルノ憂アルニヨリ大藏省ヨリ其旨ヲ一般ニ令達セラレンコトヲ申請シタリ依テ大藏省ニ於テハ其願意ヲ容レ同年七月十二日ヲ以テ左ノ如ク各國立銀行ヘ通達セリ

第一國立銀行外二十一銀行會同協議ヲ以テ敗裂銀行紙幣各店互ニ交換スルノ規則ヲ設ケ各銀行ニ於テモ同樣施行致度旨例則及ヒ例圖等相添ヘ連署伺出被聞屆候條右交換方之儀該銀行ヨリ協議候ハヽ右ニ準據シ實施候樣可致此旨申達候也

斯ノ如クシテ損傷紙幣交換ノ細目ハ東京同盟銀行ノ協定ニ基キ普ク全國ニ施行セラレタリ

尋テ明治十三年三月ニ至リ同盟銀行ハ右規定ノ不備ヲ補ヒ且ツ之ヲ印刷ニ付シテ全國國立銀行ニ配布センコトヲ大藏省ニ申請シ同年六月其裁定ヲ經テ爾來之カ實行ヲ見ルニ至リシカ明治十六年國立銀行條例ノ改正アルニ及ヒテ消滅セリ左ニ其交換規則例則竝ニ例圖ヲ掲ク

敗裂銀行紙幣交換規則

第一條　凡ソ國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ノ敗裂シテ流通ニ不便ノモノハ其發行本店ノ何レノ地タルヲ論セス各府縣下ニ設立シタル國立銀行及ヒ三井銀行ノ本支店ニ於テ之ヲ交換スヘシ

第二條　第一條ノ如ク定ムト雖モ同村市内ニ於テ其紙幣ヲ發行シタル銀行ノ本支店アルモノハ一應所持人ニ於テ强テ交換ヲ望ム時ハ無論交換ヲ爲スヘシ

但本條ノ場合ニ於テ其交換ヲ引受ケタル銀行ハ更ニ其發行本店ニ對シテ交換代リ金ヲ請求スルハ勿論ナレトモ別ニ手數料又ハ遞送費等ヲ請求スヘカラス

第三條　此敗裂紙幣引換ノ元金ハ銀行ノ手許餘金或ハ銀行ノ準備金ノ内ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條　此敗裂紙幣引換ノ手數料ハ千分ノ二ト定メ其紙幣發行ノ店ヨリ引換ヲ爲シタル店ヘ仕拂フ可シ

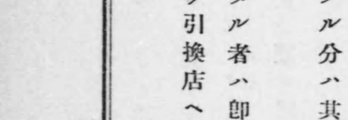
第五條　各銀行ニ於テ引換タル敗裂紙幣ハ必ス東京ノ大藏省ニ送致シテ新紙幣ト引換ヲ要スルモノタルニ付其發行ノ本店ハ何レノ地タルヲ論セス引換ヲ爲シタル銀行ハ其「コルレスポンデンス」ヲ結約シタル在東京ノ銀行ニ向ケ各銀行毎ニ區別シタル種類枚數金額ノ明細表ヲ添テ之ヲ郵送スヘシ

但其發行店東京ニアルカ又ハ東京接近ノ地方ニ在リテ大藏省ヘ運搬ノ便宜アル分ハ直ニ該店ヘ（即チ發行店ニ）送致スルコトアルヘシ

第六條　引換ヲ爲シタル銀行ヨリ敗裂紙幣ヲ遞送スルニハ成ルヘク其度數ヲ合スルノ方法ヲ用ヒ務メテ遞送費ノ節減ニ注意スヘシ

凡ソ敗裂紙幣ヲ遞送スルニ少キモノハ郵便ヲ以テシ多キ者ハ陸運便船ヲ以テスルモ適宜トナス而シテ其紙幣ハ能ク之ヲ紙封シ封上ニ敗裂紙幣等ノ字ヲ記サルヽヲ法トス

敗裂紙幣ヲ遞送スルニ其途中盜掠等ニ因テ再交換ノ患アルヲ防クカ爲メ左ニ載スル圖式ノ打拔印ヲ以テ其印面ニ朱肉ヲ著ケ該紙幣ヲ打拔クコト其敗裂ノ形狀ニ應シテ一箇所ヨリ二三箇所ニ至ル隨宜ヲ要ス其交換ニ充ツヘキ部分ヲ鑽傷印染シテ復タ奸作ヲ施サシメサルカ爲ナリ



印ハ鐵造輪廓文字トモニ刻面活利以テ打拔キニ便ナルヲ要ス

此輪廓ニ隔所アルハ打拔テ以テ紙體ノ離離セサルカ爲メナリ

第七條　第五條ノ事故アルニヨリ各地方ニ設立シタル銀行東京ニ本支店ナキモノヲ云フ）ハ此敗裂紙幣交換ノ件ニ限リ必ス在東京ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ノ約束ヲ結ヒ都テ該事ニ關スル庶務ヲ委託スヘシ

但既ニ在東京ノ銀行ト普通ノ「コルレスポンデンス」ヲ取結ヒタル分ハ其約束中ニ於テ此敗幣交換ノ件ヲ取扱フモ妨ケナシ

第八條　在東京ノ銀行ニシテ地方ノ銀行ヨリ前條ノ委託ヲ受ケタル者ハ卽チ其發行店（地方銀行）ノ代理人トナリ敗幣ノ交換ヲ始メ代幣ノ受取方及ヒ其發行店ヨリ引換店ヘ仕拂フヘキ手數料及ヒ遞送費ノ渡方ニ至ルマテ一切之レヲ辨理スヘシ

第九條　此代理店ニ於テ交換シタル敗裂紙幣（各地方ヨリ遞送シ來ルモノ及ヒ其店ニテ交換シタルモノトモ）ハ條例制限ノ金高ニ至ルマテ之ヲ支辨シ制限ノ金高ニ滿ツレハ其發行店ノ代理人トナリテ之ヲ大藏省ニ納メ代リ紙幣ヲ受取リ押印其他ノ手續ヲ爲シテ之ヲ其本店（代理ヲ託シタル地方ノ銀行）ヘ送達スヘシ

但該代理店ニ於テ交換シタル敗裂紙幣ハ毎月兩度其種類枚數金額ノ明細表ヲ製シ之ニ手數料遞送費ノ計算書ヲ添ヘテ其發行店ヘ送致スヘシ

第十條　在東京ノ銀行本支店ハ其「コルレスポンデンス」ヲ取結ヒタル引換店ヨリ各社ノ敗裂紙幣ヲ送致シ來ル時ハ各銀行毎ニ之ヲ區別シテ其精算ヲ爲シ之ヲ發行店（東京ニ本支店アルモノヲ云フ）或ハ其代理店ニ送達シ敗幣ノ代リ金引換ノ手數料及ヒ遞送費ヲ受取リ之ヲ其引換店ニ送付スヘシ

但普通「コルレスポンデンス」ノ約定アル分ハ直ニ其貸借勘定中ニ組込ムヘシ

第十一條　前條ノ引換店ヨリ送達シタル敗幣中ニ該店（代理ヲ託サレタル地方銀行發行ノ分及ヒ送達ヲ受ケタル本店代理ニ任スル東京銀行ノ本支店）ノ分アラハ之ヲ引去リ混淆セサル樣區別シ條例制限ノ金高ニ滿ツルマテ之ヲ貯有シ置クヘシ

第十二條　敗幣交換ノ爲メ各地方ノ銀行ト在東京ノ銀行ト取結ヒタル「コルレスポンデンス」ト聯合ノ區分ハ一覽表ニ製シテ各國立銀行三井銀行ノ本支店及ヒ地方官廳ヘモ悉ク通知シ置クヘシ

但追テ創立スル銀行モ都テ此例ニ倣ツテ此約束ヲ爲シ且ツ之ヲ通知スヘシ

第十三條　敗裂紙幣交換ノ代リ金其手數料第四條ノ定額）及ヒ之ヲ東京ヘ送致シタル遞送費等ハ都テ其紙幣ノ發行店ヨリ引換ヲ爲シタル店ヘ仕拂フヘキモノタルニ付其發行店ト東京ノ代理店トノ間ニ於テ普通又ハ此敗裂交換ノ爲メ取結ヒタル「コルレスポンデンス」ノ貸借勘定中ニ組込ム可シ

第十四條　在東京ノ銀行本支店ハ此代理店ノ委託ヲ受ケテ地方ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ取結フニ付テハ多少ノ手數料ヲ要スヘキニ付結約ノ時々雙方協議ノ上敗裂紙幣ノ多寡又ハ其他ノ方法ニヨリテ其割合ヲ定メ置クヘシ

第十五條　此敗裂紙幣ノ交換ハ明治十二年一月改正銀行成規第二十四條ノ率法ニ基キ之ヲ周密ニ取扱フヘシ

第十六條　前條布告ノ率法ニ準據シテ交換シ難キ程ノ敗裂紙幣ハ之ヲ其發行店ニ送付シ發行店ヨリ東京銀行集會所ヘ送付シ其鑑定ヲ請ヒ然ル上之ヲ處置スヘシ

第十七條　萬一布告ノ率法ヲ誤リタルトキハ其引換ヲ爲シタル店ノ損失ニ歸シ發行店ヨリハ之ヲ償ハサルヘシ

第十八條　贋造紙幣ト見極メタルモノハ之ヲ所持人ノ眼前ニ於テ截斷シ政府ノ贋造紙幣ト同樣ノ手續ニ運フ可シ

第十九條　敗裂紙幣眞贋ノ鑑定ヲ誤リ贋札ヲ引換タル時モ其引換ヲ爲シタル店ノ損失タルヘシ

第二十條　此交換規則ハ東京擇善會ノ同盟銀行大藏省ノ允許ヲ得テ取極メタルモノニ付自今各地ニ設立スル國立銀行モ此規則ヲ履行シテ交換ニ從事スヘシ

第二十一條　此交換規則中他日更正增補ヲ要スルコトアレハ東京擇善會ニ於テ其得失ヲ討議シ定論ノ上各地ノ他行ニ協議シテ大藏省ノ裁可ヲ得テ後之ヲ行フ可シ

但其節ハ各地ノ國立銀行三井銀行ノ本支店ヘモ其由ヲ通知ス可シ

以上

敗裂銀行紙幣交換例則

紙幣ノ敗裂ハ千狀萬態ニシテ豫メ規例スヘカラサルモノナリ然レトモ復タ率法ヲ以テセハ何等ノ奇敗異裂ト雖モ之ヲ條析シテ以テ交換不交換ヲ指定スル亦甚タ難キニアラス爰ニ敗裂形狀十二圖ヲ設ケ銀行成規第二十四條ノ率法ニ依テ其交換不交換ノ別ヲ明析ス事ニ從フ者能ク之ヲ領會セハ庶クハ錯誤ナカラン

第一圖

其左右兩片ハ番記號ヲ存スト雖モ頭取支配人名印行名等確認スルヲ得サルヲ以テ交換セス而シテ中央ノ一片ハ役人姓名行名等歷然之ヲ認ムルヲ以テ全額ニ交換ス

第二圖

其右片ハ番記號各其一及ヒ頭取ノ名印ヲ存シ中央ハ行名及ヒ記號各其一ヲ存スルヲ以テトモニ半額ニ交換ス其左片ハ右片及ヒ中央片ノ交換ヲ得ルカ爲メニ交換セス

第三圖

其左片ハ番記號各其一及ヒ支配人名印ヲ存シ右片ハ番記號各其一及ヒ頭取姓名印ヲ存スルヲ以テ各半額ニ交換ス

第四圖

其第一第二兩片ハ一ハ行名役員姓名ヲ認メス一ハ纔カニ頭取姓名ノ半箇ヲ存シ番記號ヲ存セサルヲ以テ共ニ交換セス又第一第二ノ兩片相連ナルモノト雖モ役員姓名不充分ナルノミナラス其缺損部分ハ金額行名ノ全存スヘキ餘地アリテ全額交換ノ效ヲ有スルモノニ付半額ノ交換ニモ付スルヲ得ス第三片ハ番記號一モ存セサルモ第一第二ノ兩片ニ於テ行名又ハ役員姓名ノ全存スヘキ餘地ナキニヨリ全額ヲ以テ交換ス

第五圖

第五片ノ內第四片ヲ除ク外皆交換セス第四片ハ役員姓名番記號各其一ヲ存シ金額明瞭ナルヲ以テ半額ニ交換ス若シ第一第二ノ兩片相連ルモノハ卽チ頭取姓名番記號等相存スルヲ以テ是亦半額ニ交換ス

第六圖

其第一第二兩片ハ各役人姓名番記號各其一ヲ存スルヲ以テ共ニ半額ニ交換シ第三片ハ第一第二ノ兩片ヲ交換スル爲メニ交換セス

第七圖

其上片ハ金額行名番記號ノ存スルヲ以テ全額ニ交換シ下片ハ頭取支配人ノ姓名各半箇及ヒ印章ヲ存スルト雖モ番記號一モ存セサルヲ以テ交換セス

第八圖

其各片皆援據スヘキモノヲ損缺スルヲ以テ共ニ交換セス若シ各兩片相連ルモノハ全額ニ交換

ス

第九圖

第八圖ノ例ニ準ス

第十圖

其各片援據スヘキモノナキヲ以テ皆交換セス若シ第一第二ト相連リ第二第三ト相連ルモノハ共ニ全額ニ交換ス

第十一圖

其圖ノ如ク細裂スルモノニ於テ第一片第二片ト相連リ第四片第五片第六片ト相連ルモノハ番記號各其一及ヒ頭取又ハ支配人ノ姓名印ヲ存スルヲ以テ共ニ半額ニ交換ス

第十二圖

其第二片ハ裡面及ヒ左右ニ於テ行名ヲ確認セサルヲ以テ交換セス而シテ第一片ヲ將テ全額ニ交換ス若シ其第二片ノ裡面及ヒ左右ニ在ル行名ヲ確認スルモノアレハ第一片第二片共ニ半額ニ交換ス

（圖式ハ之ヲ略ス）

明治六年銀行紙幣下付以降同十五年ニ至ルマテ毎年大藏省ニ引上ケ交換ヲ了シタル損傷紙幣ノ高竝ニ其種類ハ左表ノ如シ

毎年損傷紙幣引上高竝種別表（自六年至十五年）

年次	金額	種類	金額
明治六年	圓	米國製造 壹圓札	二七、五三五、五〇〇圓
同七年	一、五四九	貳圓札	二〇、五〇八、〇〇〇
同八年	—	國製造 五圓札	一〇、九三二、五〇〇
同九年	一、一二四		
同十年	—	拾圓札	一三、一七五、〇〇〇
同十一年	—		
同十二年	一三、八九一	造 貳拾圓札	二四、二〇〇、〇〇〇
同十三年	一八、六〇一	內國製造 壹圓札	六、六九一、〇〇〇
同十四年	二六、三五三	五圓札	一〇、四二〇、〇〇〇
同十五年	五一、九四四		
合計	一一三、四六二	合計	一一三、四六二、〇〇〇

第四項　還納紙幣

國立銀行資本金減少ノ爲メ其發行紙幣ヲ政府ニ還納シタルハ明治八年十二月東京第一國立銀行ヲ以テ初メトス是ヨリ先キ明治七年中同銀行ハ株主小野組ノ破產ニ會シ其資本金貳百五拾萬圓ノ內ヨリ壹百萬圓ヲ減少シテ善後ノ處分ヲ行フコトヽナリ明治八年十一月其旨ヲ政府ニ申請シ

テ之カ允許ヲ得翌十二月ヲ以テ右減株百萬圓ニ對スル六割卽チ六拾萬圓ノ銀行紙幣ヲ政府ニ還納スルノ手續ヲ了シテ全ク其局ヲ結ヘリ

次ニ第五國立銀行ハ創立後兩三年間營業ノ經驗ニヨリテ其資本ノ多キニ過キ反テ利益ノ薄キヲ覺リ遂ニ請願シテ明治九年六月株金五拾萬圓中貳拾萬圓ヲ減少セリ而シテ舊條例ニ據ルトキハ此減株高貳拾萬圓ニ對スル六割卽チ拾貳萬圓ノ紙幣ヲ還納スヘキモノトス然レトモ當時恰モ條例ノ改正ニ際會シ更ニ其現在株金參拾萬圓ニ對スル二割卽チ六萬圓ノ銀行紙幣ヲ附加交付スヘキ筈ナリシニヨリ該金額ヲ差引キ殘餘六萬圓ヲ以テ同銀行減資ニ基ク還納紙幣ノ額ト定メラレシカ同銀行ハ明治九年十一月一時ニ之カ納付ノ手續ヲ了セリ

最後ニ銀行紙幣ノ還納ヲ爲セシハ大津第六十四國立銀行ニシテ同行ハ株主ノ便宜ニヨリ拾萬圓ヲ割キ彦根第百三十三國立銀行ヲ創立センコトヲ欲シ明治十二年一月政府ノ許可ヲ得タリ從テ右金額ニ對スル八割卽チ八萬圓ノ銀行紙幣ヲ還納スルコトヽナレリ然ルニ其紙幣ハ旣ニ廣ク世上ニ散布セルニヨリ到底一時ニ之カ引揚ヲ爲スコト能ハス卽チ時々回收ノ高ニ從ヒ十二年六月以降左ノ如ク其還納ヲ結了シタリ

年月	還納高	年月	還納高
明治十二年六月	一二、一〇九圓	明治十二年九月	一圓
同七月	六五七	同十月	七三
同八月	一三、〇六五	同十一月	二三二

今國立銀行減資ノ爲メ還納シタル紙幣ノ總額ヲ揭クレハ左ノ如シ

減株還納紙幣高一覽表

年次		金額
明治八年		六〇〇、〇〇〇圓
明治十二年十二月		三三〇
同十三年一月		一四七
同二月		一一
同三月		四、〇〇六
同四月		五、四八七
同五月		四、三五〇
同六月		四、七一五
同七月		一、五六四
同八月		一一九
同九月		二六一
同十月		九三七
同十一月		一、八八七
同十二月		五四五
明治十四年一月		一、四五九
同二月		四、六二六
同三月		一、五九〇
同四月		五、〇五四
同五月		三、七七七
同六月		一
同七月		一、八四四
同八月		三六〇
同九月		九、〇五五
同十月		五三〇
同十一月		一
同十二月		一、二一〇
合計		八〇、〇〇〇

明治九年						六〇、〇〇〇
同十年						
同十一年						二六、四六六
同十二年						二四、〇二九
同十三年						二九、五〇五
同十四年						七四〇、〇〇〇
合計						

第三款　第三期

國立銀行紙幣ハ明治十六年五月國立銀行條例ニ第百十二條ヲ追加シテ漸次銷却ノ事ヲ定メ國立銀行營業年限内ニ悉皆其銷却ヲ了スルノ制トナセリ爾來此方法ヲ實行シ遂ニ明治三十二年二月國立銀行ノ全部其蹟ヲ斂ムルニ至リテ各々其發行紙幣ニ對シテ負フ所ノ義務ヲ消盡セリ而シテ實際銀行紙幣ノ回收廢業ノ事務ハ合同銷却ノ方法ニ依リテ日本銀行ニ於テ之ヲ管掌シ逐年其流通高ヲ減殺セリト雖モ現ニ世上ニ散布スル銀行紙幣ハ一朝ニシテ能ク集收スルコト能ハス從テ國立銀行ノ消滅ト其運命ヲ共ニスヘカラサルヲ以テ政府ハ是ヨリ先キ銀行紙幣交換ニ關スル特別會計法ヲ設ケ各國立銀行ノ營業終了ニ際シ其發行紙幣ノ銷却殘高ニ相當スル金額ヲ一時ニ納付セシメテ交換基金トナシ之カ引換ノ義務ヲ繼承シ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヽナ

セリ爲ニ明治二十九年三月法律第八號ヲ以テ國立銀行紙幣ノ通用期限ヲ明治三十二年十二月九日ト定メ其引換期限ヲ右通用期限ノ翌日ヨリ起算シテ滿五箇年間トナシ爾來絕エス之カ交換廢棄ニ從事セリ爾來其流通高ハ漸次減却シ其通用期限ニ至リテハ交換未濟高僅ニ百萬圓以内ニ下リ明治三十五年末ニ於テハ四拾參萬餘圓ヲ餘スノミ

今國立銀行紙幣ニ關スル計數ヲ一括シテ表示スレハ左ノ如シ

國立銀行紙幣一覽表

年次	下付高	減資ニ付還納高	第十五銀行特發紙幣還納高	官命鎖店銀行紙幣交換高	損傷紙幣引上高	改竄手入札引上高	合同銷却高	年末流通高
明治六年	一、三六二、二一〇 圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	一、三六二、二一〇 圓
同七年	六三二、七九〇							一、九九五、〇〇〇
同八年	二五、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇						一、四二〇、〇〇〇
同九年	三八四、〇〇〇	六〇、〇〇〇						一、七四四、〇〇〇
同十年	一一、六〇八、七五一							一三、三五二、七五一
同十一年	一二、九二六、二五五							二六、二七九、〇〇三
同十二年	七、七九三、四七四	二六、四九六						三四、〇四六、〇〇六
同十三年	四〇四、四〇〇	二四、〇二九						三四、四二六、三五一
同十四年		二九、五〇五						三四、三九六、八一八
同十五年								三四、三八五、三四九

明治十六年													
同十七年													
同十八年													
同十九年													
同二十年													
同二十一年													
同二十二年													
同二十三年													
同二十四年													
同二十五年													
同二十六年													
同二十七年													
同二十八年													
同二十九年													
同三十年													
同三十一年													
同三十二年													
同三十三年													

八年一月政府ハ第八回帝國議會ニ再ヒ之ヲ提出セシカ當時國立銀行延期ノ議囂シク遂ニ該法案ハ繼續處分法案ト其運命ヲ共ニシ同月二十八日衆議院ニ於テ否決セラレタリ越エテ明治二十九年第九回帝國議會ノ開期ニ際シ政府ハ更ニ一月八日ヲ以テ三度該法案ヲ提出シ終ニ國立銀行處分法案ト同時ニ兩院ノ協贊ヲ經同年三月七日法律第八號ヲ以テ左ノ如ク公布セラレ國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日同引換ハ右期日後滿五箇年以內トナレリ

法律第八號

國立銀行紙幣ノ通用及ヒ引換期限ニ關スル法律

第一條　國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日トス

第二條　國立銀行紙幣ヲ所持スル者ハ前條期日ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ其引換方ヲ政府ニ請求スヘシ

前項ノ引換期日ヲ過クルトキハ總テ所持人ノ損失トス

第三條　本法ハ官命又ハ平穩鎖店ニ係ル國立銀行ノ紙幣ニハ之ヲ適用セス

右法律ノ制定ニ關スル大藏省官房第三課長稟議書閣議案並ニ帝國議會提出理由書ハ左ノ如シ

閣議案

明治二十八年大藏省官房第三課長稟議

明治十六年五月國立銀行條例ヲ改正シ銀行紙幣合同銷却ノ方法ヲ設ケタル以上ハ全國ノ國立銀行ハ其發行紙幣ニ關シテハ恰カモ一體トナリタルカ如クナレハ各國立銀行ノ紙幣ハ最後ニ設立セシ國立銀行ノ滿期トナルマテ通用セシムヘキモノト爲サヽルヲ得ス然ルニ國立銀行條例ニハ之ニ關スル規定ナク又其引換期限ニ就テモ時效ヲ定メタルモノナキカ故ニ玆ニ銀行紙

幣ノ時效ニ關スル法律ヲ設ケテ以上ノ兩點ヲ明瞭ナラシムルハ最モ必要ト被存候間國立銀行紙幣ノ通用及ヒ引換期ニ關スル法律案閣議御提出相成可然ヤ此段相伺候也

追テ通用期限ハ明治三十二年末ニ有之候モ本法ノ規定ナキトキハ明年滿期ト相成候第一國立銀行以下ノ發行紙幣ノ處理上差支ヲ生シ候間可成速ニ本案ノ成立ヲ要シ候儀ニ有之候

閣議案

國立銀行條例ハ銀行紙幣ノ通用期限竝ニ引換期限ニ關シテ規定スル所ナキヲ以テ解釋上ハ銀行營業ノ滿期ト共ニ其流通ハ停止シ引換ニ至リテハ其期限ナシト謂テ可ナルモノヽ如シ然ルニ明治十六年五月國立銀行條例ヲ改正シ銀行紙幣合同銷却ノ方法ヲ設ケタル以上、一ノ國立銀行ニシテ營業滿期トナルト同時ニ其發行紙幣ハ流通ヲ停止セラルヽモノトセハ條例改正ノ目的ヲ達シ難カルヘク又銀行紙幣ノ引換ニ期限ナキトキハ幣制上ノ整理得テ期ス可カラサルヘシ故ニ今日ニ於テ國立銀行紙幣ノ通用期限ヲ定メ且ツ之ニ引換ノ時效ヲ設クルヲ必要ナリトス仍テ玆ニ國立銀行紙幣ノ通用及ヒ引換期限ニ關スル法律案ヲ閣議ニ提出ス

法律案理由書

明治九年第百六號布告國立銀行條例ニ於テハ國立銀行發行紙幣ノ期滿免除ニ關スル規定ナキヲ以テ他日法律上ノ困難ヲ惹起サンモ未タ知ル可カラス仍テ今日ニ於テ之カ時效ヲ定ムルハ極メテ必要ノ事ニ屬ス而シテ國立銀行ノ營業期限ハ各遲速ノ差アルヲ免レスト雖モ明治十六年五月國立銀行條例ヲ改正シ銀行紙幣合同銷却ノ規定ヲ設ケタル以來紙幣銷却ハ恰モ各國立銀行ヲ合併シテ一トナシタルニ異ナラサルカ故ニ明治三十二年十二月九日即チ最後ニ設立シ

タル國立銀行ノ滿期日ヲ以テ各國立銀行紙幣通用期限ト爲サヽルヲ得ス又其引換期限ヲ滿五箇年以內ト定メタルハ明治二十三年法律第十三號ヲ以テ政府發行ニ係ル貨幣紙幣ニシテ其通用ヲ廢止シタルモノヽ引換期限ヲ滿五箇年以內トセルニ準據シタルモノニシテ鎖店銀行紙幣ヲ本法以外ニ置キタル所以ハ國立銀行條例中既ニ之カ引換期限ニ關シ規定セルモノアレハナリ

國立銀行紙幣ノ通用期限ハ前記ノ如ク明治三十二年十二月九日ナリト雖モ其引換期限ハ該期日後五箇年ナルヲ以テ政府ハ其銷却上ノ便ヲ圖リテ通用期限經過後ト雖モ之ヲ國庫納金ニ受領スヘキ旨明治三十二年十二月二十五日金庫出納役ニ令達セリ

通用廢止後ノ國立銀行紙幣ヲ交換期限中國庫ヘノ納金トシテ差出シタルモノアルトキハ便宜之ヲ受領シ直チニ日本銀行ニ就キ通貨ト交換シテ收入ノ手續ヲナスヘシ

明治三十二年十二月二十五日

金庫出納役

大藏大臣

今明治十六年以降國立銀行紙幣ノ流通高ヲ按スルニ同年五月條例改正ノ趣旨ニ基キ合同銷却ノ方法ニ依リ十七年以來年々其高ヲ減殺シタルノミナラス同年ニ於テハ東京第十五國立銀行特發紙幣貳百四拾萬圓ノ還納アリ其他鎖店銀行紙幣ノ交換竝ニ猶改引上等歲ト共ニ進ミ遂ニ明治三十二年十二月九日流通最終ノ期ニ及ンテハ初頭發行紙幣總下付高參千四百參拾七萬九千九百四拾貳圓ヨリ下リテ僅ニ百萬圓以內ノ流通高アルニ至レリ尙ホ左ニ每月末日流通高及ヒ通用期限後ニ於ケル引換未濟高ヲ表示シテ其詳細ヲ知ルノ便ニ供セン

銀行紙幣每月末日流通高表

年	月	流通高	年	月	流通高
明治十六年	一月	三四、三七九、七四二、〇〇〇 円	同	三月	三四、〇六八、六五九、五〇〇 円
同	二月	三四、三七二、二三八、〇〇〇	同	四月	三三、九〇二、七三四、五〇〇
同	三月	三四、三五七、二四〇、〇〇〇	同	五月	三一、四八八、五九七、五〇〇
同	四月	三四、三四六、八四五、〇〇〇	同	六月	三一、四一二、三八〇、五〇〇
同	五月	三四、三三八、八六二、〇〇〇	同	七月	三一、三三七、九七八、五〇〇
同	六月	三四、三二七、六九〇、〇〇〇	同	八月	三一、二六三、九四二、五〇〇
同	七月	三四、三二〇、九三六、〇〇〇	同	九月	三一、一八七、八八九、〇〇〇
同	八月	三四、三一〇、八四〇、〇〇〇	同	十月	三一、一一四、二一一、〇〇〇
同	九月	三四、三〇二、九六三、〇〇〇	同	十一月	三一、一一〇、六〇二、〇〇〇
同	十月	三四、二九四、一八二、五〇〇	同	十二月	三一、〇一五、九四二、〇〇〇
同	十一月	三四、二八六、一二二、〇〇〇	明治十八年	一月	三〇、九七六、九八五、〇〇〇
同	十二月	三四、二七五、七三五、五〇〇	同	二月	三〇、九〇五、二二八、〇〇〇
明治十七年	一月	三四、二七一、七七五、五〇〇	同	三月	三〇、八三四、四二六、〇〇〇
同	二月	三四、二二九、六〇九、五〇〇	同	四月	三〇、七六〇、二五八、〇〇〇

| | | |

	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十四年五
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九
明治二十五年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
二三、八九五、一九二・五〇〇	二四、〇一六、九一四・五〇〇	二四、一四一、七一三・五〇〇	二四、二八二、四五七・五〇〇	二四、三六六、七五四・五〇〇	二四、三七〇、二五四・五〇〇	二四、四四九、四五八・五〇〇	二四、六一九、五九四・五〇〇	二四、七四四、二〇四・五〇〇	二四、八六九、五〇八・五〇〇	二四、八六九、五〇八・五〇〇	二四、八六九、五〇八・五〇〇	二四、八六九、五〇八・五〇〇
二三、八九五、一九二・五〇〇	二四、〇一六、九一四・五〇〇	二四、一四一、七一三・五〇〇	二四、二八二、四五七・五〇〇	二四、三六六、七五四・五〇〇	二四、三七〇、二五四・五〇〇	二四、四四九、四五八・五〇〇	二四、六一九、五九四・五〇〇	二四、七四四、二〇四・五〇〇	二四、八六九、五〇八・五〇〇	二四、八六九、五〇八・五〇〇	二四、八六九、五〇八・五〇〇	二四、八六九、五〇八・五〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十五年十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十六年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十七年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十六年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十八年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十七年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十九年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十八年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十九年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十八年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十九年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十一年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十二年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十一年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十三年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十二年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十四年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十三年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十五年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十四年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十六年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十五年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十七年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十六年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十八年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十七年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治二十九年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十八年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治三十年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治二十九年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治三十一年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三十年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治三十二年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三十一年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治三十三年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三十二年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治三十四年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三十三年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治三十五年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三十四年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治三十六年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三十五年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	六	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	八	九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	九	十
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十	十一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一	十二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二	明治三十七年一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明治三十六年一	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	二	三
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三	四
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	四	五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	五	六
同	同	同	同	同	同	同

明治三十年五月	八、六五四、二七一、〇〇〇	同	一、九五五、六二二、〇〇〇
同　六月	七、六八七、〇七二、〇〇〇	同	一、八六六、五六三、〇〇〇
同　七月	七、〇五二、七七二、〇〇〇	明治三十二年一月	一、七四九、五三三、〇〇〇
同　八月	六、六一二、三六二、〇〇〇	同　二月	一、六八四、〇六四、五〇〇
同　九月	六、一四二、九九二、〇〇〇	同　三月	一、六三二、八一七、五〇〇
同　十月	五、六二七、六五九、〇〇〇	同　四月	一、四四八、五三九、五〇〇
同　十一月	五、三四三、九五二、〇〇〇	同　五月	一、四四八、五三九、五〇〇
同　十二月	五、〇二四、七二九、〇〇〇	同　六月	一、三四六、七三四、〇〇〇
明治三十一年一月	四、七七三、五二〇、〇〇〇	同　七月	一、二五六、〇五二、〇〇〇
同　二月	四、六三四、九一三、〇〇〇	同　八月	一、一六七、一三一、〇〇〇
同　三月	四、〇九九、三七〇、〇〇〇	同　九月	一、一二一、二六五、五〇〇
同　四月	三、六〇三、六〇六、〇〇〇	同　十月	一、〇八六、四二八、〇〇〇
同　五月	三、一七三、七一三、〇〇〇	同　十一月	一、〇一八、七〇四、五〇〇
同　六月	二、九二六、五九四、〇〇〇	同　十二月	九七四、九九九、〇〇〇
同　七月	二、七二二、七一二、五〇〇	明治三十三年一月	八五四、七八八、五〇〇
同　八月	二、四九七、七二九、五〇〇	同　二月	六六一、二三四、〇〇〇
同　九月	二、三九一、七九六、五〇〇	同　三月	五九四、四七六、〇〇〇
同　十月	二、一三六、四九〇、五〇〇	同　四月	五九四、四七六、〇〇〇

明治三十三年五月	五三五、五六五、五〇〇	同　九月	四五四、九八五、〇〇〇
同　六月	五二一、一二八、〇〇〇	同　十月	四五三、五二八、〇〇〇
同　七月	五一一、四三三、五〇〇	同　十一月	四五一、四五九、〇〇〇
同　八月	五〇五、八三二、五〇〇	同　十二月	四四九、三二〇、〇〇〇
同　九月	四九八、八三五、五〇〇	明治三十五年一月	四四七、三八七、五〇〇
同　十月	四九三、四〇七、〇〇〇	同　二月	四四五、八五五、五〇〇
同　十一月	四八七、一〇三、〇〇〇	同　三月	四四四、六八七、五〇〇
同　十二月	四八三、九三三、〇〇〇	同　四月	四四四、六八七、五〇〇
明治三十四年一月	四七九、七〇三、〇〇〇	同　五月	四三八、六九九、五〇〇
同　二月	四七二、〇一二、〇〇〇	同　六月	四三七、三四四、〇〇〇
同　三月	四七〇、二三一、〇〇〇	同　七月	四三七、三四四、〇〇〇
同　四月	四六七、三三六、〇〇〇	同　八月	四三六、五七二、五〇〇
同　五月	四六四、七二七、〇〇〇	同　九月	四三五、二七三、五〇〇
同　六月	四六三、〇〇八、〇〇〇	同　十月	四三三、六五二、〇〇〇
同　七月	四六一、〇二九、〇〇〇	同　十一月	四三二、五二五、〇〇〇
同　八月	四五九、三九六、〇〇〇	同　十二月	四三一、五七六、〇〇〇

備考

國立銀行紙幣ハ明治三十二年十二月九日限リ通用禁止トナリタルニヨリ爾後

ノ現存高ハ交換未濟高ナリトス

第二項　合同銷却銀行紙幣

政府ハ明治十六年國立銀行處分ノ大本ヲ定メ營業滿期ノ後ハ私立銀行ニ繼續スルコトヲ許シ其發行セル銀行紙幣ハ追加條例第百十二條ニ據リ法定ノ紙幣準備金及ヒ毎年利益金ノ內ヨリ紙幣下付高ニ對シ年二分五厘(卽チ半季一歩二厘五毛)ノ積立金ヲナシタルモノヲ合シ日本銀行ニ預託シテ銷却基金トナシ日本銀行ハ此元資金ヲ以テ公債證書ヲ買收シ之ヨリ生スル利子ヲ以テ銷却ノ用ニ供スルコトヽナレリ

是ニ於テ大藏卿ハ右條例ノ趣旨ニ基キ國立銀行紙幣銷却ニ關スル諸般ノ手續ヲ定メ明治十六年五月各國立銀行竝ニ日本銀行ヘ向ケ左ノ如ク各命令書ヲ下付セリ

（各一通）

今般太政官布告第十四號ヲ以テ國立銀行條例改正加除相成候ニ付同條例第百十二條ニ據リ別冊ノ通リ命令ニ及ヒ候此旨相達候事

明治十六年五月十日

大藏卿　松方正義

命令書

國立銀行

第一條

其銀行發行紙幣ノ儀ハ國立銀行條例追加第百十二條ニ依リ其銀行ノ營業年限內ニ悉皆銷却スルモノトス

第二條

其銀行ハ前第一條ニ記載スル紙幣銷却ノ爲メ發行紙幣引換準備金ノ半額ヲ本年六月三十日マテニ其殘半額ヲ同十月三十一日迄ニ遲延ナク日本銀行ニ納付シ營業年限內之ヲ定期預ケト爲スヘシ但此準備金ハ日本銀行ニ於テ之ヲ以テ利付公債證書ヲ買入レ之ヲ該銀行ニ保管シ置キ年々其利子ヲ以テ其銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ遞減銷却セシムルモノトス

第三條

其銀行ハ前第一條ニ記載スル紙幣銷却ノ爲メ前第二條準備金ノ外更ニ每半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘卽チ(半季一分二厘五毛)ニ當ル金額ヲ引去リ其銀行營業年限內每年二月一日八月一日迄ニ之ヲ日本銀行ニ預ケ入ルヘシ此預ケ金ハ日本銀行ニ於テ之ヲ以テ利付公債證書ヲ買入レ其銀行營業年限內之ヲ該銀行ニ保管シ置キ年年其利子ヲ以テ其銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ遞減銷却セシムルモノトス

第四條

前第二條第三條ノ公債利子ヲ以テ其銀行ノ發行紙幣ヲ銷却シ營業年限ニ至リ尙ホ殘存スルモノハ前第三條ニ揭ル公債證書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ悉皆之ヲ銷却シ若シ餘剩ヲ生スルトキハ之ヲ日本銀行ヨリ其銀行ニ還付セシムヘシ

第五條

前第二條ニ依リ其銀行ヨリ日本銀行ニ納付スル所ノ準備金ハ其銀行ノ發行紙幣ノ銷却ヲ完了シタル上日本銀行ヨリ之ヲ其銀行ニ還付セシムルモノトス但營業年限內ニ於テ公債證書價格

ノ騰貴ニ依リ前第三條ニ記載スル公債證書(即チ發行紙幣ニ對スル二分五厘ノ金額ヲ以テ買入レタル分)及ヒ其利子ニ減少ヲ生シ之カ爲メ紙幣銷却ノ元資ニ不足ヲ來スコトアルトキハ最初準備金ヲ以テ買入レタル公債證書ヲ賣拂ヒ其代金ノ內ヨリ之ヲ補充スルモノトス

第六條

第二條第三條ニ記載スル公債證書ノ內若シ公債支消ノ抽籤ニ當ルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ其當籤金額ヲ受取リ之ヲ以テ右當籤ノ公債額面ニ相當スル他ノ公債證書ヲ買入レ以テ其當籤ノ員額ヲ補充スヘシ而シテ尙ホ餘剩アルトキハ更ニ之ヲ以テ公債證書ヲ買入レ亦以テ紙幣銷却ノ元資ニ加フルモノトス

第七條

前第六條ノ當籤金額ヲ以テ公債證書ヲ買入レ尙ホ端數ヲ生シ公債證書ヲ買入ルヘキ員額ニ充タサルモノアルトキハ之ヲ次季ニ繰越シ其第二條ノ公債證書ニ係ルモノハ第三條ノ公債證書次回ノ當籤金額ニ併セ之ヲ以テ更ニ紙幣銷却ノ元資トシテ公債證書買入ニ充ルモノトス

第八條

其銀行ノ發行紙幣ハ第二條第三條ノ銷却法ニ依リ逐年其流通高ヲ減少スヘシト雖モ其銀行ヨリ第三條ニ依リ其紙幣下付高ニ對シ日本銀行ニ預ケ入ルヘキ金額(紙幣下付高ニ對スル年二分五厘)ハ營業年限內紙幣流通高ノ減少ニ拘ハラス年々同額ヲ以テ納付シ更ニ增減ナキモノトス

第九條

其銀行若シ第三條ニ記載スル期限內ニ預ケ金ノ納付ヲ怠ルトキハ日本銀行ハ其趣ヲ大藏卿ニ稟申シ大藏卿ヨリ之ヲ督促スルモノトス爾後尙之カ納付ヲ爲サヽルトキハ大藏省ニ於テ其銀行ノ紙幣抵當公債證書ノ利子ノ內ヨリ當季納付高ニ相當スル金額及ヒ當季買入ルヘキ公債證書ノ利子一季分ニ相當スル金額ヲ引去リ大藏省ヨリ直ニ之ヲ日本銀行ニ下付シ其當季納付高ニ相當スル金額ハ其銀行ノ紙幣銷却ノ爲メ公債證書ヲ買入レシメ當季買入ルヘキ公債證書ノ利子一季分ニ相當スル金額ハ直チニ之ヲ以テ其季ノ銷却元資ニ充ツルモノトス

第十條

前第二條第三條及ヒ第六條ニ記載スル公債證書ノ利子ハ每季日本銀行ニ於テ直ニ東京府廳ヨリ受取リ之ヲ以テ其銀行ノ發行紙幣ヲ遞減銷却シ每月五日マテニ前月分ノ銷却高ヲ取纏メ之ニ其紙幣ノ種類,記號,番號,員額等ヲ記載シタル明細表ヲ添付シテ之ヲ大藏省ニ上納シ且ツ此明細表ノ寫ヲ以テ右期限マテニ其銀行ニ通知スルモノトス而シテ右通知ヲ得タルトキハ其銀行ヨリ直ニ之ヲ大藏卿ニ屆出ツヘシ

第十一條

日本銀行ヨリ右銷却紙幣ヲ上納シタルトキハ每年七月十二月大藏省ニ於テ國立銀行條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ

第十二條

日本銀行ヨリ前第十條ニ從ヒ銷却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ大藏卿ハ其銀行ヨリ豫テ出納局ニ差出シ置タル紙幣抵當公債證書ノ內右銷却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其

銀行ヘ還付スルモノトス

第十三條

此命令書ニ從ヒ其銀行ヨリ日本銀行ニ納付スル所ノ金額ハ全ク其銀行ノ發行紙幣ヲ銷却スル元資ニシテ日本銀行ニ於テ之ヲ融通運轉ス可カラサルハ勿論其銀行モ亦其營業年限内ニ於テ不時銷却ノ場合ヲ除クノ外何等ノ事情アルモ之ヲ引出スヲ得サルモノトス

第十四條

此命令書ニ據リ其銀行ヨリ日本銀行ニ納付スル所ノ金額ハ公債證書トナシ其利子ヲ以テ其銀行ノ紙幣銷却ノ元資ニ當ツルモノナルカ故ニ日本銀行ハ別段之ニ利子ヲ付セサルモノトス

第十五條

日本銀行ハ其銀行ノ爲メ此命令書ニ據リ預リ金取扱方竝ニ發行紙幣ノ銷却方ヲ負擔スルモ別段之カ手數料ヲ收メサルモノトス

第十六條

日本銀行ハ此命令書ニ記載スル預リ金取扱竝ニ紙幣銷却事務ノ爲メ日本銀行内特ニ一部ヲ設ケテ之ヲ處辨セシムルモノトス

第十七條

日本銀行ニ於テ其銀行ノ發行紙幣銷却ノ事務ヲ負擔スルニ就テハ各國立銀行ノ分ト其勘定ヲ異ニシ敢テ混淆スヘカラサルハ勿論ナリト雖モ第二條第三條第六條ニ依リ公債證書ヲ買入レ又ハ其抽籤賣拂等ノコトニ於テハ各國立銀行トモ合同シテ之ヲ取扱ヒ別段之カ區別ヲ立テサ

ルモノトス

第十八條

其銀行ノ發行紙幣銷却事務ノ顚末及ヒ其計算等ハ日本銀行ニ於テ每半季之カ報告表ヲ製シ上半季ノ分ハ八月十五日マテニ下半季ノ分ハ二月十五日マテニ之ヲ其銀行ニ送付セシムルモノトス

第十九條

其銀行若シ日本銀行ニ就テ其銀行ノ發行紙幣銷却ニ關スル帳簿書類ヲ查閱センコトヲ望ムトキハ豫メ其旨ヲ大藏卿ニ稟請シテ許可ヲ受クヘシ大藏卿ハ其稟請ニヨリ日本銀行ニ命シテ特ニ其銀行ノ勘定ニ關スル部分ニ限リ之カ查閱ヲ受ケシムルモノトス

第二十條

其銀行ハ紙幣銷却ノ事務ヲ日本銀行ニ委託スルニ付此命令書ノ旨趣ニ基キ日本銀行ト特別ノ約定ヲ結ヒ其取扱手續ヲ定ムヘシ但此約定書ハ本書二通及ヒ副書一通(大藏省ニ留置ク分)ヲ製シ大藏卿ニ呈シテ之カ奥書證印ヲ受ケタル上其本書一通ハ日本銀行ニ留置キ一通ハ其銀行ニ留メ置クモノトス

第二十一條

前第二十條ニ記載セル約定書中此命令書ノ旨趣ニ牴觸セサル箇條ニシテ其細目ニ渉ルモノハ其銀行ト日本銀行トノ協議ヲ以テ適宜規定スルヲ得ヘシト雖モ其都度之ヲ大藏卿ニ稟申シテ許可ヲ受クヘキモノトス

第二十二條

大藏卿ニ於テ必要ナリト思考スルトキハ何時ニテモ此命令書ノ箇條ヲ改正又ハ增削スルコトヲ得

日本銀行

第一條

其銀行ハ國立銀行條例追加第百十二條ニ依リ各國立銀行ノ發行紙幣銷却方ヲ引受ケ各々其營業年限內ニ悉皆之ヲ處分スルノ義務ヲ負フモノトス

第二條

其銀行ハ前第一條ニ記載スル紙幣銷却ノ爲メ各國立銀行ヨリ納付スル處ノ發行紙幣引換準備金ヲ定期預リトナシ之ヲ以テ利付公債證書ヲ買入レ之ヲ其銀行ニ保管シ置キ年々其利子ヲ以テ各國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ遞減銷却スヘシ

第三條

其銀行ハ前第一條ニ記載スル紙幣銷却ノ爲メ前第二條準備金ノ外各國立銀行ヨリ每半季二月一日八月一日迄ニ其紙幣下付高ニ對シ年二分五厘(半季壹分貳厘五毛)ニ當ル金額ヲ其銀行ニ納付シタルトキハ之ヲ定期預リトナシ之ヲ以テ利付公債證書ヲ買入レ各々其營業年限內之ヲ其銀行ニ保管シ置キ年々其利子ヲ以テ各國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ遞減銷却スヘシ

第四條

其銀行ハ前第二條第三條ニ揭クル公債利子ヲ以テ各國立銀行ノ發行紙幣ヲ銷却シ其營業年限ニ至リ尙殘存スルモノハ第三條ニ揭クル公債證書ヲ賣却シ其代金ヲ以テ悉皆之ヲ銷却シ若シ過剩ヲ生スルトキハ之ヲ各國立銀行ニ還付スヘシ

第五條

前第二條ニ據リ各國立銀行ヨリ其銀行ニ納付スル所ノ準備金ハ各國立銀行ノ發行紙幣ノ銷却ヲ完了シタル上其銀行ヨリ之ヲ各國立銀行ニ還付スルモノトス但其營業年限內ニ於テ公債證書價格ノ騰貴ニヨリ前第三條ニ記載スル公債證書(卽チ發行紙幣ニ對スル二分五厘ノ金額ヲ以テ買入レタル分)及ヒ其利子ニ滅少ヲ生シ之カ爲メ紙幣銷却ノ元資ニ不足ヲ來スコトアルトキハ最初準備金ヲ以テ買入レタル公債證書ヲ賣拂ヒ其代金ノ內ヨリ之ヲ補充スヘシ

第六條

其銀行ハ各國立銀行ヨリ紙幣引換準備金ノ預託ヲ受クルニ付該紙幣引換ノ義ハ國立銀行條例改正第四十九條ニ據リ其銀行ニ於テ之ヲ負擔シ若シ通貨ト交換ヲ請求スルモノアルトキハ其銀行本店ニ於テ之ヲ引換フヘシ但大藏卿ニ於テ要用ナリト思考スルトキハ其銀行ニ命シテ其銀行支店又ハ「コルレンスポンデンス」店ニ於テ之カ引換ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七條

第二條第三條ニ記載スル公債證書ノ內若シ公債支消ノ抽籤ニ當ルモノアルトキハ其銀行ニ於テ其當籤金額ヲ受取リ之ヲ以テ右當籤ノ公債額面ニ相當スル他ノ公債證書ヲ買入レ以テ其當籤ノ員額ヲ補充スヘシ而シテ尙ホ餘剩アルトキハ更ニ之ヲ以テ公債證書ヲ買入レ亦以テ紙幣

銷却ノ元資ニ加フヘシ

第八條

前第七條ノ當籤金額ヲ以テ公債證書ヲ買入レ尚ホ端數ヲ生シ公債證書ヲ買入ルヘキ員額ニ充タサル者アルトキハ之ヲ次季ニ繰越シ其第二條ノ公債證書ニ係ルモノハ第二條ノ公債證書ニ係ルモノハ第三條ノ公債證書ニ係ルモノハ第三條ノ公債證書次回ノ當籤金額ニ併セ第三條ノ公債證書次回ノ當籤金額ニ併セ之ヲ以テ更ニ紙幣銷却ノ元資トシテ公債證書買入ニ充ルモノトス

第九條

各國立銀行ノ發行紙幣ハ第二條第三條ノ銷却法ニ依リ逐年其流通高ヲ減少スヘシト雖モ第三條ニ從ヒ各國立銀行ヨリ其紙幣下付高ニ對シ其銀行ニ預ケ入ルヘキ金額(紙幣下付高ニ對シ年二分五厘)ハ其營業年限內紙幣流通高ノ減少ニ拘ラス年々同額ヲ以テ納付シ更ニ增減ナキモノトス

第十條

國立銀行ノ內若シ第三條ニ記載スル期限內ニ預ケ金ノ納付ヲ怠リタル者アルトキハ其銀行ハ其趣ヲ大藏卿ニ稟申スヘシ大藏卿ハ此稟申ニ依リ右預ケ金ヲ怠リタル銀行ヲ督促シ尚ホ之カ納付ヲ爲サヽルトキハ大藏省ニ於テ右銀行(預ケ金ヲ怠リタル銀行)ノ紙幣抵當公債證書ノ利子ノ內ヨリ當季納付ヲ爲サヽルトキハ大藏省ニ於テ右銀行(預ケ金ヲ怠リタル銀行)ノ紙幣抵當公債證書ノ利子ノ內ヨリ當季納付高ニ相當スル金額及ヒ當季買入ルヘキ公債證書ノ利子一季分ニ相當スル金額ヲ引去リ大藏省ヨリ直チニ之ヲ其銀行ニ下付シ其當季納付高ニ相當スル金額ハ右銀行ノ紙幣銷却ノ爲メ公債證書ヲ買入レシメ當季買入ルヘキ公債證書ノ利子一季分ニ相當スル金額ハ直チニ之ヲ以テ其季ノ銷却元資ニ充ツルモノトス

第十一條

第二條第三條及ヒ第七條ニ記載スル公債證書ノ利子ハ每季日本銀行ニ於テ直チニ東京府廳ヨリ受取リ之ヲ以テ各國立銀行ノ發行紙幣ヲ引換ヘ之ニ消印ヲ爲シ而シテ每月五日マテニ前月分ノ銷却高ヲ取纏メ之ニ其紙幣ノ種類記號番號員額等ヲ記載シタル明細表ヲ添付シテ之ヲ大藏省ニ上納シ且ツ此明細表ノ寫ヲ以テ右期限迄ニ各國立銀行ニ通知スヘシ而シテ各國立銀行ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ大藏省ニ屆出テシムルモノトス

第十二條

此命令書ニ據リ其銀行ニ於テ各國立銀行ヨリ受領スル所ノ金額ハ全ク各國立銀行ノ發行紙幣ヲ銷却スルノ元資ニシテ其營業年限內ニ於テ不時鎖店ノ場合ヲ除ク外何等ノ事情アルモ之ヲ引出ス可カラサルハ勿論其銀行ニ於テモ亦誠實ニ之ヲ保管シ決シテ之ヲ融通運轉スルヲ得サルモノトス

第十三條

此命令書ニ據リ其銀行ニ於テ各國立銀行ヨリ受領スル處ノ金額ハ公債證書ト爲シ其利子ヲ以テ各國立銀行ノ紙幣銷却ノ元資ニ充ツルモノナルカ故ニ其銀行ハ別段之ニ利子ヲ付セサルモノトス

第十四條

其銀行ニ於テ各國立銀行ノ爲メ此命令書ニ據リ預リ金取扱竝ニ發行紙幣ノ銷却方ヲ負擔スルハ其銀行ヨリ各國立銀行ニ對スルノ義務ニシテ別段之カ手數料ヲ收メサルモノトス

第十五條

其銀行ハ此命令書ニ記載スル預リ金取扱竝ニ紙幣銷却事務ノ爲メ其銀行內特ニ一部ヲ設ケテ之ヲ處辨セシムヘシ

第十六條

其銀行ニ於テ各國立銀行ノ發行紙幣銷却ノ事務ヲ處辨スルニ就テハ各自ニ其勘定ヲ異ニシ敢テ混淆ス可カラサルハ勿論ナリト雖モ第二條第三條及ヒ第七條ニ據リ公債證書ヲ買入レ又ハ其抽籤賣拂等ノ事ニ於テハ各國立銀行トモ合同シテ之ヲ取扱ヒ別段之カ區分ヲ立テサルモノトス

第十七條

其銀行ハ各國立銀行ノ發行紙幣銷却ニ關スル事務ノ顚末及ヒ其計算等ヲ報告スル爲メ一銀行每ニ半季報告表ヲ作リ上半季ノ分ハ八月十五日迄ニ下半季ノ分ハ二月十五日迄ニ之ヲ大藏卿ニ差出シ其寫ヲ以テ各〻其國立銀行ニ送付スヘシ

第十八條

國立銀行ノ內若シ其銀行ニ就テ同銀行ノ發行紙幣銷却ニ關スル帳簿書類ヲ查閱センコトヲ大藏卿ニ稟申スルモノアリテ大藏卿之ヲ許可スルニ於テハ直ニ其銀行ニ命シテ特ニ右稟請セシ銀行ノ勘定ニ關スル部分ニ限リ之カ查閱ヲ受ケシムルモノトス

第十九條

其銀行ハ各國立銀行ノ發行紙幣銷却ノ事務ヲ負擔スルニ付此命令書ノ旨趣ニ基キ各國立銀行ト特別ノ約定ヲ結ヒ其取扱手續キヲ定ムヘシ但此約定書ハ本書二通及ヒ副書一通（大藏省ニ留置ク分）ヲ製シ大藏卿ニ呈シテ之カ奥書證印ヲ受ケタル上其本書一通ハ國立銀行ニ留置一通ハ其銀行ニ留置クモノトス

第二十條

前第十九條ニ記載スル約定書中此命令書ノ旨趣ニ牴觸セサル箇條ニシテ其細目ニ涉ルモノハ其銀行ト國立銀行トノ協議ヲ以テ適宜規定スルヲ得ヘシト雖モ其都度之ヲ大藏卿ニ稟申シテ許可ヲ受クヘキモノトス

第二十一條

大藏卿ニ於テ必要ナリト思考スルトキハ何時ニテモ此命令書ノ箇條ヲ改正又ハ增創スルコトヲ得

右及命令候也

明治十六年五月十一日

大藏卿 松方正義

此命令ニ基キ日本銀行ニ於テ國立銀行紙幣ヲ銷却センニハ每季合同ノ元資ヨリ生スル利金ヲ以テ各國立銀行ニ區分シ各記名ノ紙幣ヲ對合銷却セサル可カラス故ニ曾ニ其手續ノ煩碎ナルノミナラス之カ爲ニ要スル費用亦洵ニ少シト爲サス乃チ日本銀行ハ紙幣銷却事務開始ニ先チ明治十六年五月十九日ヲ以テ銀行紙幣ヲ合同銷却ト爲サンコトヲ政府ニ願出テタリ卽チ左ノ如シ

各國立銀行紙幣合同銷却ノ儀ニ付請願

今般各國立銀行紙幣遞減銷却取扱方本行ヘ御命令相成候處右取扱方毎季合同ノ元資ヨリ得ル利益ヲ以テ銀行毎ニ區別シ其銀行記名ノ紙幣ヲ對合銷却可致儀ハ實際全國ニ流通セル紙幣總額ノ内ヘ手數頻煩ナルノミナラス時々交換遞送ヲ要スルカ爲メニ彼是費用相嵩ミ加之勘定整理ノ期ニ逼迫シ旁〻不便利ノ儀ト存候間元資公債證書處分ニ從ヒ銷却モ亦合同シテ處分仕度候然ル ニ國立銀行中ニモ合同銷却ヲ欲シ銀行集會所ヨリ別紙ノ通代願ノ依賴ヲ受ケ恰モ本行ノ意見ト其主旨同一ニ出候蓋シ之ヲ以テ推考スルトキハ全國ノ銀行モ概シテ同感ニ可有之候間何卒合同銷却ノ儀御許可ノ上曩ノ御命令書ヲ其旨趣ニ御更正相成隨テ其方法ヲモ御令達相成候樣希望仕候依テ合同銷却處分見込書相添ヘ此段請願仕候也

明治十六年五月十九日

大藏卿松方正義殿

日本銀行總裁 吉原重俊

各國立銀行紙幣合同銷却處分見込書

一 日本銀行ニ於テ各國立銀行紙幣ヲ銷却スルニハ其元資公債證書ノ取扱ニ準ヒ各國立銀行ヲ合同シテ處分スルモノトス

一 日本銀行ハ合同シテ銷却處分ヲ爲スト雖モ其勘定ハ合同紙幣銷却勘定ト各記名紙幣銷却勘定トニ途ニ分ツヘシ其合同紙幣銷却勘定ハ則チ日本銀行ヘ預リタル各國立銀行合同ノ公債證書ヨリ生シタル利子額ヲ以テ現紙幣記名ノ誰タルヲ問ハス又合同シテ銀行紙幣ヲ銷却シ而シテ銀行毎ニ其持分ノ利子額ト其銷却紙幣トヲ對合シテ勘定ヲ爲スヲ云ヒ各記名紙幣銷却勘定ハ銀行毎ニ全ク其記名ノ紙幣ヲ銷却セシ勘定ヲ爲スヲ云フ

一 合同銷却處分例左ノ如シ

公債利子ヨリ生シタル銷却費

甲五千圓
乙壹萬圓
丙貳萬圓
丁參萬圓

合同銷却勘定

甲五千圓
乙壹萬圓
丙貳萬圓
丁參萬圓

計六萬五千圓

各記名紙幣銷却勘定

甲五千圓
乙壹萬圓
丙貳萬圓
丁貳萬五千圓

計六萬圓

一 甲ハ銷却元資ト合同銷却其銀行割合勘定ト其銀行記名紙幣銷却勘定ト同數ナルトキノ勘定ニシテ乙ハ其銀行記名紙幣銷却額多キトキノ勘定丙丁ハ其銀行記名紙幣銷却額少ナキトキノ勘定ナリ

一 乙勘定ノ如ク其銀行ノ記名紙幣實際壹萬圓過銷却トナリタルトキハ其乙銀行ハ殘ル流通紙幣ノ内丙銀行ノ記名紙幣五千圓丁銀行ノ記名紙幣五千圓ヲ己カ記名紙幣ト同視シ其義務ヲ負フモノトス

一 丙丁勘定ノ如ク其丙丁銀行ノ記名紙幣實際ノ銷却額五千圓ツヽ少數ナリシトキハ其丙丁銀行ハ殘ル流通紙幣ノ内各五千圓ハ己カ記名ナルモ其義務ヲ乙銀行ニ移シタルモノトス

一 各國立銀行滿期ニ至リ總決算ノ上自然增減ヲ生スルコトアルトキハ其增減何レノ銀行紙幣ニ係ルヲ問ハス合同銷却勘定ニ於テハ平等ノ得失トシ而シテ各記名紙幣銷却勘定ニハ其持分ノ銀行紙幣增減トシテ計算スルモノトス

一　各國立銀行ノ內鎖店スルコトアルトキハ大藏省ニ於テ如法鎖店處分ヲ爲シ其銀行記名ノ紙幣ハ引揚銷却セラルヽモノトス其時ノ處分例左ノ如シ

譬ヘハ發行紙幣八萬圓ノ銀行鎖店セシトキ

發行額八萬圓　合同銷却法ニ依リ銷却濟（殘）五萬圓　其銀行記名（殘）參萬圓
　　合同銷却法ニ依リ銷却濟（殘）參萬圓　其銀行紙幣銷却高（殘）五萬圓

如斯現況ナルトキハ大藏省ニ於テ其銀行記名紙幣銷却殘五萬圓ヲ悉皆交換引揚ノ處分ヲ爲シ而シテ其內合同法ニ依リ銷却セシ殘參萬圓丈ケ（全ク其銀行ノ負債ノ分）ヲ大藏省ニ於テ直チニ銷却シ貳萬圓（其銀行ヘ移シタル分）ハ日本銀行ヘ下付セラルヘシ日本銀行ハ合同銷却資金ノ內ヨリ貳萬圓ヲ大藏省ヘ償納シテ其紙幣ヲ受取更ニ銷却ノ處分ヲ爲スヘシ

發行額八萬圓　合同銷却法ニ依リ銷却濟（殘）五萬圓　其銀行記名（殘）六萬圓
　　合同銷却法ニ依リ銷却濟（殘）參萬圓　其銀行紙幣銷却高（殘）貳萬圓

如斯現況ナルトキハ大藏省ニ於テ其銀行記名紙幣銷却殘貳萬圓交換引揚ノ處分ヲ爲シ而シテ合同法ニ依リ銷却セシ殘トノ差壹萬圓（其銀行ニ於テ他ノ他行ノ義務ヲ引受ケタリシ分）ハ日本銀行ヨリ納付シテ代リ金ヲ受取リ更ニ合同銷却ノ處分ヲ爲スヘシ

他ノ國立銀行紙幣ヲ大藏省ヘ納付セシ他ノ銀行紙幣壹萬圓ヲ鎖店銀行ノ紙幣ト見做シ（鎖店銀行ノ紙幣壹萬圓ニ過銷却アルニ付之ニテ增減相償フモノナリ）前ノ貳萬圓ト合セ支消セラルヽモノトス

（別紙）

各國立銀行發行紙幣ノ儀ハ國立銀行條例追加第百十二條ニ據リ營業年限內ニ於テ悉皆銷却ス

ヘキニ付本月十一日大藏卿閣下ヨリ全國各國立銀行ヘ御命令書御下付相成其銷却事務ハ都テ貴行ニ於テ御負擔被下候儀ニ有之候處右御命令書ノ趣旨ニテハ每季ノ銷却ニ當リ各銀行ノ紙幣ヲ一行每ニ區別シテ其銷却ヲ了セシムルノ順序ト奉存候得共右ニテハ其取扱ノ際ニ容易ナラサル手數ヲ生シ獨リ貴行ノ御煩勞ノミナラス各國立銀行ニ於テモ亦多少ノ困難ト相成終ニ每季其銷却ヲ整理スル事ハ難出來儀ト奉存候ニ付何卒此紙幣銷却方法ハ全國各國立銀行紙幣ヲ合同シテ之ヲ一銀行ヨリ發行セシモノト看做シ以テ每季ノ銷却ヲ爲スノ手續ニ相成候樣仕度候然ルトキハ其間一時各銀行ノ間ニ銷却高ノ過不足ハ相生シ可申候得共終期ニ至リテ其完了ヲ得ルハ尙ホ區別法ヲ以テスルト同樣ノ儀ト奉存候就テハ右御命令書ノ中區別法ノ御趣旨ニ相成居候條款ヲ合同法ノ順序ニ御更正相願其方法ヲモ大藏省ニ於テ御制定ノ上併セテ御命令被成下候ハヽ一層ノ便利ヲ相增シ候儀ト奉存候

右ノ考按ハ當集會所各國立銀行一同ノ衆望ニ有之且ツ現今出京ノ各地同業中ニモ相諮リ候ニ悉ク同意ヲ表シ候間貴行ニ於テ御同意被成下候ハヽ早々大藏卿閣下ヘ御稟申被下全國各國立銀行ヘ御再命相成候樣仕度此段御賴願申上候也

東京銀行集會所同盟
各國立銀行總代
第三十二國立銀行支店
同
第三十三國立銀行

明治十六年五月十九日

日本銀行總裁吉原重俊殿

政府ハ速ニ此請願ヲ審議シ國立銀行紙幣ノ銷却ハ到底合同ノ方法ニ依ルニ非サレハ徒ニ手數ヲ增スノミナラス自ラ錯雜混亂ヲ極メ日本銀行ニ於テ一手ニ銷却セシムルノ效驗ナキヲ認メ五月三十日合同銷却方法ヲ定メテ各國立銀行及ヒ日本銀行ヘ令達セリ而シテ其方法タル各國立銀行ノ紙幣ヲ銷却スルハ每季紙幣銷却元資公債證書ヨリ生スル利子ヲ以テ準據トナシ總體ノ發行高ヲ合同シテ便宜之ヲ銷却スルモノトス故ニ其年ノ都合ニヨリテ一銀行ノ計算時ニ或ハ紙幣發行高ト實際銷却高ト不權衡ヲ生スルコトアルヘシト雖モ終期ニ至リテ悉皆其銷却ヲ完了スルヲ得ルモノトス當時大藏卿ヨリ各銀行ヘノ達及ヒ合同銷却方法左ノ如シ

日本銀行
同　第三國立銀行
同　第一國立銀行

國立銀行條例追加第百十二條ニ據リ日本銀行ニ於テ各國立銀行紙幣ヲ銷却スルニ付テハ別冊ノ通合同銷却方相定候條右ニ準據シ不都合無之樣處分可致此旨相達候事

明治十六年五月三十日

大藏卿　松方正義

（別冊）

銀行紙幣合同銷却方法

第一條

日本銀行ニ於テ各國立銀行ノ紙幣ヲ銷却スルハ每季紙幣銷却元資金ヨリ生スル利子ノ金額ヲ準據トシ總體ノ發行高ヲ合同シテ便宜之ヲ銷却處分スルモノトス故ニ其年ノ都合ニヨリテハ一銀行ノ計算ニ於テ或ハ紙幣發行高ト其實際ノ銷却高トニ過不足ヲ生スル事アルヘシト雖モ終期ニ至リテ悉皆其銷却ヲ完了スヘキモノトス

第二條

日本銀行ハ每季紙幣銷却元資金ノ利子ヲ管轄廳ヨリ受取ルトキハ其金額ヲ各銀行紙幣發行高ニ對比シテ一行每ニ其季ノ銷却割付高ヲ算定シ其一覽表ヲ製シテ（六月十五日十二月十五日）迄ニ之ヲ大藏省ニ上呈シ各國立銀行ヘハ右期限迄ニ其計算書ヲ發付シテ當季ニ銷却スヘキ銀行紙幣ノ割付高ヲ通知スヘシ

第三條

日本銀行ハ前第二條ニ揭クル利子金ヲ以テ銷却シタル各銀行紙幣ノ合高ヲ取纏メ其發行店每ニ之ヲ區別シ其種類員額及記號番號ノ內譯書ヲ添ヘテ之ヲ大藏省ヘ納付シ大藏省ヨリ請取證書ヲ領收スヘシ

第四條

右ノ受取證書ヲ領受セハ日本銀行ハ各銀行紙幣銷却證書（各行ノ紙幣實際ノ銷却多寡ニ拘ハラス第二條ノ割付高ニ從フヘシ）及ヒ實際銷却シタル紙幣ノ種類員額記號番號ノ內譯書ヲ各國立

銀行へ送付スヘシ

第五條（明治二十三年十一月四日本條削除）

各國立銀行ハ右ノ銷却證書ヲ得タルトキハ紙幣銷却ノ旨ヲ大藏省へ届出テ紙幣下付高ノ內ヨリ該金額ヲ控除シ元高消除ノ書面ヲ作リ之レヲ日本銀行へ送達スヘシ

第六條

各國立銀行ヨリ紙幣銷却ノ旨ヲ大藏省へ届出タルトキハ大藏省ハ各銀行紙幣實際銷却高ノ多寡ニ拘ハラス第二條ノ割付銷却高ニ從ヒ紙幣抵當公債證書ヲ直チニ各國立銀行ニ下付スルモノトス

第七條

各國立銀行中營業滿期ニ至リ發行紙幣尚ホ殘存スルモノハ日本銀行ニ於テ命令書第三條ニ揭クル公債證書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ之ヲ銷却シ尚殘額アレハ命令書第二條ニ揭クル公債證書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ日本銀行ニ預リ置キ以テ右殘存紙幣銷却ノ資ニ充ツルモノトス

第八條

各國立銀行中紙幣銷却未タ完了セサル場合ニ於テ鎭店スルモノアルトキハ日本銀行ハ其銀行ヨリ預リタル紙幣銷却元資ヲ還付シ而シテ其銀行ニ係ル實際銷却高ト割付銷却高トヲ比較シ割付銷却高ノ方多額ナルトキハ大藏省ニ於テ割付銷却高ノ殘額ヲ引換銷却シ實際銷却高ト割付銷却高トノ差額ハ日本銀行ヨリ他ノ銷却元資ヲ上納セシメ大藏省ニ於テ銷却處分スルモノトス若シ又之ニ反シ實際銷却高ノ方多額ナルトキハ大藏省ニ於テ實際銷却高ノ殘額ヲ引換銷

却シ實際銷却高ト割付銷却高トノ差額ハ紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ其代金ヲ日本銀行へ下付シ他ノ銷却元資ニ充タシムヘシ

次テ明治十六年六月七日、日本銀行ハ紙幣銷却ニ關スル國立銀行トノ約定書案ヲ大藏省ニ提出シテ許可ヲ得タリ卽チ左ノ如シ

國立銀行條例追加第百十二條ニ據リ各國立銀行紙幣銷却方ノ義先般本行へ被命候ニ付右御命令書第十九條ニ據リ本行ト各國立銀行トノ間ニ可取結特別約定案起草ノ上東京銀行集會所へ及協議候處同盟銀行臨時集會ヲ開キ熟議相遂候處至極妥當毫モ異存無之段同所ヨリ申出候然ル上ハ各地方ノ銀行モ同樣ノ意見ニ可有之最早準備金納付時日モ切迫ニ付別紙約定案相添へ此段及上申候條至急何分ノ義御指揮被下度候也

明治十六年六月七日

日本銀行總裁　吉原重俊

大藏卿松方正義代理

參事院議長山縣有朋殿

（別紙）

日本銀行ト國立銀行ト約定書案

此約定書ハ一銀行毎ニ各別ニ製スルモノナレトモ今暫ク資本金拾萬圓發行紙幣八萬圓準備金貳萬圓ト假定シテ其一例ヲ示ス

某國立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣八萬圓銷却ノ義國立銀行條例追加第百十二條ニ據リ日本銀行ニ於テ之ヲ負擔スルニ付キ明治十六年　月　日附ヲ以テ大藏卿閣下ヨリ此兩銀行ニ下付

セラレタル命令書ノ趣ニ基キ日本銀行ト某國立銀行トノ間ニ約定ヲ締結シ其取扱手續ヲ規定スルコト左ノ如シ

第一條

某國立銀行ヨリ發行シタル紙幣八萬圓ハ國立銀行條例追加第百十二條ニ據リ某國立銀行ノ營業年限卽チ明治何年何月何日迄ニ日本銀行ニ於テ之ヲ遞減銷却スルモノトス

第二條

某國立銀行ハ前第一條ニ記載スル紙幣引換準備金貳萬圓ヲ日本銀行ニ納付シ某國立銀行ノ營業年限內之ヲ定期預ケト爲スヘシ

日本銀行ハ右準備金貳萬圓ヲ以テ利付公債證書ヲ買入レ之ヲ該銀行ニ保管シ置キ年々其利子ヲ以テ某國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ヲ遞減銷却スルモノトス

第三條

某國立銀行ハ前第一條ニ記載スル紙幣ノ銷却ノ爲メ前第二條準備金ノ外更ニ每半季利益金ノ多少ニ拘ハラス該銀行ノ紙幣下付高ニ對シ年二分五厘(卽チ半季一分二厘五毛)ニ當ル金額壹千圓(年貳千圓)ヲ引去リ該銀行ノ營業年限內每年二月一日八月一日迄ニ之ヲ日本銀行ニ預ケ入ルヘシ

日本銀行ハ此預ケ金ヲ以テ利付公債證書ヲ買入レ某國立銀行ノ營業年限內之ヲ日本銀行ニ保管シ置キ年々其利子ヲ以テ某國立銀行ヨリ紙幣ヲ遞減銷却スルモノナリ

第四條

日本銀行ハ前第二條第三條ニ記載スル公債利子ヲ以テ某國立銀行ノ發行紙幣ヲ銷却シ某國立銀行ノ營業年限ニ至リ尙ホ殘存スルモノハ前第三條ニ揭クル公債證書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ悉皆之ヲ銷却シ若シ餘剩ヲ生スルトキハ之ヲ某國立銀行ニ還付スヘシ

第五條

日本銀行ハ某國立銀行ヨリ前第二條ニ記載スル預リ金ヲ受取リタルトキハ第一號雛形ニ據リ定期預證書ヲ交付シ第三條ニ記載スル預リ金ヲ受取リタルトキハ其都度第二號雛形ニ據リ定期預リ證書ヲ交付スヘシ

第六條

前第二條ニ依リ某國立銀行ヨリ日本銀行ニ納付スルトコロノ準備金ハ某國立銀行ノ發行紙幣ノ銷却ヲ完了シタル上日本銀行ヨリ之ヲ某國立銀行ニ還付スルモノトス但某國立銀行ノ營業年限內ニ於テ公債證書ノ價格ノ騰貴ヨリ前第三條ニ記載スル公債證書(卽チ發行紙幣ニ對スル二分五厘ノ金額ヲ以テ買入レタル分)及ヒ其利子ニ減少ヲ生シ之カ爲メ紙幣銷却ノ元資ニ不足ヲ來スコトアルトキハ最初準備金ヲ以テ買入レタル公債證書(卽チ第二條ニ記載スルモノ)ヲ賣拂ヒ其代金ノ內ヨリ之ヲ補充スルモノトス

第七條

某國立銀行ノ紙幣引換準備金ヲ日本銀行ニ預託スルニ付テハ該紙幣引換ノ義ハ國立銀行條例改正第四十九條ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ負擔シ若シ通貨ト交換ヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行本店ニ於テ之ヲ引換フヘシ但大藏卿ヨリ日本銀行ニ命令アルニ於テハ日本銀

行支店又ハ「コルレスポンデンス」店ニ於テ之カ引換ヲナスコトアルヘシ

第八條

第二條第三條ニ記載スル公債證書ノ內若シ公債支銷ノ抽籤ニ當ルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ其當籤金額ヲ受取リ之ヲ右當籤ノ公債額面ニ相當スル他ノ公債證書ヲ買入レ以テ其當籤ノ員額ヲ補充スヘシ而シテ尙ホ餘剩アルトキハ更ニ之ヲ以テ公債證書ヲ買入レ亦以テ紙幣銷却ノ元資ヲ加フヘシ

第九條

前第八條ノ當籤金額ヲ以テ公債證書ヲ買入レ尙ホ端數ヲ生シ公債證書ヲ買入ル可キ員額ニ充タサルモノアルトキハ之ヲ次季ニ繰越シ其第二條ノ公債證書ニ係ルモノハ第二條ノ公債證書次回ノ當籤金額ニ併セ第三條ノ公債證書ニ係ルモノハ第三條ノ公債證書次回ノ當籤金額ニ併セ之ヲ以テ更ニ紙幣銷却ノ元資トシテ公債證書買入レニ充ツルモノトス

第十條

某國立銀行ノ發行紙幣ハ第二條第三條ノ銷却法ニ依リ毎年其流通高ヲ減少スヘシト雖モ某國立銀行ヨリ第三條ニ據リ其紙幣下付高ニ對シ日本銀行ニ預ケ入ルヘキ金額(紙幣下付高ニ對スル二分五厘即チ年貳千圓ニ付半季壹千圓)ハ營業年限內(明治何年ヨリ同何年迄)紙幣流通高ノ減少ニ拘ハラス年々同額ヲ以テ納付シ更ニ增減ナキモノトス

第十一條

某國立銀行ニ於テ第三條ニ記載スル期限內ニ預ケ金ノ納付ヲ怠リタルトキハ日本銀行ハ其

趣ヲ大藏卿ニ稟申スヘシ

第十二條

前第二條第三條及ヒ第八條ニ記載スル公債證書ノ利子ハ毎季日本銀行ニ於テ直チニ東京府廳ヨリ受取リ之ヲ以テ某國立銀行ノ紙幣ヲ引換ヘ之ヲ銷却ヲ爲スヘシ而シテ毎月五日マテニ前月分ノ銷却紙幣ヲ取纏メ之ニ其種類記號番號員額等ヲ記載シタル明細表ヲ添付シテ之ヲ大藏省ニ上納シ且ツ此明細表ノ寫ヲ以テ右期限マテニ之ヲ某國立銀行ニ通知スヘシ

某國立銀行ハ前項ニ記載スル銷却紙幣ノ通知ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ大藏卿ニ屆出テ且ツ同銀行ノ發行紙幣元帳ノ內右銷却シタル紙幣ヲ消除シタル上元帳消除ノ證書ヲ作リ之ヲ日本銀行ニ送致スヘシ

第十三條

此約定書ニ從ヒ某國立銀行ヨリ日本銀行ニ納付スル所ノ金額ハ全ク某國立銀行ノ發行紙幣ヲ銷却スルノ元資ニシテ日本銀行ニ於テ之ヲ融通運轉スヘカラサルハ勿論某國立銀行モ亦其營業年限內ニ於テ不時鎖店ノ場合ヲ除クノ外何等ノ事情アルモ之ヲ引出スヲ得サルモノトス

第十四條

此約定書ニ據リ某國立銀行ヨリ日本銀行ニ納付スルトコロノ金額ハ日本銀行ニ於テ公債證書ヲ買入レ其利子ヲ以テ某國立銀行ノ發行紙幣ヲ銷却スルモノナルカ故ニ日本銀行ハ別段之ニ利子ヲ付セサルモノトス

第十五條

日本銀行ハ某國立銀行ノ爲メ此約定書ニ據リ預リ金取扱方竝ニ發行紙幣ノ銷却方ヲ負擔スルモ別段之カ手數料ヲ收メサルモノトス

第十六條

日本銀行ハ大藏卿ヨリ同銀行ヘノ命令書第十五條ノ旨趣ニ基ツキ特ニ一部ヲ設ケテ此約定書ニ記載スル預リ金取扱竝ニ紙幣銷却等ノ事務ヲ處辨スルモノトス

第十七條

日本銀行ニ於テ此約定書ニ據リ某國立銀行ノ發行紙幣銷却ノ事務ヲ負擔スルニ付テハ各國立銀行ノ分ト其勘定ヲ異ニシテ敢テ混淆スヘカラサルハ勿論ナリト雖モ第二條第三條及ヒ第八條ニ依リ公債證書ヲ買入レ又ハ其抽籤及ヒ賣拂等ノ事ニ於テハ各國立銀行トモ合同シテ之ヲ取扱ヒ別段之カ區別ヲ立テサルモノトス

第十八條

日本銀行ハ某國立銀行ノ發行紙幣銷却ニ關スル事務ノ顚末及ヒ其計算等ヲ報告スル爲メ毎半季之カ報告表ヲ作リ上半季ノ分ハ八月十五日迄下半季ノ分ハ二月十五日迄ニ之ヲ某國立銀行ニ送付スヘシ

第十九條

某國立銀行ハ豫メ大藏卿ニ稟請シテ之カ許可ヲ受クルニ於テハ日本銀行ニ就テ某國立銀行ノ發行紙幣銷却ニ關スル帳簿書類ニ限リ之ヲ查閱スルコトヲ得ヘシ

第二十條

日本銀行又ハ某國立銀行ニ於テ此約定書中明治十六年　月　日附ヲ以テ大藏卿ヨリ兩銀行ニ下付セラレタル命令書ノ旨趣ニ牴觸セサル箇條ニシテ其細目ニ渉ルモノヲ規定若シクハ改正センコトヲ要スルトキハ其實施ヨリ少クトモ一箇月以前ニ於テ互ニ之ヲ通知シ兩銀行ノ協議ヲ以テ之ヲ規定若シクハ改正スルヲ得ヘシ但其都度之ヲ大藏卿ニ稟申シテ許可ヲ受クヘキモノトス

明治十九年九月東京銀行集會所ハ全國各國立銀行ヲ代表シテ銷却銀行紙幣記番號明細書廢止外二件ニ付大藏省ニ願出テタリ

明治十六年太政官第十四號御布告ヲ以テ國立銀行條例御改正相成其追加第百十二條ニ據リ同年五月十一日御命令ノ趣旨ニ基キ銀行紙幣銷却ノ義ハ合同法ヲ以テ施行致來候處尙今般右合同法ノ義ニ付キ各國立銀行一同熟議ノ上別紙廉書ノ通稟請仕候間御採納被成下度此段奉願候也

明治十九年九月十一日

大藏大臣伯爵　松方正義殿

（別紙）

廉　書

第一　銷却銀行紙幣記番號明細書廢止ノ事

全國各國立銀行總代

銀行集會所

銀行紙幣記番號割印元帳ハ各銀行ニ備置其發行紙幣ノ存廢ヲ明瞭ナラシムルモノニ有之候處明治十六年銀行條例御改正相成其追加第百十二條ノ趣旨ニ據リ銀行紙幣銷却ノ義ハ合同法ニ據リ日本銀行ニ於テ擔任セラレ候事ニ相成候ニ付同行ニ於テハ御命令書第十條ニ準シ銷却紙幣上納ノ節其記番號明細書相添ヘ而シテ各銀行ヘモ右記番號寫ヲ以テ通知相成各銀行ニ於テハ之ニ據テ割印元帳ヲ銷却スルノ順序ニ有之候處既ニ合同法ヲ以テ日本銀行ヘ委托致シ候上ハ各銀行ハ其合同銷却割付金高ノ通知ヲ得テ發行紙幣ノ責任ヲ脫シタル勘定ヲ爲スモノニ付右記番號モ格別ノ要用無之モノト存候且ツ又御省記錄局ノ總元帳ヲ消印セラルヽニハ右明細書ニ據ラス現紙幣ヲ以テ對査可相成候由而シテ銀行局ニ於テ調査ノ爲メ備ヘ置カレタル元帳ハ今般廢止セラレ候ヤニ承及候果シテ然ラハ是迄日本銀行ヨリ被差出候明細書ハ以來相廢シ隨テ同銀行ヨリ其寫ヲ以テ各銀行ヘ通知シ各銀行ハ之ニ據テ割引元帳ヲ銷却スルノ順序モ相廢度候尤モ從前各國立銀行ニ供付有之候發行紙幣割印元帳ハ之ヲ御省ヘ上納可仕候ニ付御省ニ於テハ之ヲ參考物トシテ永ク保存セラレ各銀行ニ於テ萬一參照ヲ要スヘキ場合等御座候節ハ閱覽ノ便ヲ得候樣仕度候事

第二　合同法ニ據リ紙幣銷却滿期ニ至リ其過不足ハ各銀行ニテ引受申度事

銀行紙幣銷却ノ義ハ合同法ヲ以テ各銀行營業年限內ニ於テ悉皆銷却可致事ニ御定メ相成居候處現在流通致居候內萬一贋僞鑒識致シ難キモノ相混シ終季ニ至リ過剩有之候歟若シクハ水火難等ニ罹リ發行高ヨリ減少ヲ來シ候樣ノ場合有之候トキハ其損益ノ負擔

第三　銀行紙幣ヲ兌換券ニ御引換ノ事

銀行紙幣銷却方ノ義ハ既ニ前陳ノ通合同法ヲ以テ一切日本銀行ヘ委託致シ其發行紙幣ヲ以テ通貨ニ引換ヲ望ミ候者ハ改正銀行條例第四十九條ニ據リ同行ニ於テ引換可相成筈ニ候處現在流通ノ紙幣ハ殆ント過半損傷トモ可申程ノ汚染ヲ生シ逐年廢棄ニ屬スヘキ有樣ニ候得ハ右引換ノ手數モ次第ニ繁雜ニ可相成奉存候ニ付寧ロ現在流通致居候銀行紙幣ヲ以テ本年ヨリ向三箇年ヲ期シ便宜日本銀行ノ兌換券ヲ以テ御引換相成候樣仕度奉存候尤モ其合同銷却割合ハ紙幣銷却事務御命令書ニ據リ日本銀行ト各國立銀行トノ規約ヲ遵守シ從前ノ計算ヲ以テ每季償還可仕候

兌換券製造入費ノ義ハ各國立銀行ト日本銀行トノ間ニ於テ更ニ熟議ヲ經相當ノ支辨可仕候又兌換券ト御引換相願候ニ付テハ其準備金ノ義ハ豫テ各國立銀行ヨリ發行紙幣抵當トシテ御省ヘ上納仕置候公債證書ヲ抵當トシテ日本銀行ヘ御貸下被成下而シテ每季銷却紙幣ノ割付勘定相濟候上ハ紙幣銷却事務御命令書第十二條ニ準シ銷却高ニ相當スル公債證書ヲ順次御還付被成下度候事

本月十一日銀行紙幣合同銷却法ノ事ニ關シ稟請書進達仕候處右廉書第三項中御尋問ノ條件左ニ答申仕候

第一　抵當公債證書ハ從前ノ通其儘御省ヘ御預リ置キ相成更ニ各國立銀行ノ爲メ日本銀行ヨ

リ發行可相成兌換券ニ對シ其準備銀貨ノ抵當ニ御振替相願候見込ニ御座候

第二　從來ノ銀行紙幣ヲ以テ兌換券ニ御引換ノ手續キハ公然御布達等ニ不相成御省ト日本銀行トノ御手心ニ任セ便宜御交換相願度旨意ニ有之候例令ハ現在流通ノ銀行紙幣參千萬圓ト看做シ此內參百萬圓ハ本年十二月迄其七百萬圓ハ二十年中其壹千萬圓ハ二十一年中其壹千萬圓ハ二十二年中ニ御引換相成度見込ニ御座候且ツ本文三箇年ト申上候ハ其大數ヲ擧ケ候儀ニテ果シテ此三箇年間ニ於テ悉ク引換ヲ爲シ盡スヘキトノ意味ニハ無之候

第三　每季合同銷却ニ充ツヘキモノハ前陳御引換高御內定額ノ外當時流通致居候紙幣ヲ以テ之ニ充テ而シテ右流通紙幣額追々減少シテ每半季銷却ニ不足スル時ハ政府御發行ノ紙幣ヲ流用シテ成規ノ銷却ヲ爲シ而シテ其兌換券ハ日本銀行自店用ニテ發行セシモノトシテ其振替勘定ヲ爲シ各國立銀行ノ責ヲ脫シ候樣可仕見込ニ御座候

第四　御引替場所ハ日本銀行本支店及ヒ同行地方代理店等ニテ便宜取扱相成度奉存候

右ノ外詳細ノ取扱手續ハ御指令相濟候上尙ホ日本銀行ヘ打合各國立銀行ヘモ協議ノ末更ニ申上候樣可仕候也

明治十九年九月十七日

銀行局

常務課御中

銀行集會所

前記請願中廉書第二項竝ニ第三項ノ如キハ國立銀行管理上極メテ重大ノ事件ナルカ故ニ當局者ハ直ニ之ニ向テ指令ヲ與フルコトヲ爲サス徐ニ審議スル事トセリ唯第一項記番號明細書ノ廢止ハ監督上別ニ支障之ナキヲ以テ默許ノ姿ニ經過セシカ明治二十一年七月七日ニ至リ更ニ復日本銀行ヨリ之カ公許ヲ願出テタルニヨリ銀行局長ハ曩ニ銀行集會所ヨリ提出シタル願意ヲ質シ同年十一月三十日其處分ノ決裁ヲ大藏大臣ニ仰ケリ以上關係ノ書類左ノ如シ

銀行紙幣銷却事務命令書第十一條ニ基キ銷却紙幣上納ノ時々其紙幣記番號明細書相添ヘ上納可仕ノ處右手續キ相廢シ度旨去ル十九年七月中同盟銀行熟議ヲ以テ當本行ヘモ協議ノ上銀行集會所ヨリ閣下ヘ及稟請候趣モ有之其已來銷却銀行紙幣上納ノ節ハ其旨ヲ添申シ記番號明細書ハ添付不仕義ノ處右ハ銀行集會所稟請ノ通リ御省記錄局ニ於テ總元帳ヲ消印セラルヽニハ右明細書ニ依ラス現紙幣ヲ以テ對査相成尙ホ且ツ銀行局ニ於テ調査ノ爲メ備ヘ置カレタル元帳ハ先般廢止セラレ候趣ニモ御座候間本行ヨリ銷却銀行紙幣上納ノ節添付スヘキ記番號明細書ハ去ル十九年六月已來ノ分及ヒ右記番號各銀行ヘ通知之義モ同樣相廢シ度候條右許可被成下度此段相願候也

明治二十一年七月七日

大藏大臣伯爵松方正義殿

日本銀行總裁

富田鐵之助

去ル十九年九月十一日各國立銀行總代ヲ以テ銀行紙幣合同銷却法ノ儀ニ付出願仕候處右廉書

第一項銀行紙幣記番號廢止ノ件ハ合同銷却法ニ係リタル節ノ取扱ノミニ止ル義カ又ハ損傷紙幣交換相願候節モ亦同樣記番號ヲ用ヒサルトノ旨意カ申出判然不致ニ付御尋問ノ趣敬承仕候則チ左ニ申上候

本項ハ專ラ合同銷却法ニ就キ出願仕候次第ニ御座候得共條例第五十一條ニ據リ損傷紙幣御交換相願候節モ是迄ノ如ク發行紙幣記入帳ニ登記シ其記番號ノ明細書ヲ添付仕候儀ハ均シク相廢シ合同銷却紙幣取扱ト同樣總テ記番號ハ相用ヒサル樣仕度精神ニ有之候此段答申仕候也

明治二十一年七月十二日

銀行局

常務課御中

銀行集會所

（銀行局長大野直輔ノ伺書）

各國立銀行發行紙幣記入帳同番記號明細書廢止ノ件合同銷却法滿期ニ於ケル流通紙幣過不足高負擔之件現流通高ヲ兌換銀行券ト交換スルノ件別紙銀行集會所請願ノ趣篤ト考按仕候ニ第一項　合同銷却銀行紙幣ニ係ル記入帳及ヒ番記號明細書廢止ノ件ハ銀行條例第五十一條ニ矛盾スルモ同條ノ義ハ損傷銀行紙幣ヲ交換スルノ際處分スルノ手續ヲ示シタルモノニシテ合同銷却紙幣ノ義ハ條例第百十二條ニ據リ處分スヘキハ必然タリ尤モ該條中第五十一條ノ手續云々ト有之ハ單ニ燒棄ノ手續ヲ示シタルモノナレハ合同紙幣銷却ニ添付シテ上納シ來

リシ明細書及ヒ合同紙幣銷却ノ番記號記入ヲ廢止スルハ敢テ差障リモ之レナク加之現今合同銷却紙幣ノ上納高每月平均拾萬圓內外ノ巨額ニシテ一々之ヲ帳記ナスハ實ニ容易ノ事業ニアラス殊ニ合同銷却紙幣ニアリテハ右帳記ヲナスカ故ニ日本銀行ハ每月銷却高ノ番記號ヲ謄寫シテ各國立銀行ヘ送付スルノ手數ヲ執ラサルヲ得ス其煩累モ亦實ニ容易ナラサル義ニ之レアリ亦右帳記ノ義ハ爾時ノ流通高銷却高其他銷却滿期ニ於ケル散失高等參考照查ヲ要スルノ場合ニ於テ多々必要可有之義ニ候得共右等ノ場合ニ際シテハ記錄局主管ノ元帳ニ照合セハ一々明瞭詳悉シ得ヘキ筈ニテ實際强テ差支ナキ義ト思量候間右記入帳ヘ銷却紙幣記入ノ義及ヒ番記號明細書添付ノ義日本銀行ヨリ各國立銀行ヘ同表添付ノ義ハ請願ノ通リ認可セラレ候樣致シ度尤モ該記入帳ノ義ハ開業以來現ニ各自ノ發行高ヲ記載シアル而已ナラス今後損傷紙幣ノ代リトシテ新タニ領收スル處ノ新紙幣ヲモ夫々記載スヘキ筈ニ候ヘハ前陳銷却ノ帳記ヲ廢止スルニモ不拘今後尙ホ必要缺ク可カラサルモノニ付該簿冊ハ從前ノ儘各國立銀行ヘ備ヘ置キ損傷紙幣交換ノ記入ニ供シ候樣御決定相成度候

第二項　流通高過不足負擔ノ件ヲ按スルニ該紙幣ノ性質タル流通上ヨリ論スルモ銀行ノ信用如何ニアラス一ニ政府ノ威信ニ依リテ行ハルヽモノニ有之又引換義務ノ點ヨリ云フモ改正條例ニ據レハ人民ノ通貨ト引換ヲ請フ場合一般流通高銷却ノ場合皆日本銀行ノ負擔處辨ニ歸シ候儀ニ候ヘハ其銷却滿期ノ時ニ生スル利益ノ如キ元ヨリ政府ノ所得ニ歸セシメ當然ノ義ト存候殊ニ今假リニ請願ノ通リ許可セラルヽモノトスルモ右ノ利益ハ獨リ滿期存在銀行ノ所得ニ歸シ其前事故アリ鎖店解散セシ銀行ニアリテハ之カ分配ヲ受ケ得サルノ筋ニテ到

底各銀行平等均一ノ所得トナスヲ得サル儀ニ有之候間本件ハ斷然政府ノ所得トナシ願意認可セラレサル樣致度候

第三項　現流通高交換ノ件ハ同抵當公債證書ヲ賣却シ之カ基金ニ充ツルノ外元ヨリ他ニ當然ノ銷却方法ナキ義ニ有之況ンヤ兌換銀行券ヲ以テ引換ヲナスカ如キハ該銀行券發行額ノ上ニ關係アル義ニシテ本年七月勅令第五十九號同條例改正條項ノ規定ニ對シ到底御詮議難相成義ト存候

右之三件ニ對スル處分ノ見込ハ以上陳述スル通ニ有之候處第二項第三項ノ如キハ國立銀行管理上極メテ重大ノ事件ニシテ且ツ目下至急ニ指令ヲ與ヘサル可カラサル必要モ無之ニ付今一應篤ト考按ヲ盡シ度存候間左按ノ通リ銀行集會所及ヒ日本銀行ヘ御指令相成且ツ合同銷却法ニ付曾テ日本銀行各國立銀行ヘ御下付相成居候命令書中御改正相成度且ツ本年第七十三號勅令諸公債證書條例中條項ノ改正刪除及ヒ元金償還其他取扱手續等變更ノ件ニ據レハ日本銀行ヘノ命令書第十一條中及ヒ各國立銀行ヘノ命令書第十一條中ニ有之「東京府廳ヨリ受取リ之ヲ以テ」ノ十三字モ此際同一ニ刪除致シ度依テ左按之通リ御達相成候樣致シ度此段相伺候也

（達示案略ス）

右ノ稟伺ハ大藏省議ノ決定スル所トナリ翌月二十七日銀行集會所及ヒ日本銀行ニ向テ左ノ指令ヲ與ヘラレタリ

銀行集會所

日本銀行

明治十九年九月十一日附銷却銀行紙幣記番號明細書廢止其他二項出願ノ件左ノ通心得ヘシ

第一項　發行紙幣記入帳ヘ銷却紙幣記入方及ヒ番記號明細書廢止ノ義ハ各國立銀行ニ備ヘ置キ損傷紙幣交換ノ際從前ノ通リ記入スヘシ

第二項第三項　目下何分ノ詮議ニ及ヒ難シ

明治二十一年十二月二十七日

大藏大臣伯爵　松　方　正　義

日本銀行

明治二十一年七月七日附第三七二號銷却銀行紙幣記番號明細書廢止ノ件認可ス

明治二十一年十二月二十七日

大藏大臣伯爵　松　方　正　義

又同時ニ大藏省ハ銀行紙幣合同銷却ニ關スル命令書ニ據リ日本銀行ヨリ政府及ヒ國立銀行ヘ通知スヘキ記番號及ヒ明細書ヲ廢止スルコトヽシ日本銀行及ヒ各國立銀行ヘ向テ左ノ達ヲ發セリ

日本銀行

銀行紙幣合同銷却法ニ付明治十六年五月十一日下付セシ命令書第十一條中「之ニ其紙幣ノ種類記號番號員額等ヲ記載シタル明細表ヲ添付シテ」之二十九字及ヒ「東京府廳ヨリ受取リ之ヲ以テ」之十三字ヲ刪除シ「此明細表ノ寫ヲ以テ」之十字ヲ「其銷却高ヲ」之五字ニ改メ候條此旨相達スヘシ

但本件ニ付別紙寫ノ通リ各國立銀行ヘ相達候條此旨心得ヘシ

明治二十一年十二月二十七日

（別紙）

銀行紙幣合同銷却法ニ付キ明治十六年五月十一日下付セシ命令書第十條中「之ニ其紙幣ノ種類記號番號員額等ヲ記載シタル明細表ヲ添付シテ」之二十九字及ヒ「東京府廳ヨリ受取リ之ヲ以テ」之十三字ヲ刪除シ「此明細表ノ寫ヲ以テ」之九字ヲ「其銷却高ヲ」之五字ニ改メ候此旨相達ス

大藏大臣伯爵　松　方　正　義

各國立銀行

越エテ明治二十二年四月銀行局長ハ尚ホ銷却紙幣ノ種類員數ヲ區別シテ大藏省ニ上納セシムルコトヲ命令書中ニ明記スルノ必要ヲ認メ具案決裁ヲ經テ同月十六日合同銷却ニ關スル命令書追加ノ件ヲ各銀行ヘ達シタリ當時ニ於ケル銀行局長ノ稟議及ヒ各銀行ヘノ達ハ左ノ如シ

合同銷却法ニ據リ日本銀行ヨリ當省及ヒ各國立銀行ヘ通知スヘキ番記號明細表廢止ノ義ハ客年十一月中別冊御決議相成同命令書改正ノ義日本銀行及ヒ各國立銀行ヘ夫々御達相成居候處右改正以來ハ日本銀行ヨリ各國立銀行ヘ對シ曾其金額而已ヲ通知シ種類内譯ケヲ報知不致爲メニ各國立銀行ニ於テ取扱上差支居候趣然ルニ右改正ノ義ハ要スルニ番記號調書記載スルノ手數ヲ省略スルニ止リ種類員額ヲ區別スルノ如キハ現ニ右改正後ニ至リテモ當省ニ對シテハ其時々内譯書ヲ添ヘ上納仕來リ候得共合同銷却法ニ付日本銀行ヘ命令書第十一條中及ヒ各國

立銀行ヘ命令書第十條中其明文無之時ハ往々間違ヲ釀生スルノ恐レモ有之候間今般右兩條中別紙朱書ノ通增補致シ置キ候ハヽ後來日本銀行ニ於テモ其都度各國立銀行ヘ通知可致樣相成候間日本銀行竝ニ各國立銀行ヘ御達ノ義左ニ相伺候也

日本銀行

大藏大臣伯爵　松　方　正　義

銀行紙幣合同銷却法命令書第十一條中別紙朱書ノ通リ追加候條此旨相達ス

明治二十二年四月十六日

（別紙）

合同銷却法ニ付日本銀行ヘ命令書抄錄

第十一條　第二條第三條及ヒ第七條ニ記載スル公債證書ノ利子ハ每季日本銀行ニ於テ直チニ之ヲ以テ各國立銀行ノ發行紙幣ヲ引換ヘ之ニ消印ヲ爲シ而シテ每月五日マテニ前月分ノ銷却高ヲ取纏メ（其種類員額ヲ區分シテ）之ヲ大藏省ニ上納シ且ツ其銷却高（及ヒ其種類内譯ケ）ヲ右期限迄ニ各國立銀行ニ通知スヘシ而シテ各國立銀行ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ大藏卿ニ屆出テシムルモノトス

國立銀行

銀行紙幣合同銷却法命令書第十條中別紙朱書ノ通リ追加候條此旨相達ス

明治二十二年四月十六日

大藏大臣伯爵　松　方　正　義